

分布調査報告書(25)

1998

山形県教育委員会

分布調査報告書(25)

平成10年3月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成9年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果と平成7年度に調査を行った小山崎遺跡の調査成果の一部をまとめたものです。

平成7年度を初年度とする「感性豊かな教育と文化の創造」をめざした第4次山形県教育振興計画で、文化財の保存と活用については文化財基礎調査や遺跡分布調査を計画的に実施し、基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に努めることが大きな柱とされました。

遺跡詳細分布調査は本県の「新総合発展計画」に基づく各種の開発計画と埋蔵文化財包蔵地の調整を第一目的としているものですが、その調査結果は将来施策である周知・普及を目的とした文化財情報システムの構築のための資料ともなります。県教育委員会では周知・普及のため今後も努力を続けてまいり所存です。

それまでの間、年度毎に刊行される本書が各種開発事業計画と埋蔵文化財包蔵地の調整の結果及び経過を記したものであると同時に、埋蔵文化財包蔵地のこれまでの所見を改訂して周知を図るという意味も併せもつものとして活用していただければ幸いです。

また、小山崎遺跡は縄文時代の早期から晩期までのきわめて長期間にわたって営まれた遺跡で、動物の骨や、木製品が出土する遺跡として全国的に脚光を浴びた遺跡です。今回、石器などの出土品について報告できる運びとなりました。遺跡の保存や活用、学術研究、教育活動等の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成10年3月

山形県教育委員会

教育長 金森 義弘

例 言

- 1 本書はI部とII部からなり、I部は平成9年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成9年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書で、II部が平成7年度に実施した小山崎遺跡の発掘調査、範囲確認調査で出土した石器、骨角器、土製品、木製品をまとめた報告書(2)である。
- 2 I部の調査と報告書作成は、山形県教育庁文化財課の渋谷孝雄・名和達朗・長橋 至の3名が担当した。第I章、第III章は渋谷が、第II章はそれぞれの調査担当者が執筆した。
II部の作成は渋谷が担当した。
- 3 I部の第I章に平成9年度の調査遺跡の一覧を、第II章に個々の遺跡の調査結果を記した。新規発見遺跡・抹消遺跡・範囲・位置の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 I部、II部とも挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。ただし、I部の第II章2以下はこれをさらに縮小して使用した。I部の第II章1の遺跡地名表の番号は当該事業内の遺跡位置図中の番号と一致する。
挿図及び文中の記号はT、TT(、発掘溝、試掘溝)、TP・丸(試掘坑)で赤色部分は遺構、遺物検出、黒色部分は未検出を示す。また、米沢城跡の青色部分は試掘調査で検出した堀跡ないしは池跡を示す。遺跡位置図の赤色部分は遺跡範囲を示し、RP-土器、ST-竪穴住居跡、SB-建物跡、SK-土坑、SD-溝跡、EB-掘り方、SP・EP-柱穴、SX-落込み、SG-旧河川跡を示す。
図版の遺物は2分の1と3分の1を原則とし、3分の1他については各図版に縮尺率を示した。
- 5 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

I 部 目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 遺跡地名表	
(1) 県農林事業関係遺跡	4
(2) 県土木部、健康福祉部、教育庁、企業局所管事業関係遺跡	10
(3) 日本道路公団、地域振興整備公団事業関係遺跡	14
2 試掘調査の概要	
(1) 大縄 1 遺跡	18
(2) 大縄 2 遺跡	20
(3) 太夫小屋 1 遺跡	22
(4) 太夫小屋 2 遺跡	24
(5) 立泉川遺跡	26
(6) 中川原 C 遺跡	28
(7) 西山遺跡	30
(8) 西館遺跡	33
(9) 八反遺跡	36
(10) 的場遺跡	38
(11) 板橋 1 遺跡	42
(12) 板橋 2 遺跡	46
(13) 蔵増押切遺跡	50
(14) 阿部塚遺跡	54
(15) 中袋遺跡	58
(16) 砂子田遺跡	60
(17) 樋渡遺跡	64
(18) 百目鬼遺跡	68
(19) 萩原遺跡	72
(20) 谷柏 J 遺跡	76
(21) オサヤズ遺跡	80
(22) 上ノ代 1、2 遺跡	84
(23) 中山城跡、上ノ山館跡	88
(24) 飛泉寺跡遺跡	104
(25) 小葉水遺跡	106
(26) 一ノ坪遺跡	108
(27) 梅ノ木遺跡	112
(28) 高瀬山遺跡	116
(29) 落衣長者屋敷遺跡	118
(30) 大樽遺跡	120
(31) 藤島 D 遺跡	124
(32) 城南一丁目遺跡	128
(33) 大浦 d 遺跡	160
(34) 四ツ塚遺跡	164
(35) 田制館跡	166

(36) 米沢城跡	170
(37) 荒屋原遺跡山王地区	174
3 記録保存調査の概要	
(1) 家際遺跡	176
(2) 飯沢館跡	192
(3) 飯沢北館跡	196
(4) 古屋敷遺跡	200
(5) 欠の上遺跡	210
(6) 下柳 A 遺跡	224
(7) 北柳 2 遺跡	229
III まとめ	
1 新規発見遺跡	234
2 範囲、位置等の訂正を要する遺跡	234

附表目次

表-1 平成 9 年度分布調査遺跡一覧	2
表-2 調査工程表	3
表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)	236

挿図目次

第 1 図 県農林事業関係遺跡位置図(1)	6
第 2 図 県農林事業関係遺跡位置図(2)	7
第 3 図 県土木部、健康福祉部、教育庁、住宅供給公社事業関係遺跡位置図	12
第 4 図 日本道路公団、地域振興整備公団事業関係遺跡位置図	16
第 5 図 大縄 1 遺跡概要図	18
第 6 図 大縄 2 遺跡概要図	20
第 7 図 太夫小屋 1 遺跡概要図	22
第 8 図 太夫小屋 2 遺跡概要図	24
第 9 図 立泉川遺跡概要図	26
第 10 図 中川原 C 遺跡概要図	28
第 11 図 西山遺跡概要図	30
第 12 図 西館遺跡概要図	33
第 13 図 西館遺跡検出遺構平面図	34
第 14 図 八反遺跡概要図	36
第 15 図 的場遺跡概要図	38
第 16 図 的場遺跡検出遺構平面・断面略図	39
第 17 図 板橋 1 遺跡概要図	42
第 18 図 板橋 1 遺跡検出遺構平面・断面略図	43
第 19 図 板橋 2 遺跡概要図	46
第 20 図 板橋 2 遺跡検出遺構平面・断面略図	47
第 21 図 蔵増押切遺跡概要図	50
第 22 図 蔵増押切遺跡検出遺構平面・断面略図	51
第 23 図 阿部塚遺跡概要図	54
第 24 図 阿部塚遺跡検出遺構平面・断面略図	55
第 25 図 中袋遺跡概要図	58
第 26 図 中袋遺跡検出遺構平面・断面略図	59

第27図	砂子田遺跡概要図	60
第28図	砂子田遺跡検出遺構平面・断面略図	61
第29図	樋渡遺跡概要図	64
第30図	樋渡遺跡検出遺構平面・断面略図	65
第31図	百目鬼遺跡概要図	68
第32図	百目鬼遺跡検出遺構平面・断面略図	69
第33図	萩原遺跡概要図	72
第34図	萩原遺跡検出遺構平面・断面略図	73
第35図	谷柏J遺跡概要図	76
第36図	谷柏J遺跡検出遺構平面・断面略図	77
第37図	オサヤズ窯跡概要図	80
第38図	オサヤズ窯跡検出遺構平面・断面略図	81
第39図	上ノ代1、2遺跡概要図	84
第40図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面略図	85
第41図	中山城跡と周辺の城館跡位置図	88
第42図	中山城跡、前森、上ノ山橋跡縄張り図・トレンチ位置図	89
第43図	中山城跡試掘溝平面図(1)	92
第44図	中山城跡試掘溝平面図(2)	93
第45図	中山城跡試掘溝平面図(3)	94
第46図	飛泉寺跡遺跡概要図	102
第47図	飛泉寺跡遺跡検出遺構平面図	103
第48図	小叶水遺跡概要図	106
第49図	一ノ坪遺跡概要図	108
第50図	一ノ坪遺跡検出遺構平面図・断面図	109
第51図	梅ノ木遺跡概要図	112
第52図	梅ノ木遺跡検出遺構平面図・断面図	113
第53図	高瀬山遺跡概要図	116
第54図	落衣長者屋敷遺跡概要図	118
第55図	大樽遺跡概要図	120
第56図	大樽遺跡検出遺構平面図・断面図	121
第57図	藤島D遺跡概要図	124
第58図	藤島D遺跡検出遺構平面図・断面図	125
第59図	城南一丁目遺跡位置図	128
第60図	城南一丁目遺跡トレンチ配置図	129
第61図	城南一丁目遺跡T T 4、6、7 検出遺構平面図、土層断面図	132
第62図	城南一丁目遺跡T 1平面図	133
第63図	城南一丁目遺跡T 2平面図	134
第64図	城南一丁目遺跡T 3平面図	135
第65図	城南一丁目遺跡T 4平面図	136
第66図	城南一丁目遺跡T 5平面図	137
第67図	城南一丁目遺跡T 7平面図	138
第68図	城南一丁目遺跡T 8平面図	139
第69図	城南一丁目遺跡T 9平面図	140
第70図	城南一丁目遺跡T 10平面図	141
第71図	城南一丁目遺跡T 11平面図	142
第72図	城南一丁目遺跡T 12平面図	143

第73図	大浦d遺跡概要図	160
第74図	大浦d遺跡検出遺構平面略測図	161
第75図	四ツ塚遺跡概要図	164
第76図	田制館跡概要図	166
第77図	田制館跡検出遺構平面図	167
第78図	米沢城跡位置図	170
第79図	米沢城跡概要図	171
第80図	米沢城跡遺構平面・断面略図	172
第81図	荒谷原遺跡山王地区概要図	174
第82図	家際遺跡概要図	177
第83図	家際遺跡検出遺構	179
第84図	家際遺跡T 2 検出遺構平面・断面図	180
第85図	家際遺跡T 7、T 4 検出遺構平面・断面図	181
第86図	家際遺跡出土遺物実測図(1)	182
第87図	家際遺跡出土遺物実測図(2)	183
第88図	飯沢館跡概要図	192
第89図	飯沢館跡掘跡平面・断面図	193
第90図	飯沢北館跡概要図	196
第91図	飯沢北館跡検出遺構平面・断面図	197
第92図	古屋敷遺跡概要図	200
第93図	古屋敷遺跡調査区遺構分布図	201
第94図	古屋敷遺跡検出遺構平面・断面図	202
第95図	古屋敷遺跡出土遺物実測図	203
第96図	欠の上遺跡概要図	210
第97図	欠の上遺跡遺構分布図	211
第98図	欠の上遺跡検出遺構平面・断面図	213
第99図	欠の上遺跡出土遺物実測・拓影図	214
第100図	下柳A遺跡概要図	224
第101図	下柳A遺跡検出遺構平面・断面図、出土遺物実測図	225
第102図	北柳2遺跡概要図	229
第103図	北柳2遺跡出土土器平面図他	230

図版目次

図版 1	県農林事業関係遺跡(1)	7
図版 2	県農林事業関係遺跡(2)	8
図版 3	県農林事業関係遺跡(3)	9
図版 4	県農林事業関係遺跡(4)	10
図版 5	県農林事業関係遺跡(5)	11
図版 6	県土木部、健康福祉部、教育庁、住宅供給公社事業他関係遺跡(1)	13
図版 7	県土木部、健康福祉部、教育庁、住宅供給公社事業他関係遺跡(2)	14
図版 8	県土木部、健康福祉部、教育庁、住宅供給公社事業他関係遺跡(3)	15
図版 9	日本道路公団、地域振興整備公団事業関係遺跡	17
図版 10	大縄1遺跡	19
図版 11	大縄2遺跡	21
図版 12	太夫小屋1遺跡	23

図版 13	太夫小屋 2 遺跡	25
図版 14	立泉川遺跡	27
図版 15	中川原 C 遺跡	29
図版 16	西山遺跡(1)	31
図版 17	西山遺跡(2)	32
図版 18	西館遺跡	35
図版 19	八反遺跡	37
図版 20	の場遺跡(1)	40
図版 21	の場遺跡(2)	41
図版 22	板橋 1 遺跡(1)	44
図版 23	板橋 1 遺跡(2)	45
図版 24	板橋 2 遺跡(1)	48
図版 25	板橋 2 遺跡(2)	49
図版 26	蔵増押切遺跡(1)	52
図版 27	蔵増押切遺跡(2)	53
図版 28	阿部塚遺跡(1)	56
図版 29	阿部塚遺跡(2)	57
図版 30	中袋遺跡	59
図版 31	砂子田遺跡(1)	62
図版 32	砂子田遺跡(2)	63
図版 33	樋渡遺跡(1)	66
図版 34	樋渡遺跡(2)	67
図版 35	百目鬼遺跡(1)	70
図版 36	百目鬼遺跡(2)	71
図版 37	萩原遺跡(1)	74
図版 38	萩原遺跡(2)	75
図版 39	谷柏 J 遺跡(1)	78
図版 40	谷柏 J 遺跡(2)	79
図版 41	オサヤズ窯跡(1)	82
図版 42	オサヤズ窯跡(2)	83
図版 43	上ノ代 1、2 遺跡(1)	86
図版 44	上ノ代 1、2 遺跡(2)	87
図版 45	中山城跡他(1)	95
図版 46	中山城跡他(2)	96
図版 47	中山城跡他(3)	97
図版 48	中山城跡他(4)	98
図版 49	中山城跡他(5)	99
図版 50	中山城跡他(6)	100
図版 51	中山城跡他(7)	101
図版 52	飛泉寺跡遺跡(1)	104
図版 53	飛泉寺跡遺跡(2)	105
図版 54	小叶水遺跡	107
図版 55	一ノ坪遺跡(1)	110
図版 56	一ノ坪遺跡(2)	111
図版 57	梅ノ木遺跡(1)	114
図版 58	梅ノ木遺跡(2)	115

図版 59	高瀬山遺跡	117
図版 60	落衣長者屋敷遺跡	119
図版 61	大樽遺跡(1)	122
図版 62	大樽遺跡(2)	123
図版 63	藤島 D 遺跡(1)	126
図版 64	藤島 D 遺跡(2)	127
図版 65	城南一丁目遺跡(1)	144
図版 66	城南一丁目遺跡(2)	145
図版 67	城南一丁目遺跡(3)	146
図版 68	城南一丁目遺跡(4)	147
図版 69	城南一丁目遺跡(5)	148
図版 70	城南一丁目遺跡(6)	149
図版 71	城南一丁目遺跡(7)	150
図版 72	城南一丁目遺跡(8)	151
図版 73	城南一丁目遺跡(9)	152
図版 74	城南一丁目遺跡(10)	153
図版 75	城南一丁目遺跡(11)	154
図版 76	城南一丁目遺跡(12)	155
図版 77	城南一丁目遺跡(13)	156
図版 78	城南一丁目遺跡(14)	157
図版 79	城南一丁目遺跡(15)	158
図版 80	城南一丁目遺跡(16)	159
図版 81	大浦 d 遺跡(1)	162
図版 82	大浦 d 遺跡(2)	163
図版 83	四ツ塚遺跡	165
図版 84	田制館跡(1)	168
図版 85	田制館跡(2)	169
図版 86	米沢城跡	173
図版 87	荒谷原遺跡山王地区	175
図版 88	家際遺跡(1)	184
図版 89	家際遺跡(2)	185
図版 90	家際遺跡(3)	186
図版 91	家際遺跡(4)	187
図版 92	家際遺跡(5)	188
図版 93	家際遺跡(6)	189
図版 94	家際遺跡(7)	190
図版 95	家際遺跡(8)	191
図版 96	飯沢館跡(1)	194
図版 97	飯沢館跡(2)	195
図版 98	飯沢北館跡(1)	198
図版 99	飯沢北館跡(2)	199
図版 100	古屋敷遺跡(1)	204
図版 101	古屋敷遺跡(2)	205
図版 102	古屋敷遺跡(3)	206
図版 103	古屋敷遺跡(4)	207
図版 104	古屋敷遺跡(5)	208

図版105	古屋敷遺跡(6)	209
図版106	欠の上遺跡(1)	215
図版107	欠の上遺跡(2)	216
図版108	欠の上遺跡(3)	217
図版109	欠の上遺跡(4)	218
図版110	欠の上遺跡(5)	219
図版111	欠の上遺跡(6)	220
図版112	欠の上遺跡(7)	221
図版113	欠の上遺跡(8)	222
図版114	欠の上遺跡(9)	223
図版115	下柳A遺跡(1)	226
図版116	下柳A遺跡(2)	227
図版117	下柳A遺跡(3)	228
図版118	北柳2遺跡(1)	231
図版119	北柳2遺跡(2)	232
図版120	北柳2遺跡(3)	233

II 部

目次

IX	出土した石器	237
X	出土した骨角器	246
XI	出土した土製品	247
XII	出土した木製品	248

挿図目次

第1図	出土石器実測図(1)	239
第2図	出土石器実測図(2)	240
第3図	出土石器実測図(3)	241
第4図	出土石器実測図(4)	242
第5図	出土石器実測図(5)	243
第6図	出土石器実測図(6)	244
第7図	出土石器実測図(7)	245
第8図	出土骨角器、骨角製品実測図	246
第9図	出土漆塗土器、土製品実測、拓影図	247
第10図	出土木製品実測図	248

図版目次

図版1	小山崎遺跡出土漆塗土器、漆器	249
図版2	装飾品、アスファルト付着石器、骨角器	250
図版3	出土石器(1)	251
図版4	出土石器(2)	252
図版5	出土石器(3)	253
図版6	出土土製品、木製品	254

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成10年度以降に予定されている開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A 調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B 調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C 調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成9年4月から平成10年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を行うとともに事業予定地区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はIII章のまとめに示した。

表-1 平成9年度分布調査遺跡一覧(1)

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
1	県営ほ場整備事業 県営ほ場整備事業 県営ほ場整備事業 県営ほ場整備事業 県営ほ場整備事業	余目町十六合地区 余目町十六合地区 遊佐町たら林地区 遊佐町たら林地区 遊佐町たら林地区 酒田市西荒瀬地区	大縄縄 1 大縄縄 2 下当山 1 下逆家山 川 際	○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
2	担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業 担い手育成基盤整備事業	川西町諏訪江地区 川西町諏訪江地区 新庄市野中地区 新庄市野中地区 新庄市野中地区 新庄市野中地区 朝日町大谷地区	太夫小屋 1 太夫小屋 2 立泉川 2 立泉川 C 上ヶ丘 原	○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
3	中山間地域総合整備事業 中山間地域総合整備事業 中山間地域総合整備事業	リバーサイド葉山 リバーサイド葉山 酒田市飽海東部 蚕桑西部	羽根沢 C 横山小 校 西山 山 館	○	○		
				○	○		
				○	○		
4	広域営農団地農道整備事業 広域営農団地農道整備事業 広域営農団地農道整備事業 広域営農団地農道整備事業	長井市置賜西部 長井市置賜西部 上山市蔵王山麓 山辺町紅はなの丘	長者原 B 畑ヶ 沢 原 谷	○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
5	一般農道整備事業 一般農道整備事業 一般農道整備事業 一般農道整備事業 一般農道整備事業	東根市長瀬西部2期 飯豊町白樺 飯豊町白樺 飯豊町白樺 飯豊町白樺 最上町万騎が原	八長者原 反 長者原 2 野山 4 横が 山 万騎が 原 a	○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
6	農免農道整備事業 ふるさと農道整備事業	米沢南部2期 長井市成田	下原 a 飯沢北 館				○
							○
8	中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間 中央自動車道上山東根間	天童市成生の 天童市成生の 天童市蔵増 天童市高揃阿 天童市高揃中 天童市高揃砂 天童市高揃影 山形市門田樋 山形市百目鬼 山形市長谷堂 山形市谷柏石 山形市松原六 山形市松原オ	的板橋増押切塚袋田北渡鬼原J田壇 橋 橋 増 部 子 沢 樋 目 柏 石 ヤ 場 1 2 切塚袋田北渡鬼原J田壇 1 2 切塚袋田北渡鬼原J田壇 部 子 沢 樋 目 柏 石 ヤ 部 子 沢 樋 目 柏 石 ヤ	○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
				○	○		
9	山形ニュータウン整備事業 一般国道13号上山バイパス	山形市松原 上山市藤吾〜川口	オミロク火葬墓 上ノ代 1	○			
				○			
10	一般国道13号上山バイパス 一般国道13号上山南バイパス 一般国道13号上山南バイパス 一般国道13号上山南バイパス	上山市藤吾〜川口 上山市藤吾〜川口 上山市川口〜中山 上山市川口〜中山	上ノ代 2 中山 城 上ノ山 館	○			
				○			
				○			
				○			
11	横川ダム建設工事 横川ダム建設工事	小国町市野々 小国町叶水	飛泉寺跡 小 叶 水	○			
				○			

表-1 平成9年度分布調査遺跡一覧(2)

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
12	一般国道287号道路改築長井南バイパス 一般国道287号道路改築長井南バイパス 一般国道345号道路改築 主要地方道山形天童線 主要地方道山形天童線 主要地方道天童寒河江線 主要地方道天童寒河江線 一般県道砂子沢小又釜淵線 一般県道砂子沢小又釜淵線 一般県道綱木西米沢停車場線	長井市 川西町 遊佐町富岡 山形市漆山 山形市漆山 山形市青柳 寒河江市寒河江 寒河江市落衣 朝日村本郷 真室川町三滝 真室川町三滝 米沢市館山	源徳原館 八幡西敷坪木 古一ノ柳A 梅ノ柳A 高瀬山敷 落衣長者屋敷 欠の滝 三滝 三滝 大樽	○			
				○			
				○			
				○			
				○			
				○			
				○			
				○			
				○			
				○			
13	都市計画街路事業藤島停車場笹花線 都市計画街路事業山田善宝寺線	藤島町藤島 鶴岡市山田	藤島山田 山田		○		
					○		
14	健康の森整備事業 山形駅西区画整理事業	山形市青柳 山形市山形	下柳A 城南一丁目			○	
						○	
15	北沢荒廃砂防事業ダム工 箕輪急傾斜地崩壊対策事業	南陽市小岩沢 遊佐町直世	北沢輪 大浦d 四ツ塚	○			
16	県営住宅中田団地改築 県立救護施設みやま荘改築整備事業	米沢市中田 河北町吉田	大浦d 四ツ塚		○		
17	置賜公立病院移転整備事業 米沢工業高等学校解体工事	山形市青柳 川西町西大塚	北柳2 田制館		○		
18	米沢工業高等学校解体工事 総合交流拠点整備	米沢市丸の内 天童市芳賀	米沢城 荒谷原山王		○		
19	赤湯駅西地区住宅団地造成事業	南陽市	沢田		○		
20	赤湯駅西地区住宅団地造成事業	南陽市	沢田		○		
21	赤湯駅西地区住宅団地造成事業	南陽市	沢田		○		
22	赤湯駅西地区住宅団地造成事業	南陽市	沢田		○		
23	赤湯駅西地区住宅団地造成事業	南陽市	沢田		○		

表-2 調査工程表

	調査区分	平成9年度										平成10年
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	
平成9年度以降 農林土木事業他	A		—	—	—	—	—	—	—	—		
	B	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	C			—	—						—	
	立会								—	—	—	
東北中央自動車道 上山〜東根間線	B				—				—	—		
	B									—	—	
山形ニュータウン 整備事業関係遺跡	B										—	—
報告書作成		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

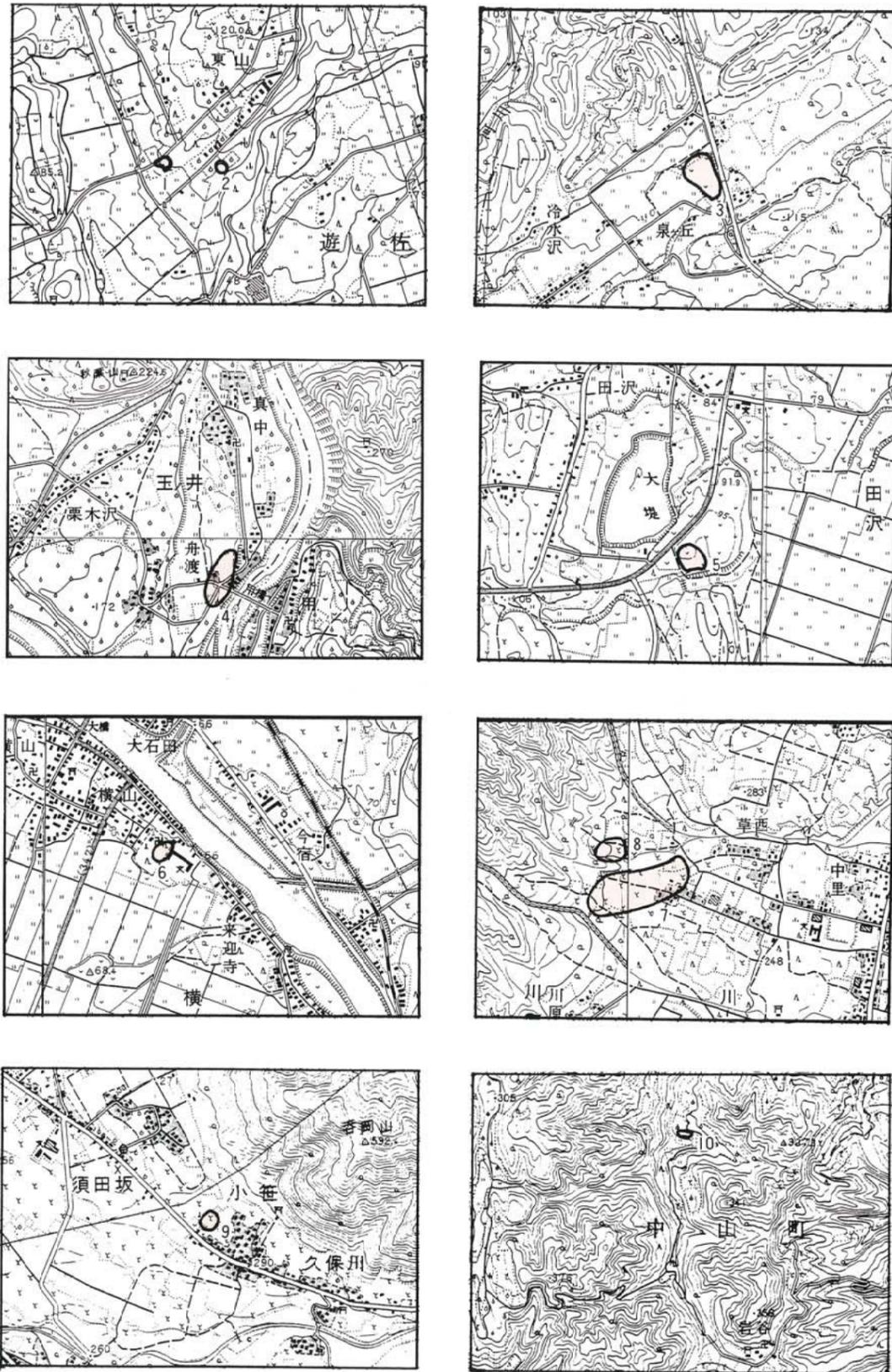
II 調査の概要

1 遺跡地名表

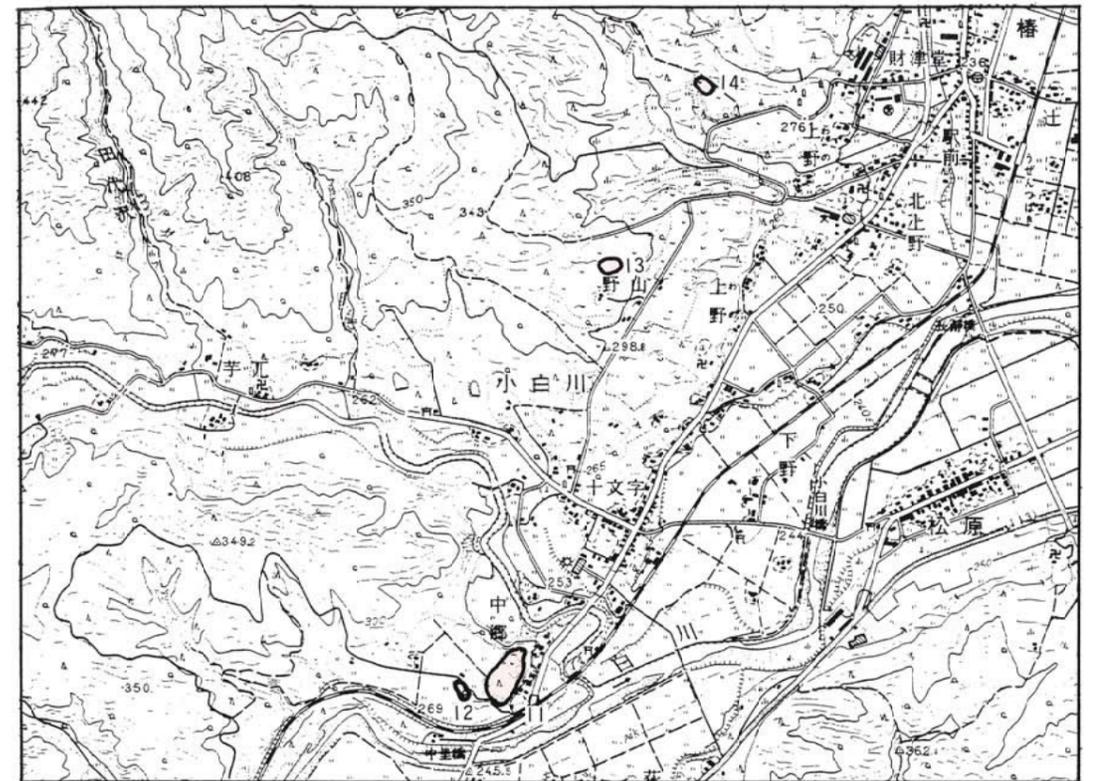
(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	貫坂	飽海郡遊佐町大字当山字大沢尻	縄文時代	山麓 (63m)	水田 山林
2	散布地	下当山	飽海郡遊佐町大字当山字下当山他	縄文時代	山麓 (72m)	水田 山林
3	散布地	泉ヶ丘	新庄市大字十日町字泉ヶ丘	縄文時代	台地 (112m)	水田 畑地
4	散布地	上川原	西村山郡朝日町大字玉ノ井乙字上川原	縄文時代	段丘 (139m)	畑地 樹地
5	散布地	羽根沢 C	北村山郡大石田町田沢	縄文時代 平安時代	丘陵 (90m)	畑地
6	散布地	横山小学校前	北村山郡大石田町横山	平安時代	段丘 (65m)	畑地
7	集落跡	長者原	長井市草岡字長者原	縄文時代	段丘 (280m)	畑地 山林
8	散布地	畑ヶ沢	長井市草岡字畑ヶ沢	縄文時代	段丘 (290m)	畑地
9	散布地	原	上山市大字小笹字原	縄文時代	丘陵 (281m)	畑地
10	包含地	岩谷	中山町大字金沢字天沼1885の14	縄文時代	段丘 (237m)	山林
11	散布地	長者原	西置賜郡飯豊町大字小白川字長者原	縄文時代 (中期)	段丘 (261m)	畑地
12	散布地	長者原 2	西置賜郡飯豊町大字小白川字長者原	縄文時代	段丘 (266m)	畑地
13	集落跡	野山 IV	西置賜郡飯豊町大字小白川字野山	縄文時代	丘陵 (305m)	畑地
14	集落跡	横山	西置賜郡飯豊町大字椿字横山 2908・2909他	縄文時代	丘陵 (285m)	畑地
15	集落跡	方騎の原	最上郡最上町大字富沢字大明神	縄文時代 (中期?)	段丘	畑地 一部グラウンド
16	集落跡	下原 a	米沢市三沢字中瀬戸・下原	縄文時代	段丘 (280m)	水田 畑地

遺跡概要	出土遺物	備考
鳥海山南西山麓、東山集落の西側に位置する。東山地区開拓時に石鏃が出土したが、今回の試掘調査では遺構・遺物は確認できず。		No2104 平成9年10月県教委試掘。範囲要訂正。
鳥海山南西山麓、東山集落南側に位置する。開拓時に縄文時代の石器類が出土したという。今回の試掘調査では遺構・遺物は確認できず。		No2106 平成9年10月県教委試掘。範囲要訂正。
冷水沢公民館北～西側の台地上に立地する。試掘調査の結果、昭和30年代後半の開田により東側畑地以外の大半が破壊されたことが判明。		No886 平成9年10月県教委試掘。範囲要訂正。
和合小学校の北東1.7km、最上川の左岸の低位段丘上に立地する。畑地内に縄文土器片と石器片が散布する。		平成9年度登録。
田沢小学校の南西約700mに位置し、南向きの緩斜面に立地する。畑地内に若干の縄文土器片が散布する。	縄文土器	No855
横山小学校の北西側に隣接する畑地がかつて平安時代の土器が採集されていたが、今回の試掘調査では遺構・遺物とも検出されなかった。		No815 平成9年11月県教委試掘調査実施。
西根小学校の西方約1kmの山麓部に立地する。試掘地点は以前、重機で開墾されたため、遺構・遺物とも検出されなかった。		No3160 平成9年10月県教委試掘調査実施。
西根小学校の南西約900mに位置し、長者原遺跡の沢を挟んだ北川に所在する。試掘地点では、遺構、遺物とも未検出。		昭和57年度登録 平成9年10月県教委試掘調査実施。
県道菅平・矢米線北側～小笹1号線の間、道路脇の電力鉄塔から東へ約150mに位置する。今回、遺跡の西側を試掘した結果は、地区外。		平成7年度登録。 平成9年8月県教委試掘調査実施。
広域関連農道岩谷沼の倉線から林道どんじり線沿いに北東約300mに位置する。鶯沢川右岸に入る沢の右岸に立地する。現況は、杉林。		No402
J R米坂線の子駅の北東約1.7kmに位置し、白川左岸の段丘に立地する。平成6年度分布調査で畑部分から若干の遺物散布を確認。		平成6年度登録。
J R米坂線の子駅の北東約1.4kmに位置し、白川左岸の段丘に立地する。中里橋の北方200mの畑に遺物を散布する。	フレイク	平成9年度登録。
十文字地区北方約900m、野山地区から上野(わの)地区へ至る道路西側の畑地に位置する。		No1517
役場の南西約800m、野山地区から上野地区へ至る道路西側の畑地に位置する。		No1509
富沢橋南側約250m、小国川左岸沿いの段丘面に位置する。富沢中学校のグラウンド造成時に遺物が採集されたという。		No929 遺跡位置要訂正。
最上川右岸と奥羽本線の間、下原地区を中心に位置する。今回は、農道工事による立会い調査を実施。遺構・遺物未検出。		米沢市遺跡地区 No299 平成9年6月県教委立会い調査実施。



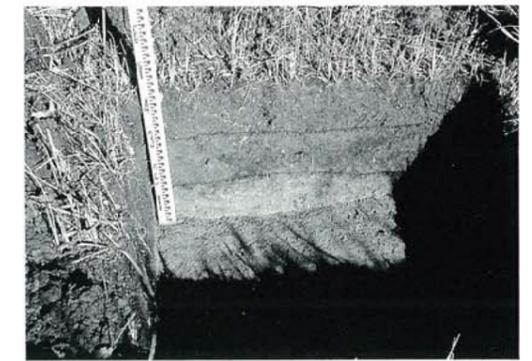
第1図 県農林事業関係遺跡位置図(1)



第2図 県農林事業関係遺跡位置図(2)



貫坂遺跡近景(東から)



貫坂遺跡試掘坑(TP6)

図版1 県農林事業関係遺跡(1)



下当山遺跡近景（南東から）



下当山遺跡試掘坑（T P 15）



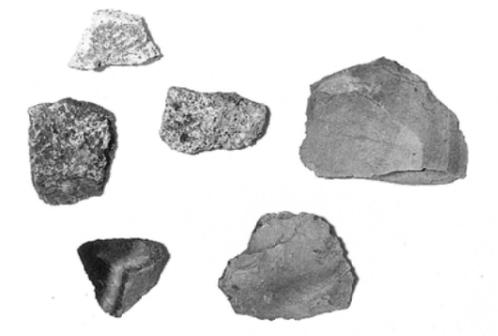
泉ヶ丘遺跡近景（南から）



泉ヶ丘遺跡試掘坑（T P 26）



上川原遺跡近景（南から）



上川原遺跡採集遺物



羽根沢C遺跡近景（南から）



羽根沢C遺跡採集遺物

図版2 県農林事業関係遺跡（2）



横山小学校前遺跡近景（南から）



長者原遺跡近景（北から）



長者原遺跡試掘坑土層断面（南から）



畑ヶ沢遺跡近景（北東から）



畑ヶ沢遺跡試掘坑土層断面（南から）



岩谷遺跡近景（南から）



原遺跡近景（南から）



原遺跡近景調査状況（南から）

図版3 県農林事業関係遺跡（3）



長者原遺跡近景 (西から)



長者原2遺跡近景 (南から)



横山遺跡近景 (東から)



万騎の原遺跡近景 (西から)



長者原2遺跡近景 (北から)



野山IV遺跡近景 (南から)



下原a遺跡近景、試掘溝 (西から)



下原a遺跡土層断面 (T1)

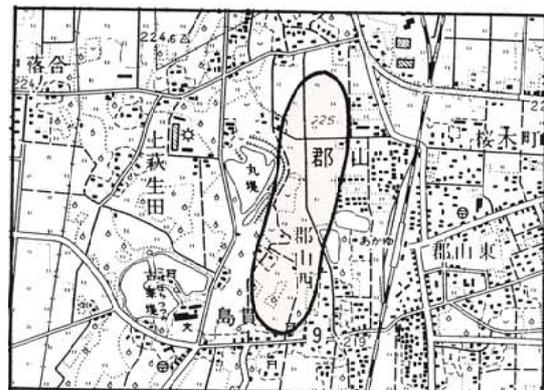
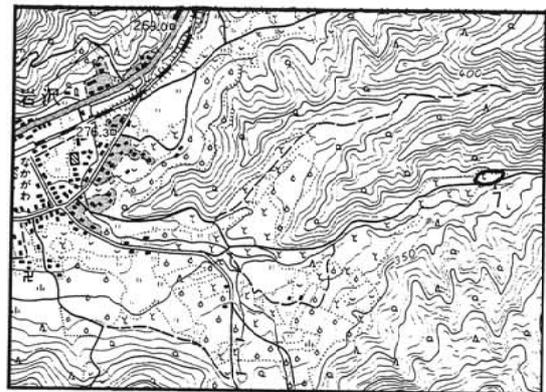
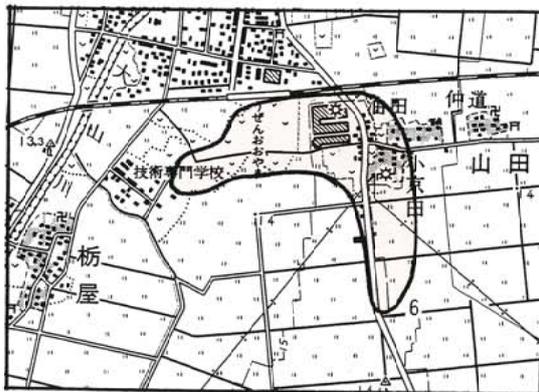
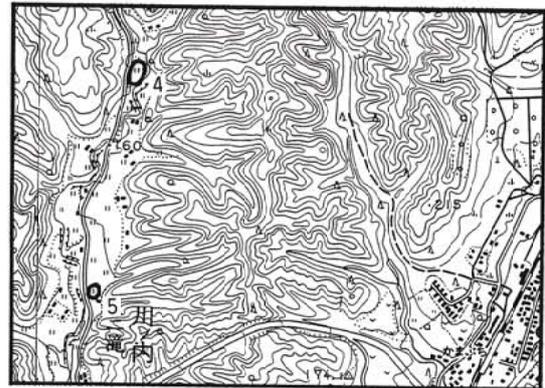
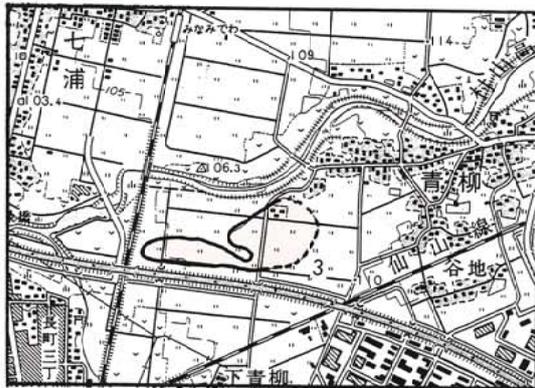
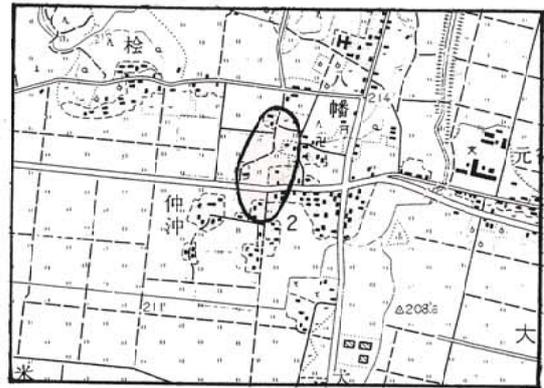
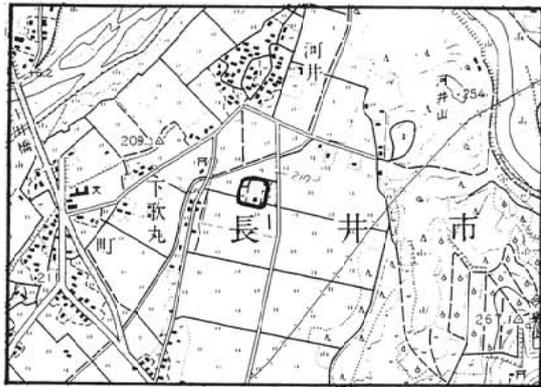
図版4 県農林事業関係遺跡(4)

図版5 県農林事業関係遺跡(5)

(2) 県土木部、健康福祉部、教育庁他所管事業関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	源徳原館	長井市河井字若宮前	中世(戦国期)	平地(209m)	畑地 宅原 地野
2	散布地	八幡西	川西町大字八幡字八幡西	平安時代	自然堤防(209m)	水田 畑地 畑地
3	集落跡	下柳A	山形市大字青柳字上柳	縄文時代 弥生時代 古墳時代	自然堤防(107m)	水田 畑地 畑地
4	散布地	三滝	最上郡真室川町大字川の内字上三滝6の乙	縄文時代	段丘(165m)	水田 荒地
5	散布地	三滝2	最上郡真室川町大字川の内字上三滝	縄文時代	段丘(162m)	畑地 水田 田
6	集落跡	山田	鶴岡市大字山田字油田	古墳時代 奈良～ 平安時代	自然堤防(14m)	水田・畑地 工業用地
7	散布地	北沢	南陽市小岩沢	縄文時代	段丘(340m)	山林
8	城館跡	箕輪桶	飽海郡遊佐町大字直世字箕輪、山田	中世	山稜(50m)	畑地 山地 地
9	集落跡	沢田	南陽市大字島貫、若狭郷屋他	奈良時代 平安時代	自然堤防(223m)	水田 宅地

遺跡概要	出土遺物	備考
河井地区の0.3km南、平地の館跡である。館は宅地、山林原野として遺存。北東南と南に土塁空堀が残る。周囲への広がりも考えられる。		平成6年度登録(山形県中世城館地調査報告書第1集)
八幡地区西側に位置する。東西200m、南北400mの範囲と推定される。遺物は、八幡西公民館南西100mの畑地で採取した。	須恵器	平成9年度登録。
JR羽越本線千歳駅の北西1.2kmに位置し、高瀬川の形成した自然堤防上に立地する。試掘地点では、遺構・遺物とも検出されなかった。		No152 平成9年12月県教委試掘調査実施。
JR奥羽本線釜淵駅の西北西1.5km、三滝川右岸の段丘上に立地する。今回の試掘調査では遺構・遺物とも検出されなかった。		No990 平成9年12月県教委試掘調査実施。
JR奥羽本線釜淵駅の西方1.3km、三滝川左岸の小段丘上に立地する。試掘調査では、遺構・遺物とも検出されなかった。		平成6年度登録。 平成9年12月県教委試掘調査実施。
JR羽越本線大山駅の南側一帯の微高地に立地する。東西800m、南北700mの広大な範囲。今回は、県道拡幅部分について立会調査実施。		No1655 平成9年12月県教委立会調査実施。
JR奥羽本線中川駅の東方1.5kmに位置し、北沢右岸の小段丘上に立地する。東西70m、南北40m程の範囲となり、若干の遺物が散布する。	縄文土器・剥片	平成9年度登録。
JR羽越本線吹浦駅の東方2kmの泥流台地上に立地する。今回の事業区内では中世の遺構は確認されなかった。		No2236 平成9年7月県教委工事立会実施。
JR奥羽本線赤湯駅西側300m一帯に広大な範囲で位置する。今回は、沢田遺跡北側を調査。遺物が出土したため範囲拡大とした。	須恵器・赤焼土器	昭和57年度登録。 平成9年4月県教委試掘調査実施。範囲訂正。



第3図 県土木部・健康福祉部・教育庁・住宅供給公社事業関係遺跡位置図



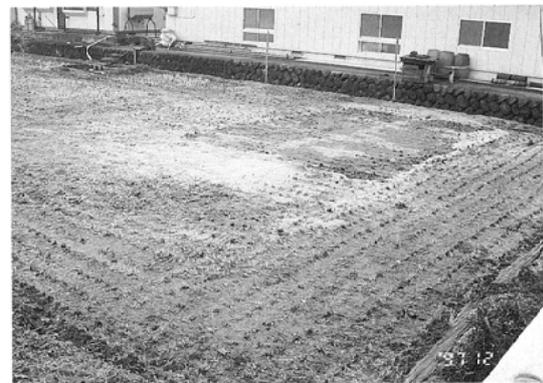
源徳寺原館近景（南から）



八幡西遺跡近景（南から）



八幡西遺跡採集遺物



下柳 A 遺跡試掘前近景（北西から）



下柳 A 遺跡試掘地点全景（北西から）



下柳 A 遺跡試掘地点全景（北から）



三滝遺跡試掘溝全景（北から）



三滝 2 遺跡近景（北から）



三滝2遺跡試掘溝全景（北から）



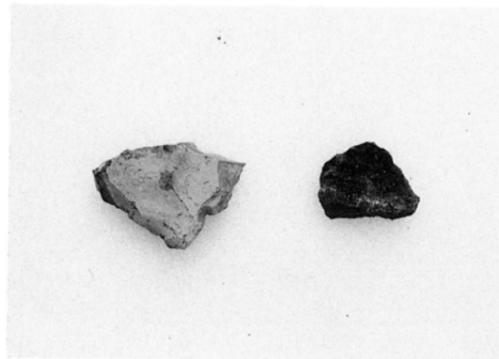
山田遺跡近景（北から）



山田遺跡試掘溝（北から）



北沢遺跡近景（南から）



北沢遺跡採集遺物



箕輪楯跡石積み区画（東から）

図版7 県土木部・健康福祉部・教育庁・住宅供給公社事業他関係遺跡（2）

(3) 日本道路公団、地域振興整備公団関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	影沢北	天童市大字高楯字松葉・影沢北	古墳時代 奈良時代 ?	平地 (93m)	水田
2	包蔵地	石田	山形市大字谷柏字石田	奈良時代 平安時代	平地 (127m)	水田
3	包蔵地	六壇	山形市大字松原字六壇	鎌倉時代	平地 (135m)	水田地
4	墳墓	オミロク火葬墓群	山形市大字松原字弥陸原1416	古 中 代 世	微高地 (192m)	果樹園



箕輪楯跡立会い地点（南東から）



沢田遺跡近景（南から）



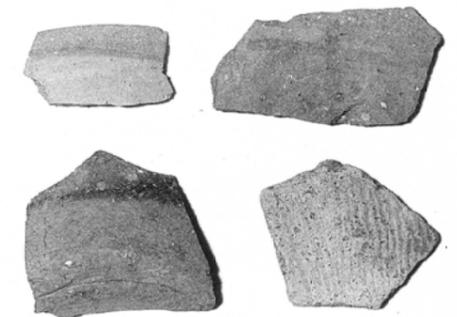
沢田遺跡近景（南東から）



沢田遺跡試掘坑（TP3）



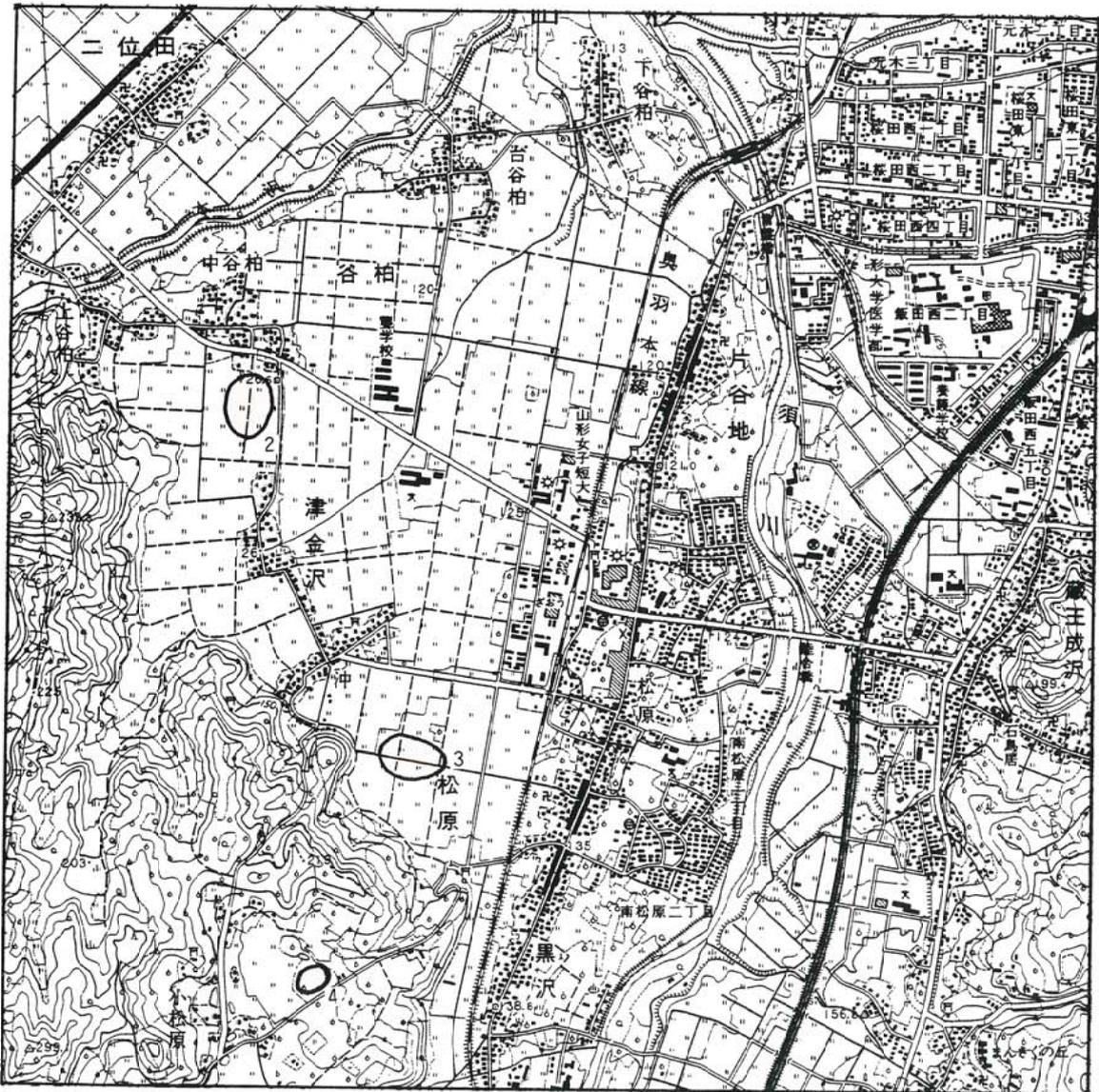
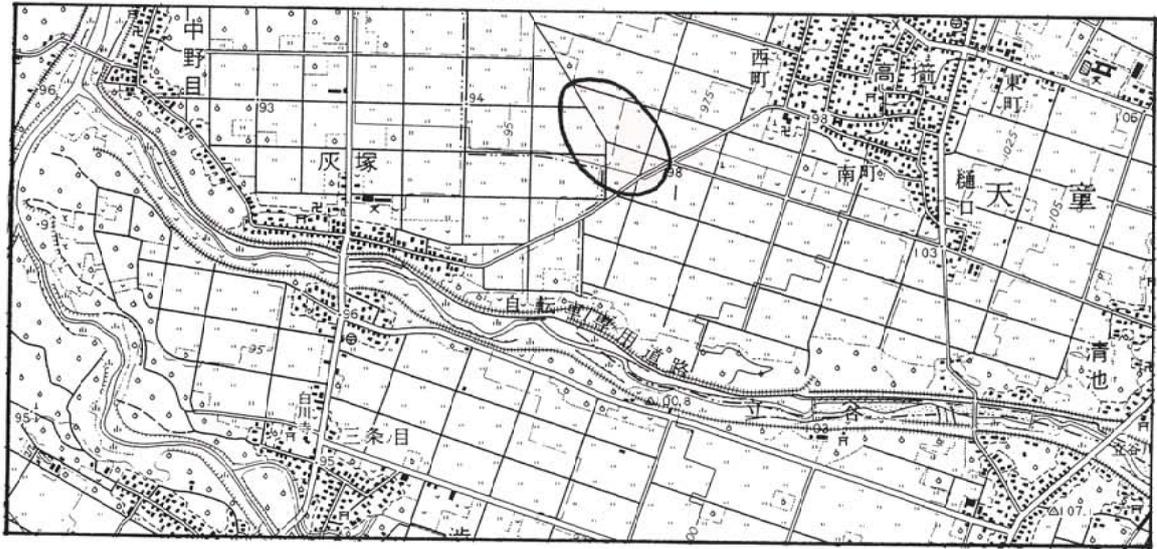
沢田遺跡試掘坑（TP24）



沢田遺跡出土遺物

図版8 県土木部・健康福祉部・教育庁・住宅供給公社事業他関係遺跡（3）

遺跡概要	出土遺物	備考
高楯地区の南西約500m、灰塚地区へ至る道路の北側へ位置する。遺跡範囲の北側一部について試掘調査は、遺構・遺物未検出。		平成2年度登録。 平成9年7月県教委試掘調査実施。
中谷柏・津金沢地区の間に位置する。昭和40年代のほ場整備時に土器多数出土。以前に塚跡（女郎塚と呼称）があったという伝承がある。		No.82 平成9年11月県教委試掘調査実施。
松原、沖地区間の道路南側約100mに位置する。昭和40年代のほ場整備時に土器多数出土。今回の試掘調査は、遺構・遺物未検出。		No.78 平成9年11月県教委試掘調査実施。
JR蔵王駅の南南西約1.6kmに位置し、昭和42年に地下60cmから蔵骨器が出土。再埋葬したが、その後破壊された可能性がある。		No.76 平成9年12月県教委試掘調査実施。



第4図 日本道路公団・地域振興整備公団事業関係遺跡位置図



影沢北遺跡近景（北から）



影沢北遺跡試掘溝（T1、北から）



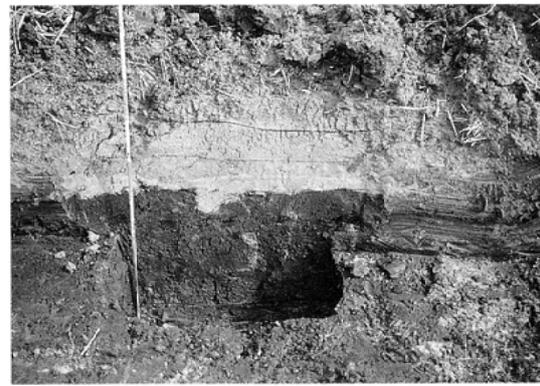
石田遺跡近景（南から）



石田遺跡T2検出状況（南から）



六壇遺跡遠景（南から）



六壇遺跡T4土層断面（西から）



オミロク火葬墓近景（南から）



オミロク火葬墓T1調査状況（南から）

2 試掘調査の概要

(1)大縄1遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県東田川郡余目町大字吉方字大縄12他

調査員 渋谷孝雄

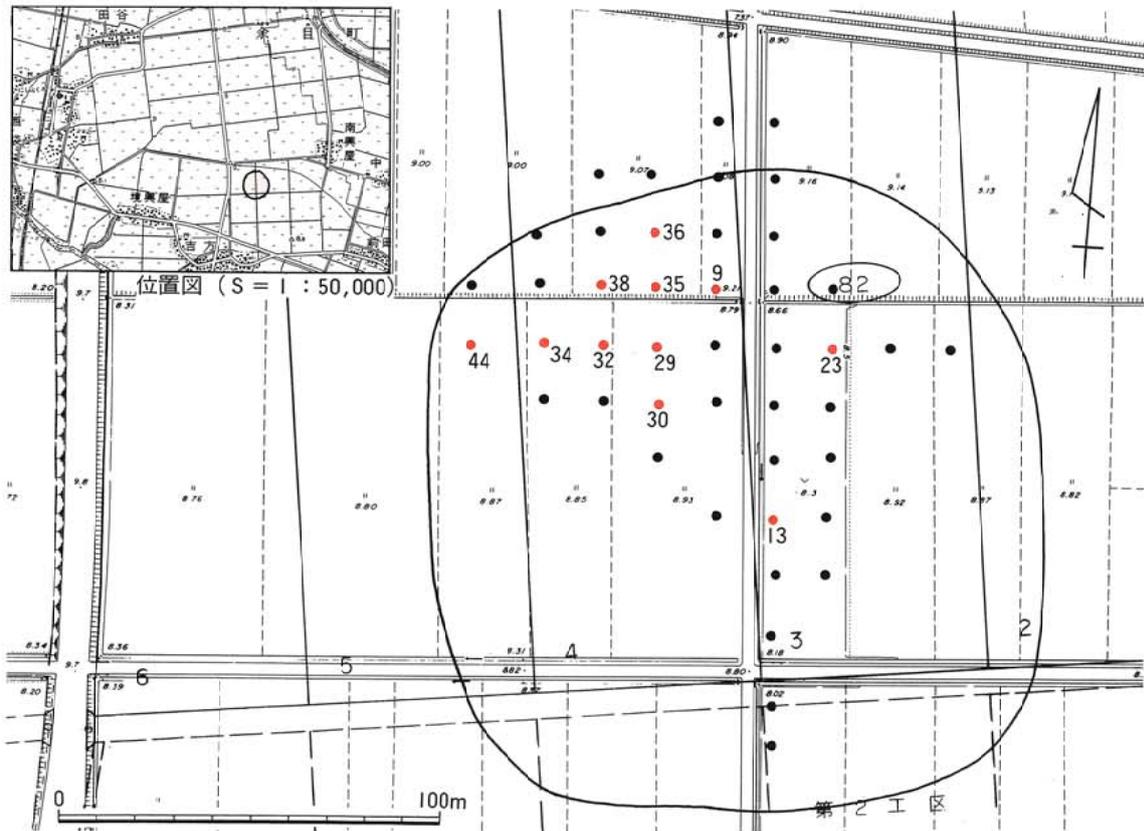
調査期日 平成9年10月20・21日

起因事業 県営ほ場整備事業(十六合地区)

遺跡環境 遺跡はJR羽越本線西袋駅の東南東1.5kmに位置し、庄内平野中央部の周囲より若干高い微高地に立地する。地目は水田で、標高は9m前後を測る。

試掘状況 昨年度の表面調査で遺物を採取した水路を中心として、1×1mの試掘坑を合わせて44箇所を設定して、坪掘りを行った。

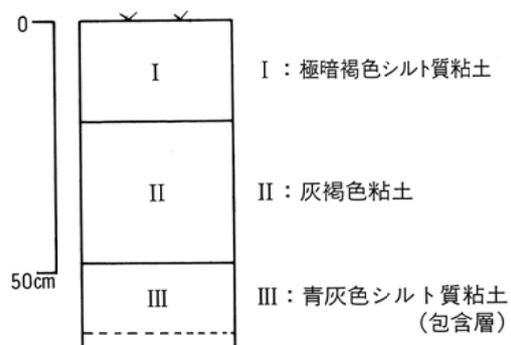
調査結果 44箇所の試掘坑のうち10箇所の試掘坑で遺物が出土し、1箇所では遺構と遺物が検出された。また、現在の水路の中にも遺物が散布しており、これらの状況から遺跡の範囲は東西160m、南北170mとなるものと判断できる。遺物包含層は現地表下45cmから50cmにあるグライ化した青灰色シルト質粘土である。多くの試掘坑では地表下40cm以上は無遺物であったが、土坑とみられる遺構が検出されたTP29では地表下25cmの浅いところで確認面となった。出土した遺物は平安時代の須恵器、赤焼土器、土師器で9世紀代を中心に一部10世紀以降のものも存在する。



第5図 大縄1遺跡概要図



遺跡近景（南西から）



T P 13土層柱状図



T P 13土層断面（西から）



T P 29落込み検出状況（西から）



出土遺物

おこなわ
(2)大縄2遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県東田川郡余目町大字吉方字大縄

調査員 渋谷孝雄

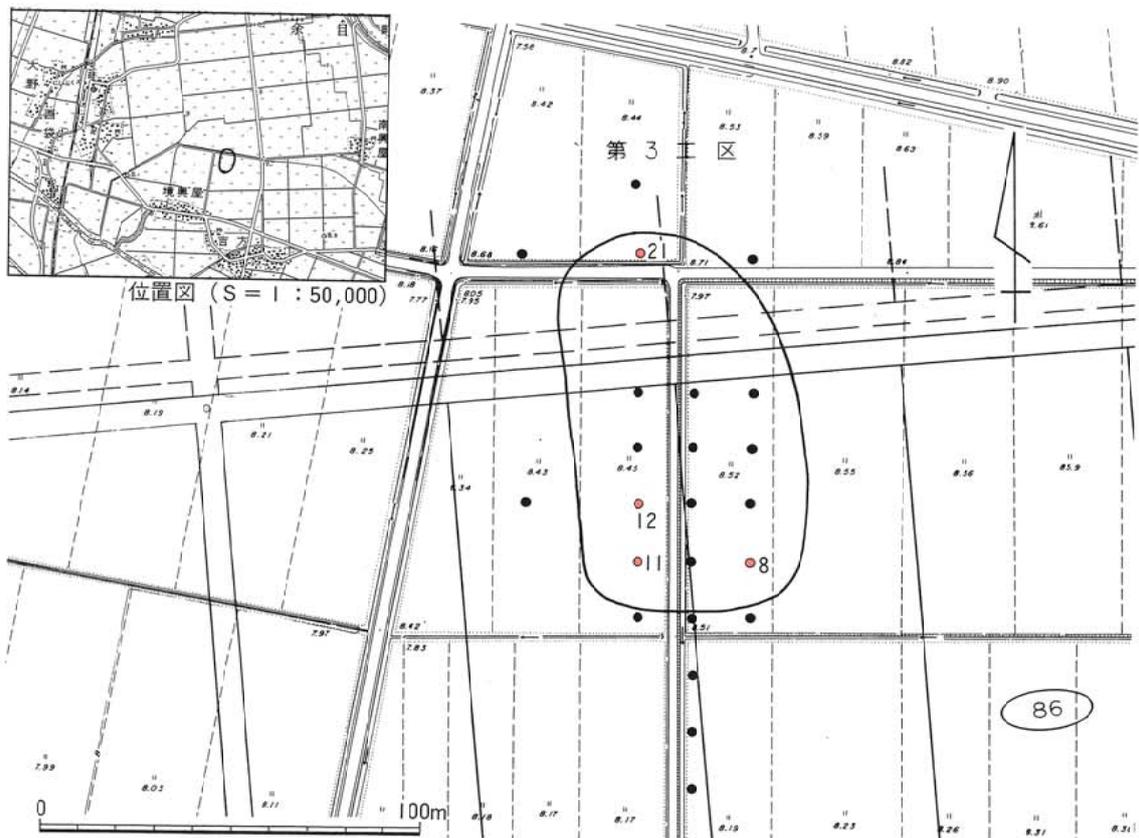
調査期日 平成9年10月22日

起因事業 県営ほ場整備事業 (十六合地区)

遺跡環境 遺跡はJ R羽越本線西袋駅の南東1kmに位置し、庄内平野中央部の平地に立地する。地目は水田で、標高は8.5m前後を測る。

試掘状況 昨年度の表面調査で遺物を採取した水路を中心として、1×1mの試掘坑を合わせて22箇所を設定して、坪掘りを行った。

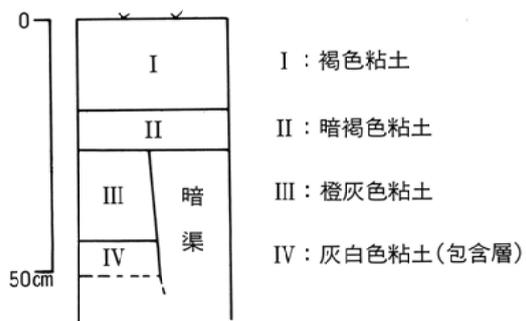
調査結果 22箇所の試掘坑のうち4箇所の試掘坑で遺物が出土した。遺構は確認できなかった。遺跡の範囲は東西60m、南北100mと推定される。主たる遺物包含層は現地地表下40~45cmにあるIV層の灰白色粘土層で大縄1遺跡同様深い位置にある。TP8では須恵器環と赤焼土器甕の破片が各1点出土し、TP11、12からは赤焼土器の甕と埴の体部破片がそれぞれ1点出土した。また、TP21からは糸切り痕をもつ須恵器環の底部破片が1点出土している。これらの遺物は平安時代の9世紀から10世紀の所産と考えられる。今回の調査で遺構は未確認で、出土した遺物量もきわめて少ないが、耕作の及ばない深いところに包含層が存在するため、近年の攪乱による土器の再堆積は否定できる。



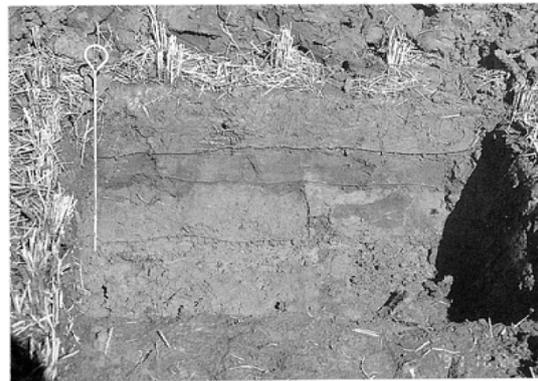
第6図 大縄2遺跡概要図



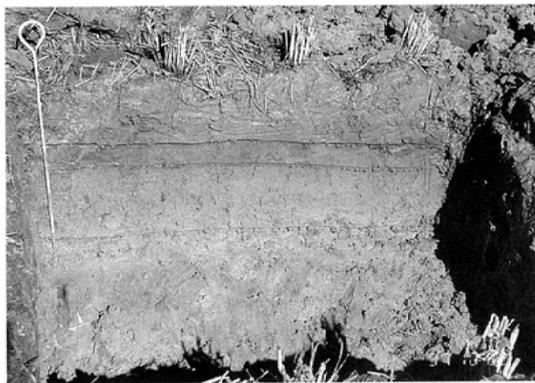
遺跡近景 (南から)



TP8土層柱状図



TP8土層断面 (南から)



TP12土層断面 (南から)



出土遺物

(3) 太夫小屋 1 遺跡 (平成 8 年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字太夫小屋

調査員 渋谷孝雄

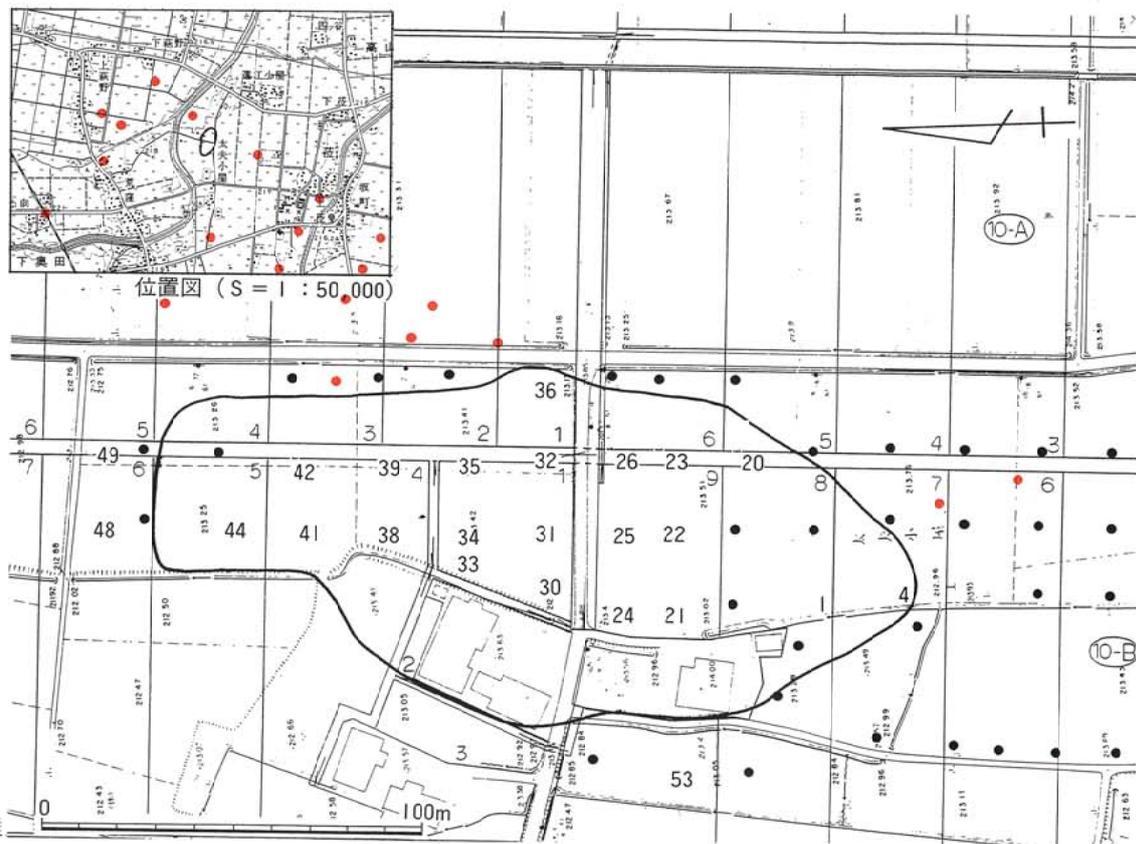
調査期日 平成 9 年 10 月 14～16 日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (諏訪江地区)

遺跡環境 遺跡は J R 米坂線羽前小松駅の南東 2.3km に位置し、黒川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田、宅地、畑地で、標高は 213m 前後を測る。

試掘状況 昨年度登録した遺跡範囲内の事業予定地区内に、 1×1 m の試掘坑を 10～20 m おきに設定し、地山までの掘り下げを行った。その結果、北東部に遺跡の範囲が広がる様相がみられたため、範囲確定のためにさらに試掘坑を追加し、試掘坑の数は全部で 69 箇所となった。

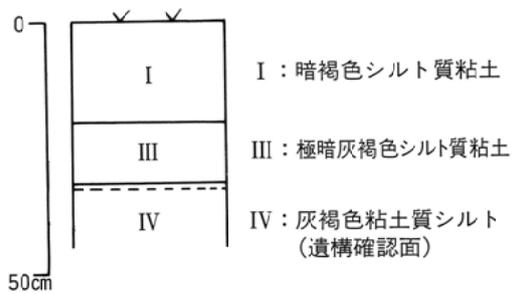
調査結果 23 箇所で見物や遺構が発見され、遺跡の範囲は東西 100m、南北 200m に及ぶことが明らかとなった。多くの試掘坑で現地表下 15～20cm にある水田床土直下が遺構の確認面となり、竪穴住居の一部や土坑、柱穴などが検出された。平安時代の須恵器、土師器、赤焼土器が整理箱で 0.7 箱分出土した。須恵器の底部切離しは回転糸切りが主体を占め赤焼土器の占める割合が高い。このことから、遺跡の存続年代は 9 世紀後半に中心があるものと考えられる。



第 7 図 太夫小屋 1 遺跡概要図



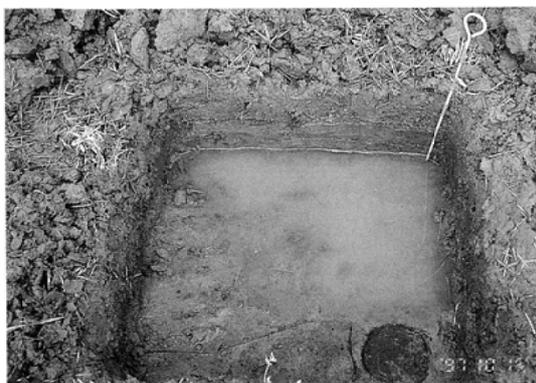
遺跡近景（北東から）



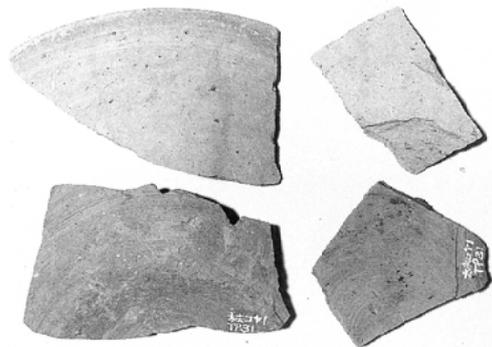
T P 32土層柱状図



T P 32土層断面（南から）



T P 41柱穴等検出状況（南から）



出土遺物

(4) 太夫小屋 2 遺跡 (平成 8 年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字太夫小屋

調査員 渋谷孝雄

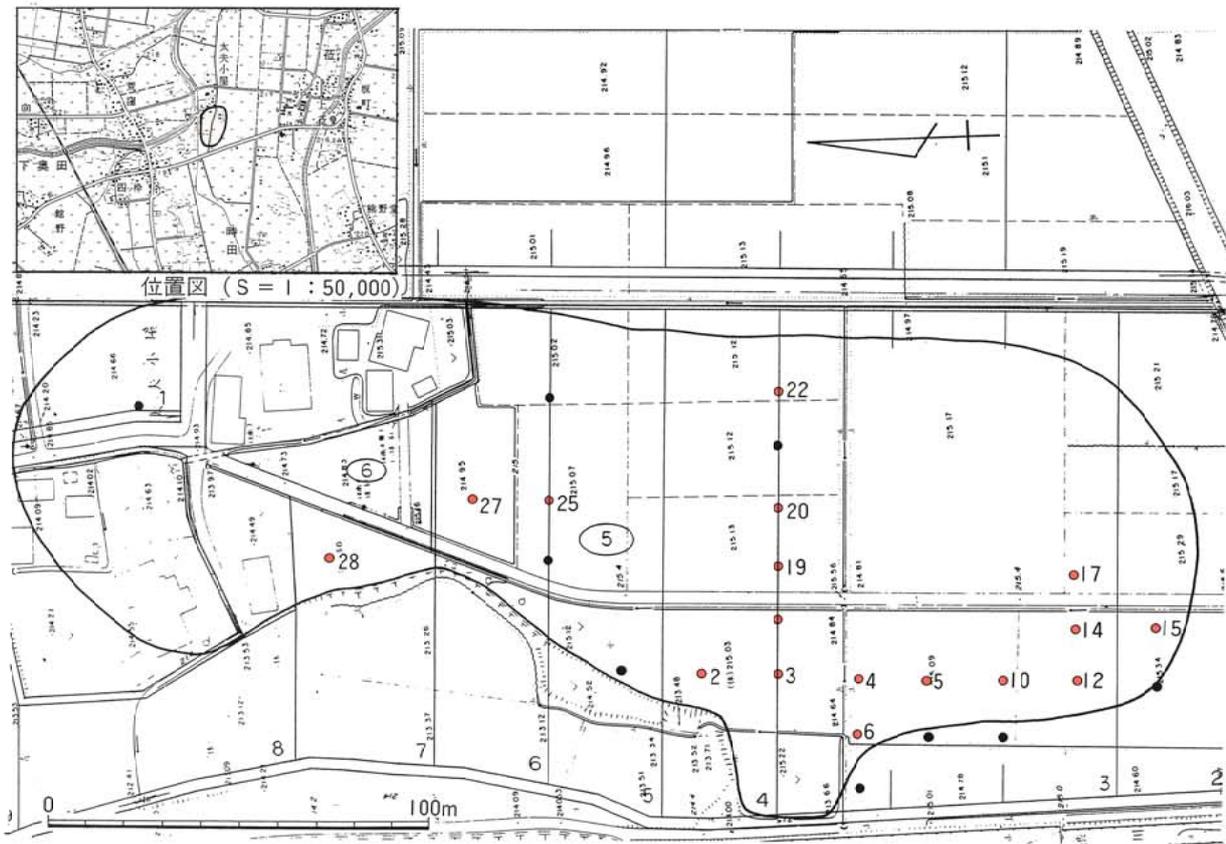
調査期日 平成 9 年 10 月 16 日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (諏訪江地区)

遺跡環境 遺跡は太夫小屋 1 遺跡の南方 500m に位置し、黒川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田、宅地、畑地で、標高は 215m 前後を測る。

試掘状況 昨年度登録した遺跡範囲内の事業予定地区内に、 1×1 m の試掘坑を 10~20 m おきに設定し、地山までの掘り下げを行った。その結果、南部に遺跡の範囲が広がる様相がみられたため、拡大する方向に試掘坑を追加した。試掘坑の数は全部で 29 箇所である。

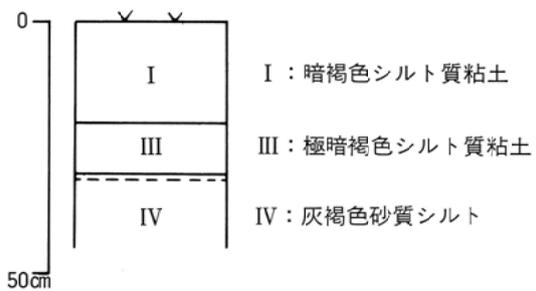
調査結果 17 箇所で遺物や遺構が発見され、遺跡の範囲は東西 130m、南北 320m に及ぶものと推定されるが、今回の調査で把握しきれていない。多くの試掘坑で現地地表下 16~26 cm で遺構確認面、ないしは遺物包含層の上面に達する。竪穴住居の一部や土坑、溝跡、柱穴などの遺構が検出された。出土した遺物は全体で整理箱に 0.3 箱分で、土師器、須恵器、があり、主体を占めるのは平安時代 9 世紀代のものであるが、奈良時代、古墳時代に遡る土師器も存在するようである。次年度以降、さらに詳細な試掘調査を行って、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第 8 図 太夫小屋 2 遺跡概要図



遺跡近景（南から）



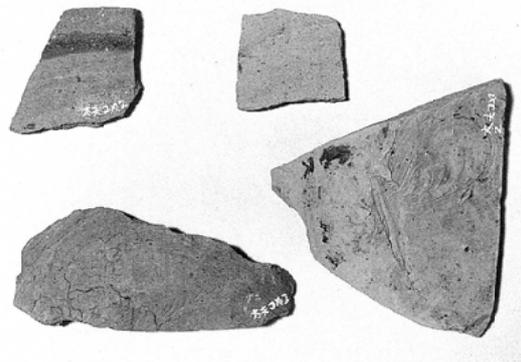
T P 14土層柱状図



T P 24土層断面（東から）



T P 4土層断面・溝跡検出状況（南から）



出土遺物

たらいずみかわ
(5)立泉川遺跡 (昭和56年度登録)

所在地 山形県新庄市大字十日町字立泉川

調査員 名和達朗 長橋 至

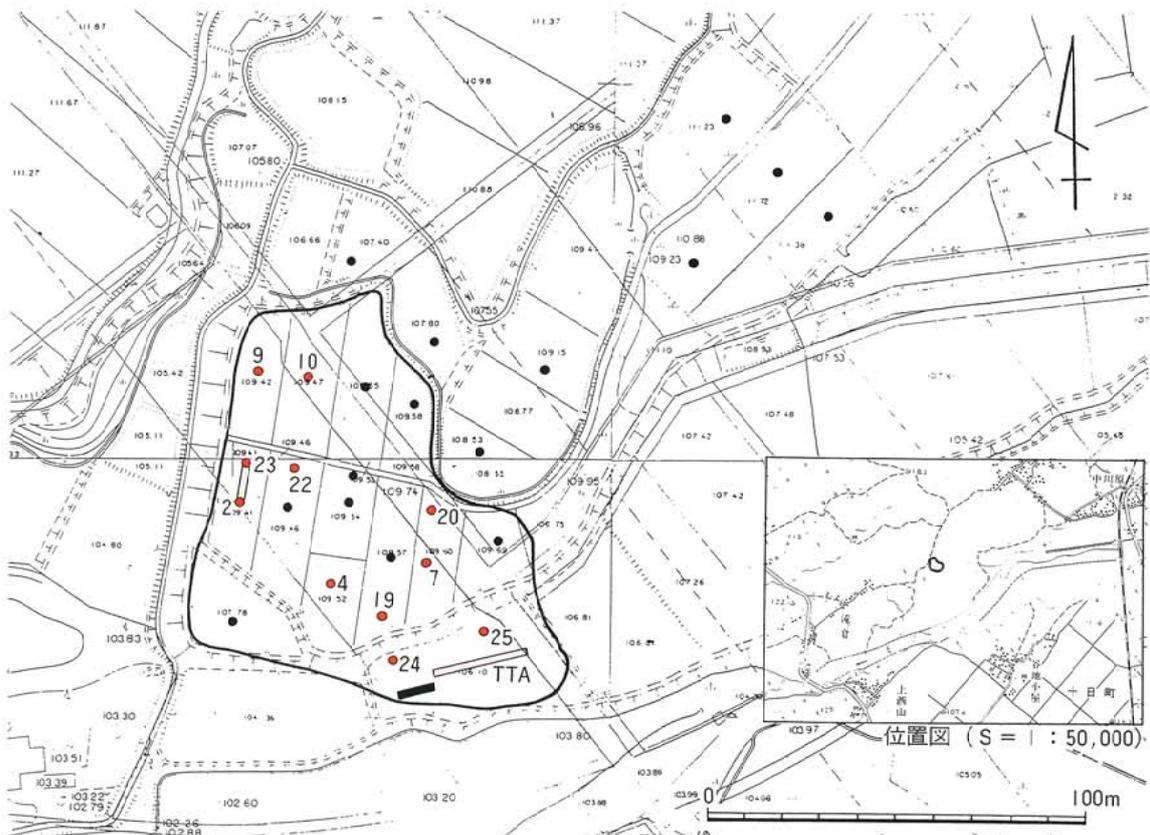
調査期日 平成9年10月21～22日 平成10年1月20日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (野中地区)

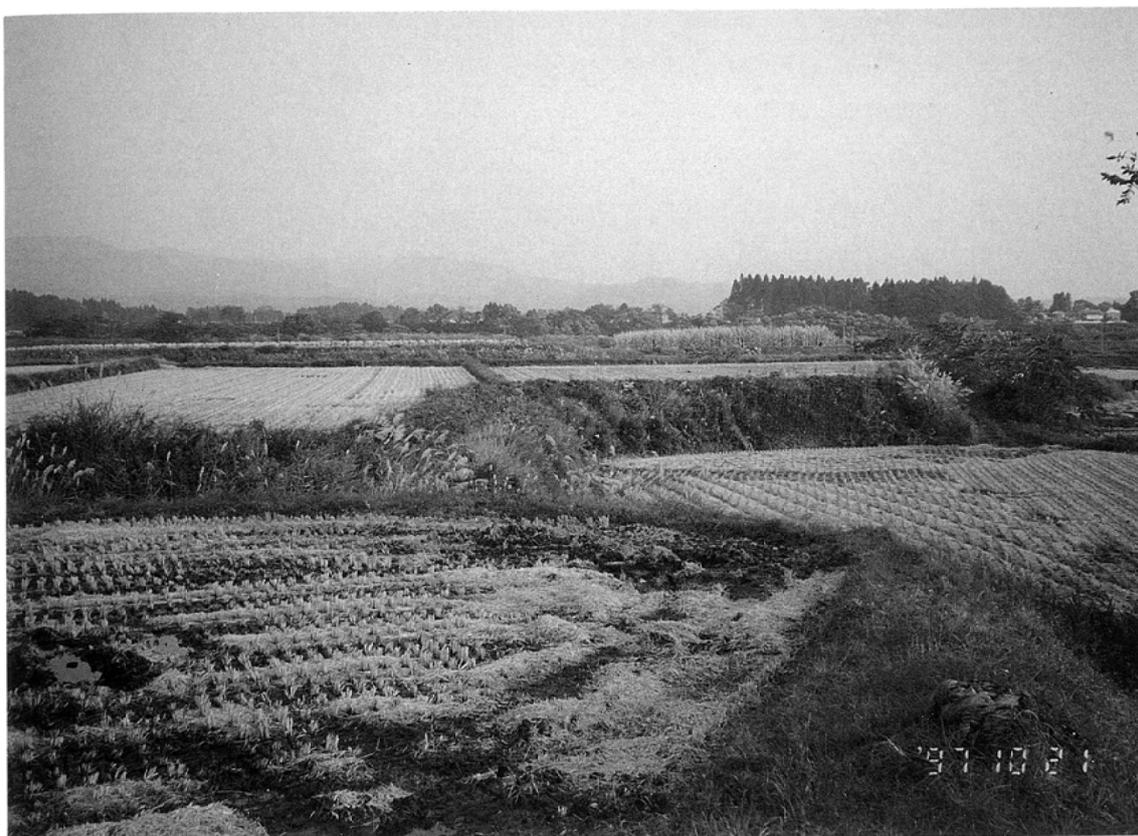
遺跡環境 泉田川右岸の河岸段丘上に立地する。この段丘上には、隣接して中川原・中川原B・中川原Cの遺跡が所在している。いずれも縄文時代の遺跡である。

試掘状況 事業地区内に1×1mの試掘坑(TP)を10～20m間隔で25カ所設定した。1月の追加調査では遺跡南端部にトレンチを2本設定した。

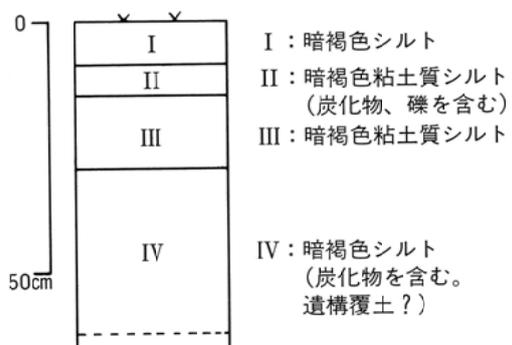
調査結果 遺跡範囲南西側で集中して遺構・遺物が検出された。遺跡北側部分は過去に削平されており、東西100m×南北110mに遺跡範囲を修正する。遺物は、TP2～土器4袋、TP4～石器剥片1、TP9～土器1袋、TP19～土器2袋、TP23～土器・石器剥片少量・磨石1、TP2と23トレンチ～土器1袋、TP24～土器2袋、TP25～土器1袋、TTA～埋設土器。遺構はTP3・4で柱穴、TP7で柱穴と土壇、TP9で落ち込み、TP20・22で土壇が検出された。TP2・10については、土層の状況から遺構覆土の可能性がある。また、TTAでは土壇2・柱穴数基が検出された。本遺跡の時期は出土遺物から縄文時代中期・後期と考えられる。なお、事業計画の変更(盛土)により、遺跡中心部は現状保存されることとなった。南側の一部は平成10年度に記録保存の予定である。



第9図 立泉川遺跡概要図



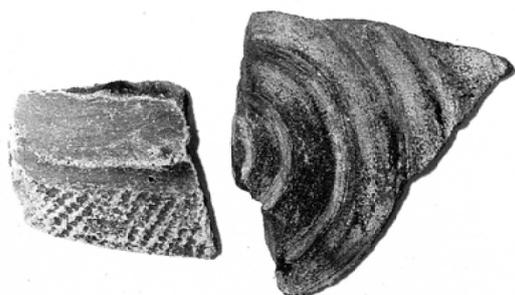
遺跡近景（西から）



T P 2 土層柱状図



T P 22土層断面、検出遺構（西から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(6) ^{なかがわら}中川原C遺跡 (平成8度登録)

所在地 山形県新庄市大字十日町字中川原

調査員 名和達朗 長橋 至

調査期日 平成9年10月23～24日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (野中地区)

遺跡環境 泉田川右岸の河岸段丘上に立地する。この段丘上には、隣接して中川原・中川原B・立泉川遺跡等の縄文時代の遺跡が所在している。

試掘状況 遺跡範囲西半部の事業地区内 (平成9年10月段階で平成10年度事業予定地区と想定された地区) に1×1mの試掘坑を27カ所設定した。東半部は次年度試掘調査予定。

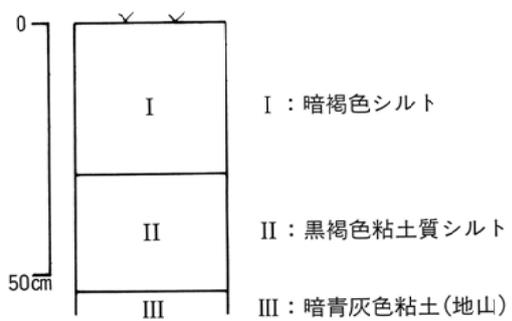
調査結果 調査対象地区の北側で遺物が集中して出土した。東西60×南北60mの不定形な範囲に集中する。この部分は表土下20cm程で遺物包含層となる。各試掘坑の状況は、TP17～石器剥片1、TP18～土器・石器剥片・磨石等3袋、TP23～土器石器等1袋、TP24～石製品1 (石冠) 及び土器等2袋、TP25～土器等1袋、TP26～土器等1袋と柱穴1、TP27～土器・石器剥片等数点の出土である。このほか、調査対象地区全域で少量の遺物が出土しているが、いずれも希薄であり、また遺物包含層はなく、調査状況から2次堆積による出土と考えられた。なお、TP2では、基部・刃部とも欠損しているが、現存長22cmの大形の磨製石斧が出土している。本遺跡の時期は出土遺物から縄文時代中期と考えられる。なお、事業の実施時期は平成10年1月段階で平成11年度以降となっている。



第10図 中川原C遺跡概要図



遺跡近景（東から）



T P 23土層柱状図



T P 24土層断面、遺物出土状況（南から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(7) ^{にしやま}西山遺跡 (遺跡番号2,304)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山谷字西山

調査員 長橋 至

調査期日 平成9年5月19～22日

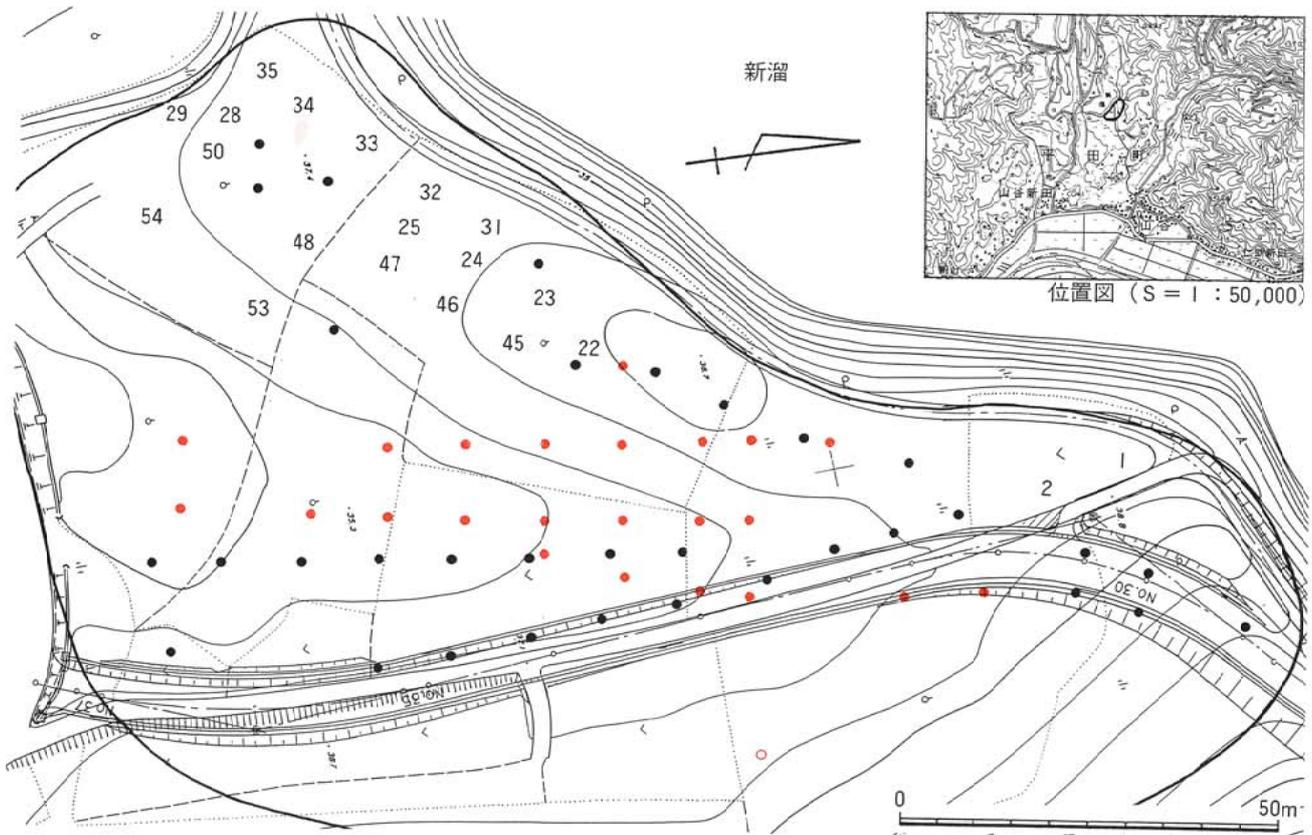
起因事業 中山間地域総合整備事業 (飽海東部地区)

遺跡環境 庄内平野北東部出羽丘陵の台地上に立地する。平田町山谷地区北側500mの山間部に位置し、周辺には山海窯跡、泉谷地窯跡、新溜窯跡等の平安時代を中心とする窯跡が散在する。

試掘状況 事業地区内に1×1mの試掘坑(TP)を10～20m間隔で54カ所設定した。

調査結果 遺跡範囲のうち、北西部の尾根状の部分を中心に縄文時代の遺構・遺物が集中して検出された。TP12・24・25・34・48で柱穴、TP31・45・51・53で土壇や柱穴、TP23・54では竪穴住居跡と考えられる土色の変化が認められた。遺物はTP2・28・47で篋状石器が各1点、TP23で大量の縄文土器と凹石や石器剥片が出土した。これらを含め、全体で11カ所で遺構が確認され、14カ所の試掘坑で遺物の出土があった。遺構・遺物の集中する範囲は東西35×南北70m程である。遺跡東側は、鞍部となっており、遺構や遺物は未検出であった。出土した遺物は、縄文時代中期のものである。

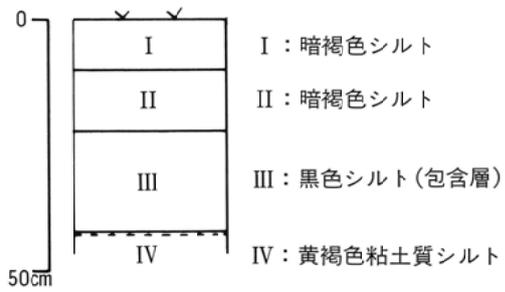
本遺跡については、上記の調査結果に基づき、事業計画の策定(農村公園)にあたり、県農林水産部では、遺構・遺物の集中する範囲を現状保存し、遺跡の保護を図っている。



第11図 西山遺跡概要図



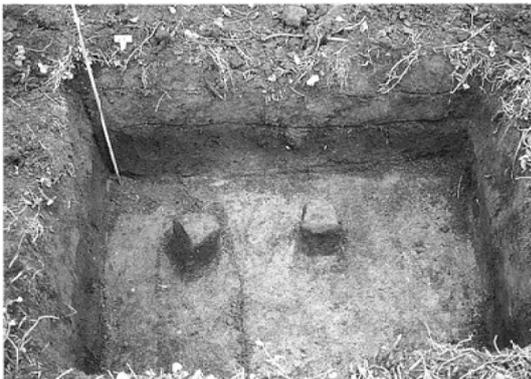
遺跡近景（北から）



T P 23土層柱状図



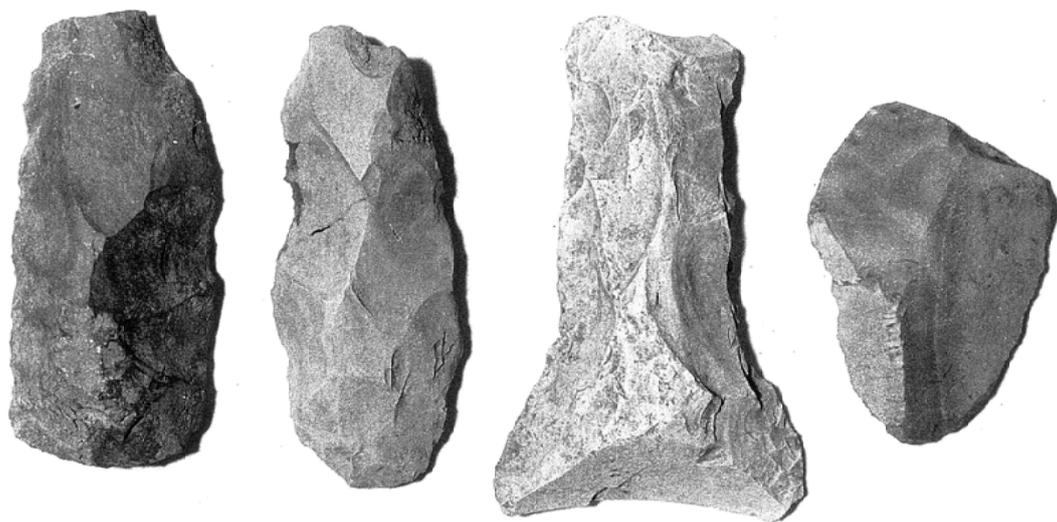
T P 12検出遺構（南から）



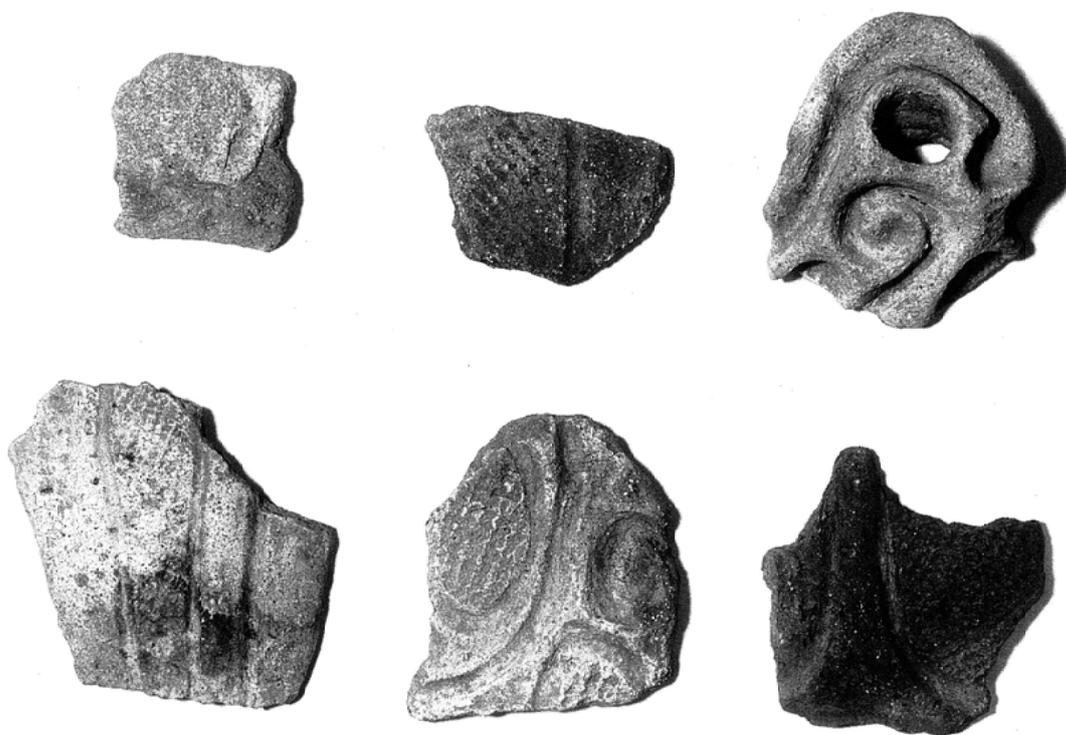
T P 23検出遺構（南から）



T P 45検出遺構（南から）



西山遺跡出土遺物 (1)



西山遺跡出土遺物 (2)

(8) ^{に於て}西館遺跡 (遺跡番号1,474)

所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字横田尻字西館乙

調査員 長橋 至

調査期日 平成9年11月14日

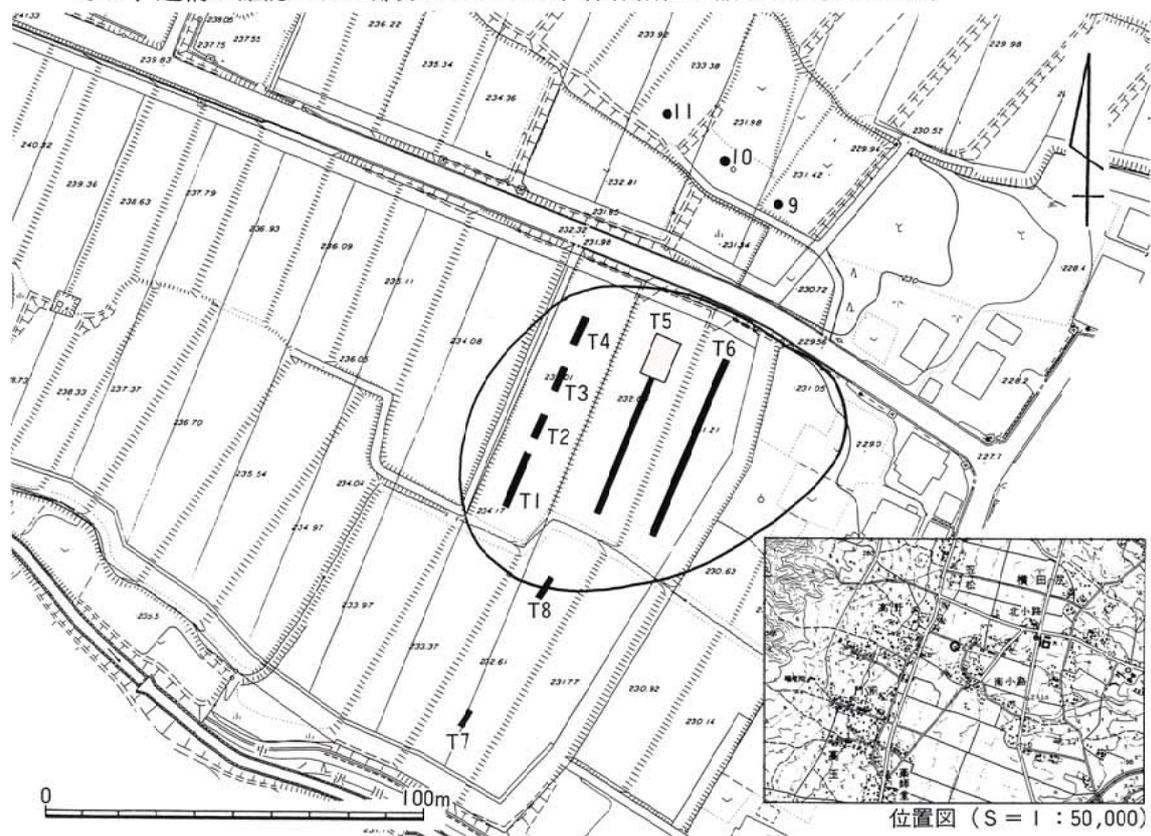
起因事業 中山間地域総合整備事業 (蚕桑西部地区)

遺跡環境 西側山麓から緩傾斜する台地上に立地する。遺跡一帯は過去に水田の基盤整備が行われている。今回調査対象とした東側 (事業地区外) の畑地で過去に縄文時代の石棒 (横田尻地区のふるさと歴史センター保管) が出土したという。

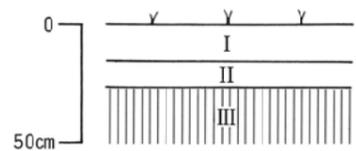
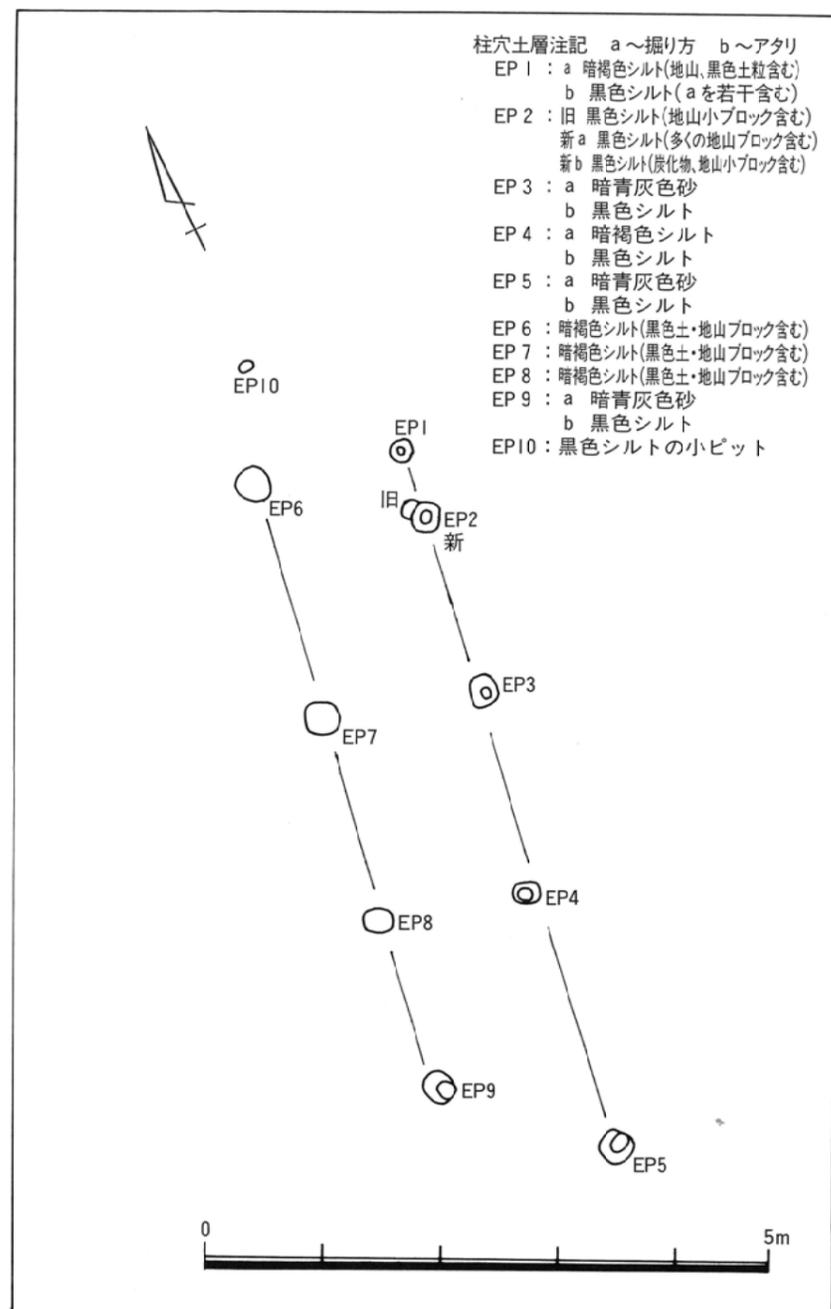
試掘状況 事業地区内に7本のトレンチを設定し、重機で掘り下げた。トレンチは、地元地区の情報から過去に石棒が出土したという東側畑地寄りに主に設定した。遺構が確認されたTT5については、東西7m×南北11mの範囲で拡張し、遺構の広がりを確認した。なお、範囲確認のため、北側の荒れ地に人力による試掘坑TP9~11を3カ所設定した。

調査結果 TT5以外では遺構・遺物は検出されない。過去の基盤整備により大半が破壊されたものと推測される。TT5では、表土から約25cmで青灰色砂の地山 (遺構確認面) となる。遺物包含層はない。検出された遺構は、柱穴 (EP) 10箇で、うちEP1~5、6でアタリが確認された。柱列はEP1~5とEP6~9が直線的に並び、柱間は1.5~2.2mを測る。検出状況から、掘立柱建物跡を構成するものとは考えにくい。今回の調査は、遺構検出にとどめている。遺物の出土はない。

なお、遺構が確認された部分については、保存措置を講ずる必要がある。



第12図 西館遺跡概要図



TT5土層柱状図
I : 暗褐色シルト(耕作土)
II : 暗灰色シルト(小礫を含む)
III : 青灰色砂(遺構検出面)

第13図 西館遺跡検出遺構平面図



遺構検出状況(北から)



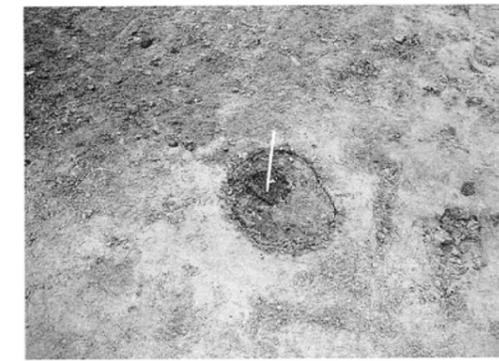
遺跡近景(南から)



拡張区全景(北西から)



検出遺構(EP1、2、北から)



検出遺構(EP3、北から)

図版18 西館遺跡

(9) ^{はったん}八反遺跡 (遺跡番号723)

所在地 山形県東根市大字長瀬字株川

調査員 渋谷孝雄

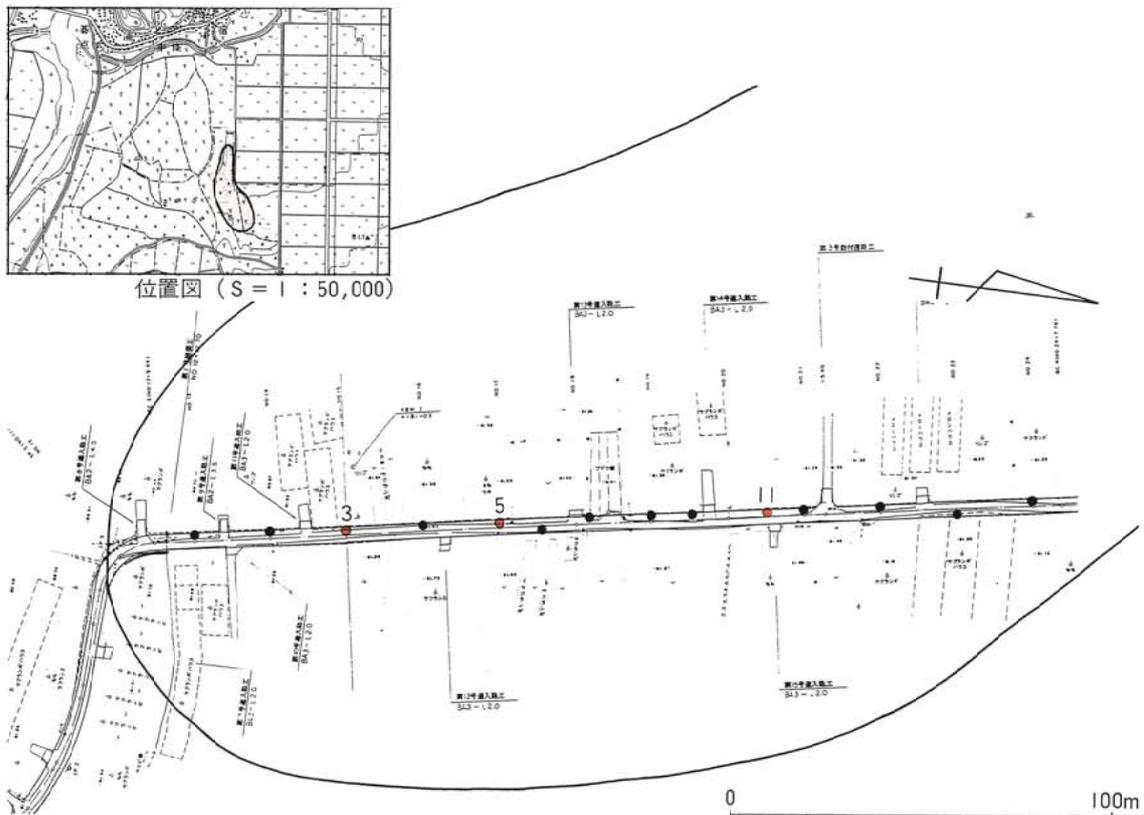
調査期日 平成9年12月2日

起因事業 一般農道整備事業 (長瀬西部2期)

遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線東根駅の北西4kmに位置し、西側の水田面より一段高い自然堤防上に立地する。地目は畑地、果樹園となっており、標高は81m前後を測る。遺跡の西部からかつて、火葬人骨が出土している。

試掘状況 遺跡の範囲は東西150m、南北570m前後の広範囲にわたるが、今回の農道整備事業は遺跡の東半部にかかっている延長300mの農道を3~4mに拡幅するもので、拡幅する地区に10~20mおきに1×1mの試掘坑を24箇所設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 3箇所では平安時代の遺物が発見されたが、遺構と考えられる土色変化は確認されなかった。遺物包含層は褐色粘土の地山の上にある黒色粘土層で地山との境界で湧水が認められる。地山までの深さは45cmから70cmとバラツキが大きい。TP3で赤焼土器片が3点、土師器片が1点、須恵器片と甕がそれぞれ1点出土し、TP5では赤焼土器片が3点出土した。TP11では須恵器甕の破片が出土した。本遺跡は平安時代の10世紀を前後する時期に営まれた集落と考えられる。



第14図 八反遺跡概要図

(9) 八反遺跡 (遺跡番号723)

所在地 山形県東根市大字長瀬字株川

調査員 渋谷孝雄

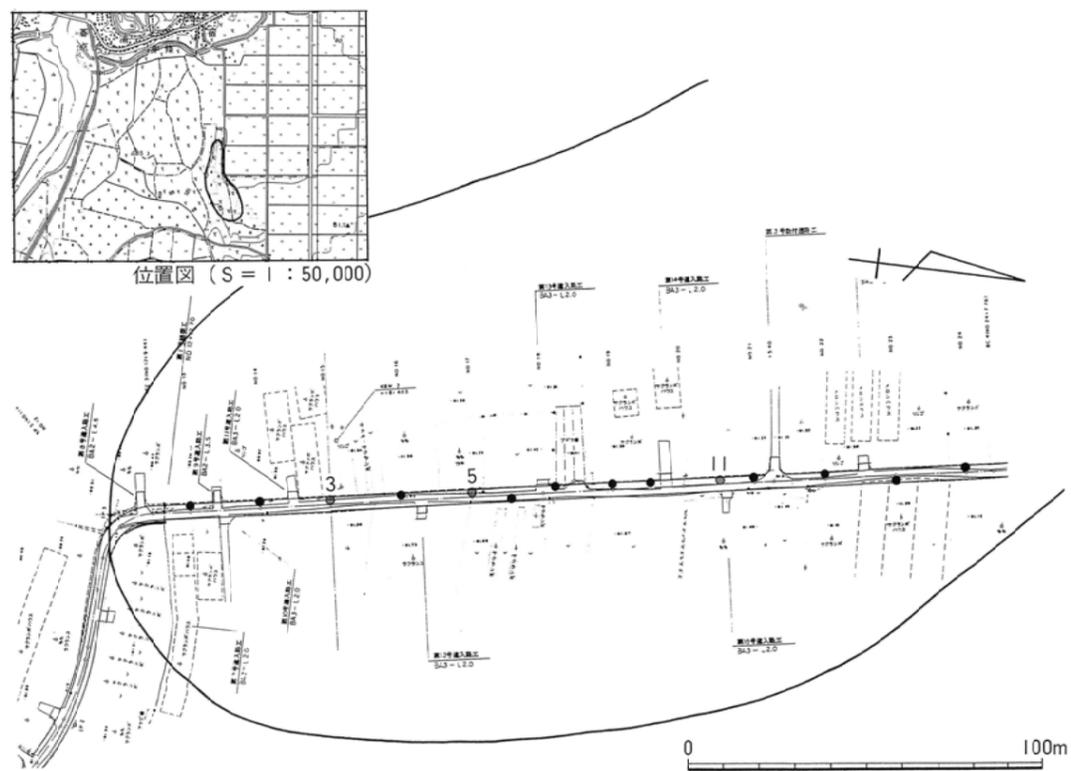
調査期日 平成9年12月2日

起因事業 一般農道整備事業 (長瀬西部2期)

遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線東根駅の北西4kmに位置し、西側の水田面より一段高い自然堤防上に立地する。地目は畑地、果樹園となっており、標高は81m前後を測る。遺跡の西部からかつて、火葬人骨が出土している。

試掘状況 遺跡の範囲は東西150m、南北570m前後の広範囲にわたるが、今回の農道整備事業は遺跡の東半部にかかっている延長300mの農道を3~4mに拡幅するもので、拡幅する地区に10~20mおきに1×1mの試掘坑を24箇所設定して地山までの掘り下げを行った。

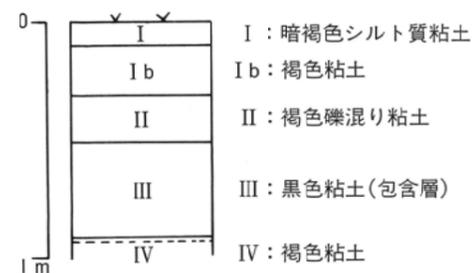
調査結果 3箇所では平安時代の遺物が発見されたが、遺構と考えられる土色変化は確認されなかった。遺物包含層は褐色粘土の地山の上にある黒色粘土層で地山との境界で湧水が認められる。地山までの深さは45cmから70cmとバラツキが大きい。TP3で赤焼土器片が3点、土師器片が1点、須恵器片と甕がそれぞれ1点出土し、TP5では赤焼土器片が3点出土した。TP11では須恵器甕の破片が出土した。本遺跡は平安時代の10世紀を前後する時期に営まれた集落と考えられる。



第14図 八反遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



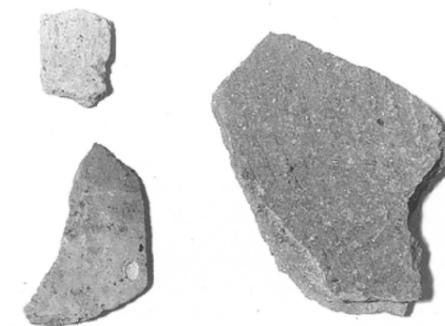
TP3土層柱状図



TP3土層断面 (南から)



TP5土層断面 (南から)



出土遺物

図版19 八反遺跡

(10) ^{まよば}的場遺跡 (遺跡番号295)

所在地 山形県天童市大字成生字的場、水尻

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年7月24日

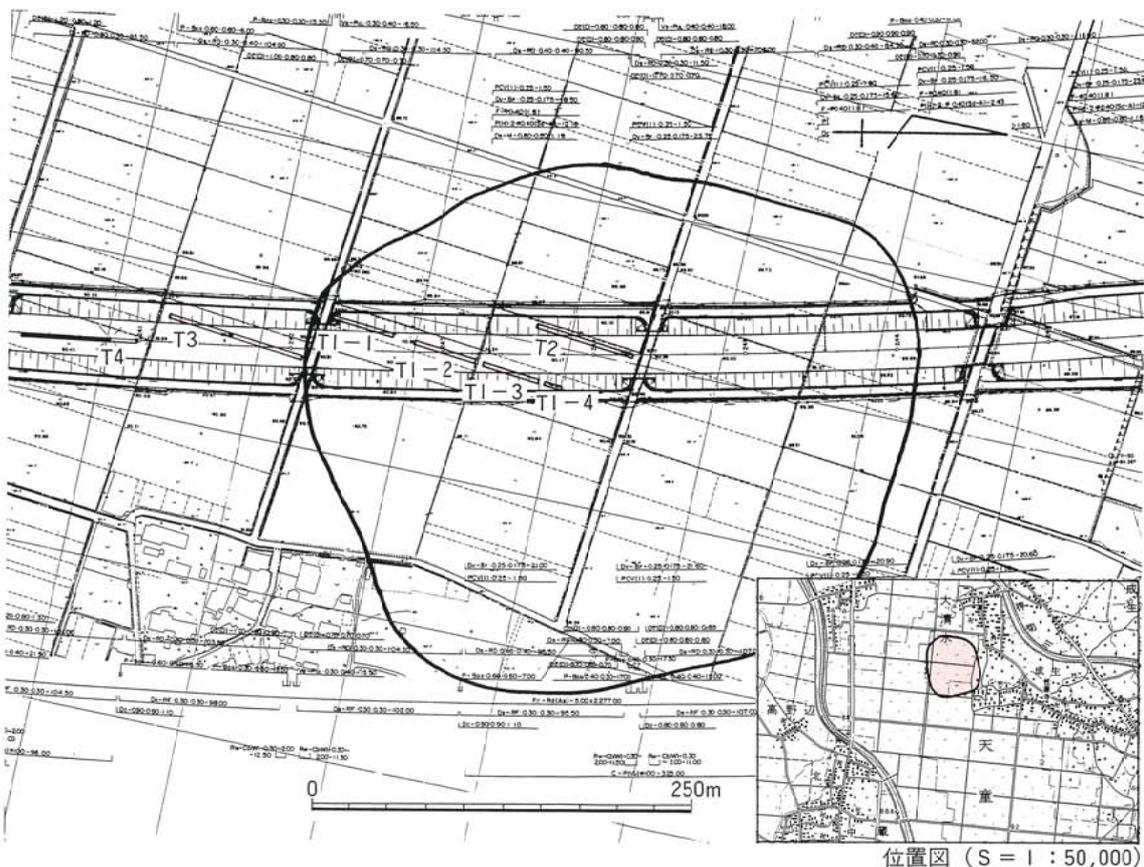
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、天童市街北西の成生地区に位置する集落跡である。集落西側に広がる乱川扇状地先端部からの微高地に立地する。地目は、水田・畑地である。標高は、90mを測る。遺跡範囲は、東西350m (推定)・南北400mの大きな広がりがあると考えられる。

試掘状況 水田畦畔と道路センター杭を基準にトレンチを7ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 T4南側60mからT2方向に遺構・遺物が検出された。主としてT1-1～4に多くみとめられ、柱穴、土壇、溝跡、土師器・須恵器7袋を確認できた。遺構確認面は、深さ19～50cm前後を測る。

試掘後、(財)山形県埋蔵文化財センターでさらに48ヶ所のトレンチを設定し、より詳細に予備調査を調査を行った結果、T1から北側が遺跡範囲と考えられる確認状況であることに基づき南北方向の範囲を記録した。出土土器により時期は、奈良・平安時代、中世と考えられる。



第15図 的場遺跡概要図

(10) 的場遺跡 (遺跡番号295)

所在地 山形県天童市大字成生字の場、水尻

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年7月24日

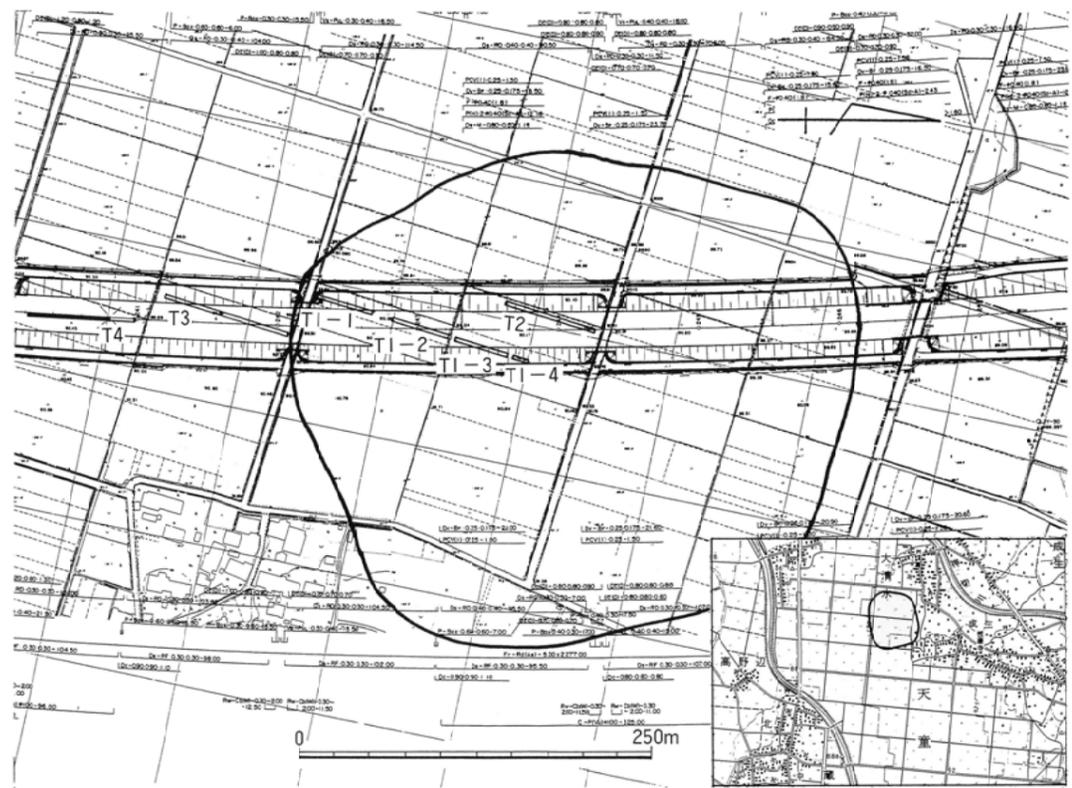
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、天童市街北西の成生地区に位置する集落跡である。集落西側に広がる乱川扇状地先端部からの微高地に立地する。地目は、水田・畑地である。標高は、90mを測る。遺跡範囲は、東西350m (推定) ・南北400mの大きな広がりがあると考えられる。

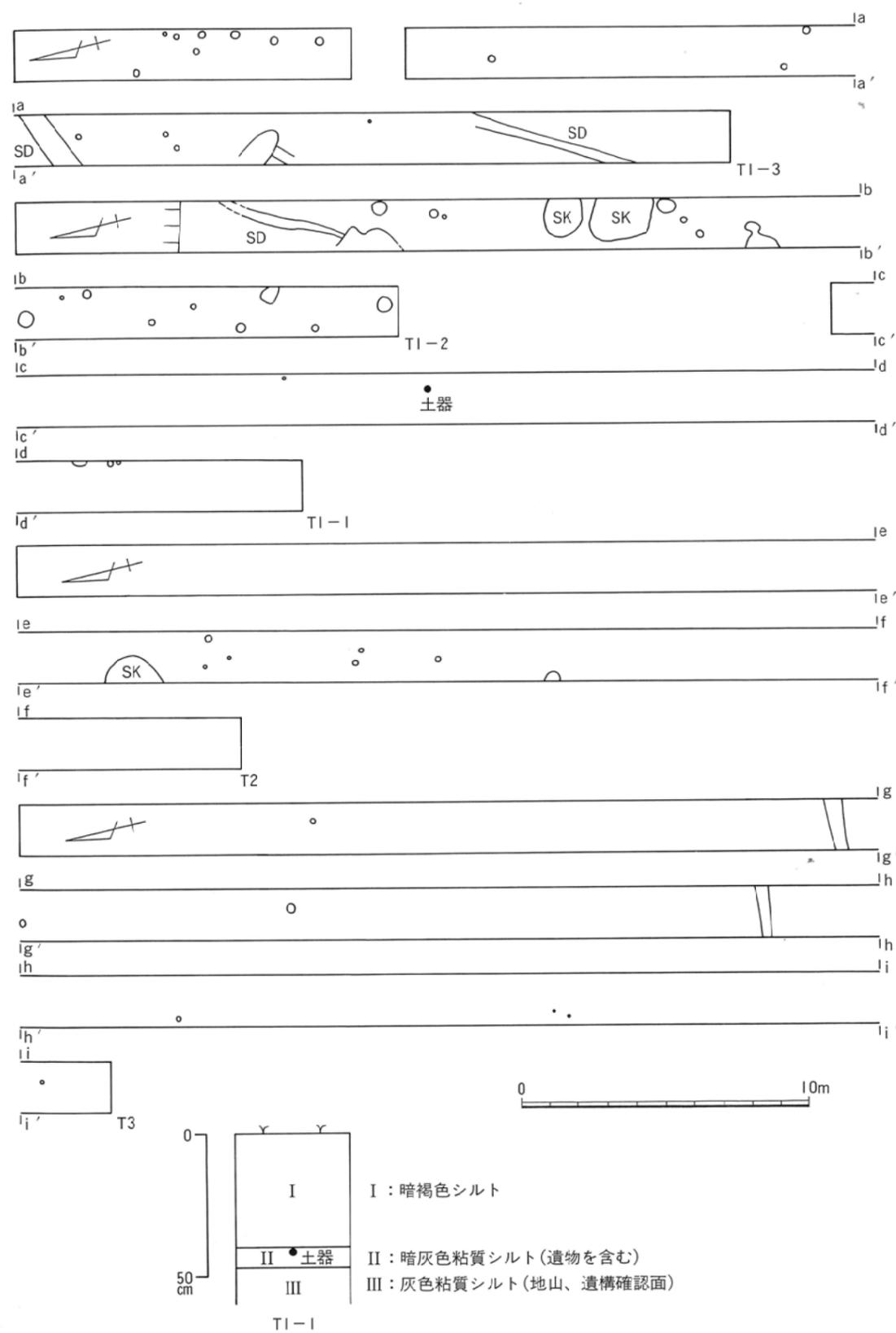
試掘状況 水田畦畔と道路センター杭を基準にトレンチを7ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 T4南側60mからT2方向に遺構・遺物が検出された。主としてT1-1～4に多くみとめられ、柱穴、土壇、溝跡、土師器・須恵器7袋を確認できた。遺構確認面は、深さ19～50cm前後を測る。

試掘後、(財)山形県埋蔵文化財センターでさらに48ヶ所のトレンチを設定し、より詳細に予備調査を調査を行った結果、T1から北側が遺跡範囲と考えられる確認状況であることに基づき南北方向の範囲を記録した。出土土器により時期は、奈良・平安時代、中世と考えられる。



第15図 的場遺跡概要図



第16図 的場遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (南から)

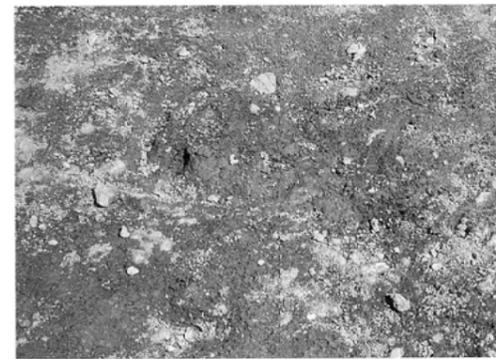


T 1-2 遺構検出状況 (南から)

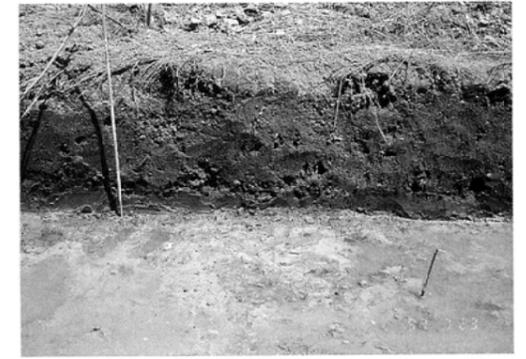
図版20 的場遺跡 (1)



T 1-4 遺構検出状況 (南から)



T 1-1 遺物出土状況 (北から)



T 1-1 土層断面 (西から)



出土遺物



出土遺物

図版21 的場遺跡 (2)

(11) ^{いたばし}板橋1遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県天童市大字蔵増字板橋

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年7月28日

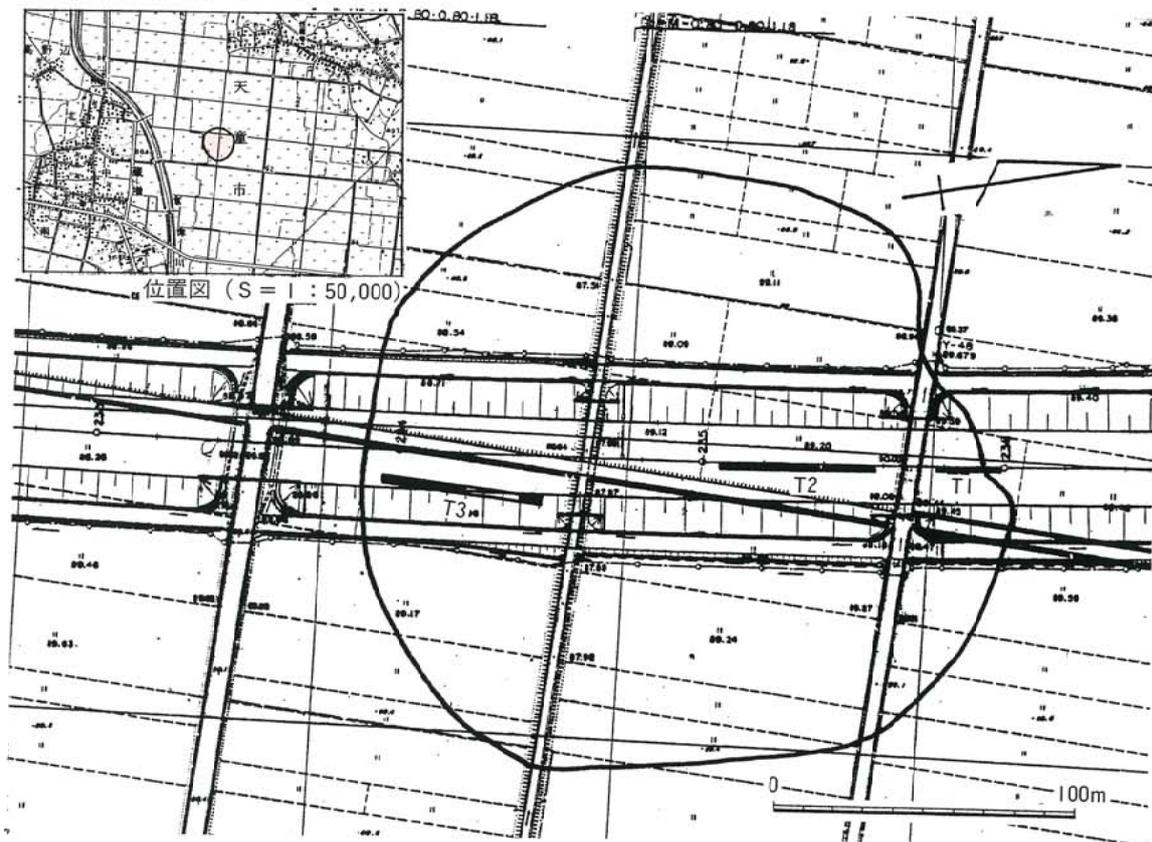
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、天童市成生・蔵増地区間の水田地帯に分布する集落跡である。これまでの分布調査では、遺跡可能性地として位置づけられていた区域である。この一帯は、扇状地に位置する市街地を東方に望む沖積地で、西方は倉津川右岸、さらに最上川右岸に至る。標高は89mを測る。遺跡範囲は、東西200m (推定)・南北210mが考えられる。

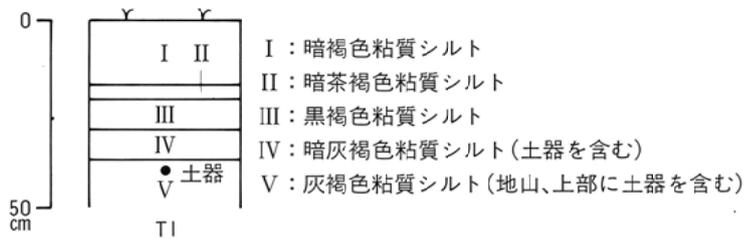
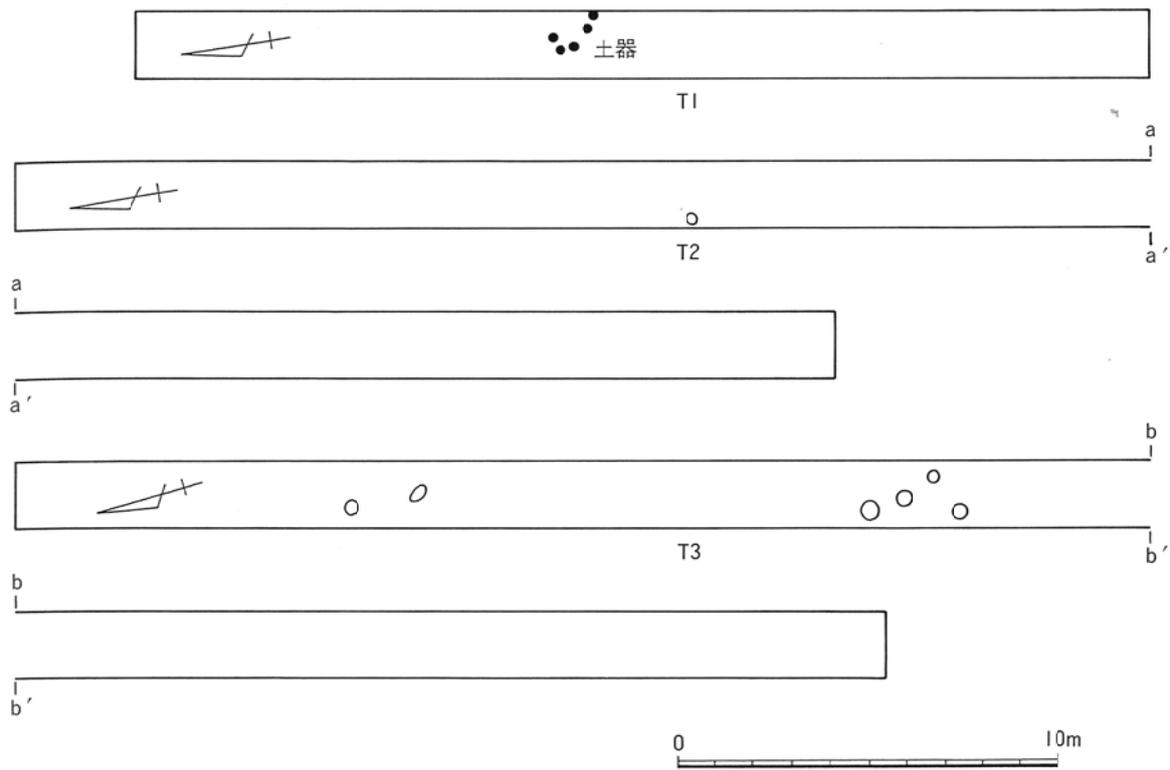
試掘状況 水田畦畔と道路センター杭を基準にトレンチを3ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 T1中央付近1ヶ所で、縄文時代後期後半の貼りコブをもつ土器片が一括出土した。出土深さは、40cmを測る。T2北側は泥炭がみとめられ、同南側からT3では柱穴との少量の土器片が出土した。遺構確認面は、深さ36cmを測る。

試掘後、(財)山形県埋蔵文化財センターでさらに28ヶ所のトレンチを設定し、より詳細に予備調査を行った結果、T3南側まで遺跡範囲と考えられる確認状況であることに基づき南北方向の範囲を記録した。出土土器により時期は、縄文時代後期、古墳・奈良・平安時代、中世と考えられる。



第17図 板橋1遺跡概要図



第18図 板橋 I 遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景（北から）



T1 調査状況（南から）

図版22 板橋I遺跡（1）



T1 遺物出土状況（西から）



T2 調査状況（南から）



T3 調査状況（南から）



T1 土層断面（西から）



出土遺物

図版23 板橋I遺跡（2）

(12) ^{いたばし}板橋2遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県天童市大字蔵増字板橋

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年7月25日

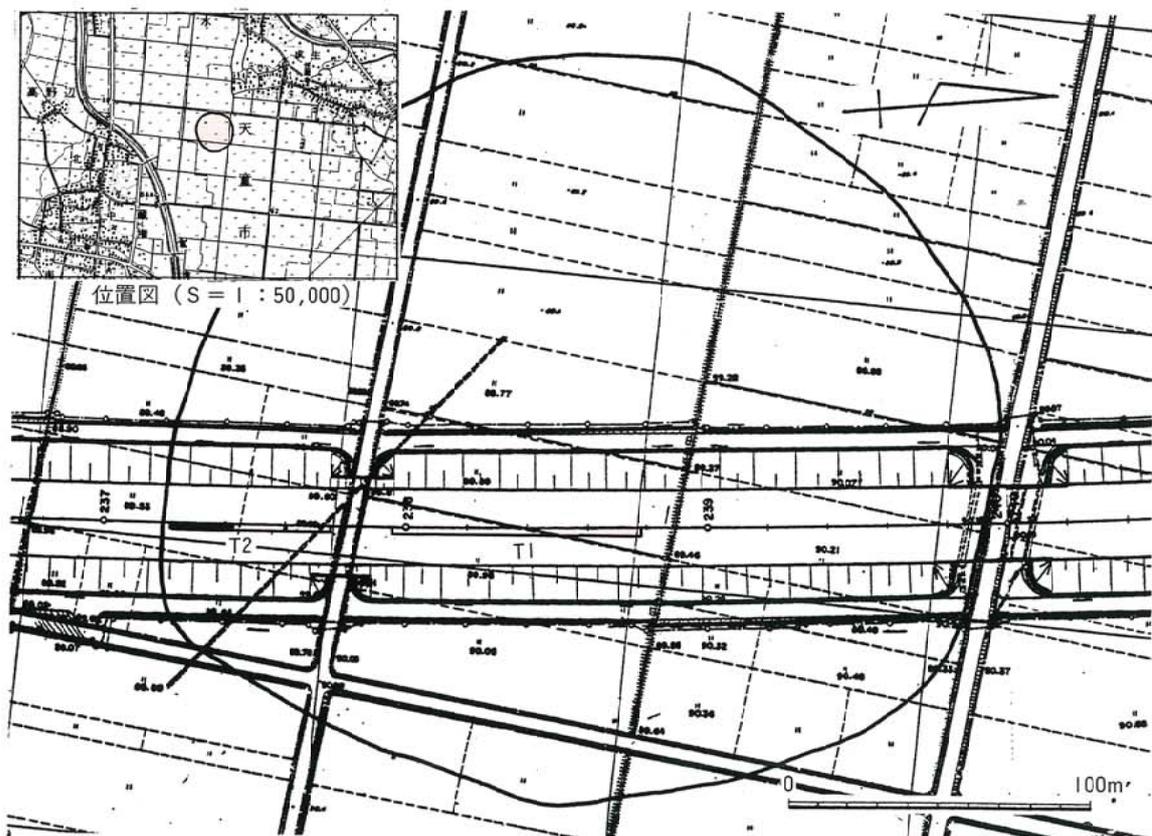
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事(上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、天童市成生・蔵増地区間の水田地帯に分布する集落跡である。これまでの分布調査では、遺跡可能性地として位置づけられていた区域である。この一帯は、扇状地に位置する市街地を東方に望む沖積地で、西方は倉津川右岸、さらに最上川右岸に至る。標高は89mを測る。遺跡範囲は、東西250m(推定)・南北270mが考えられる。

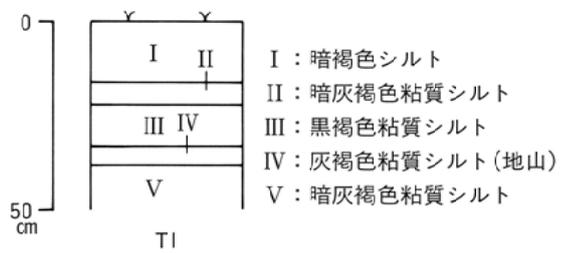
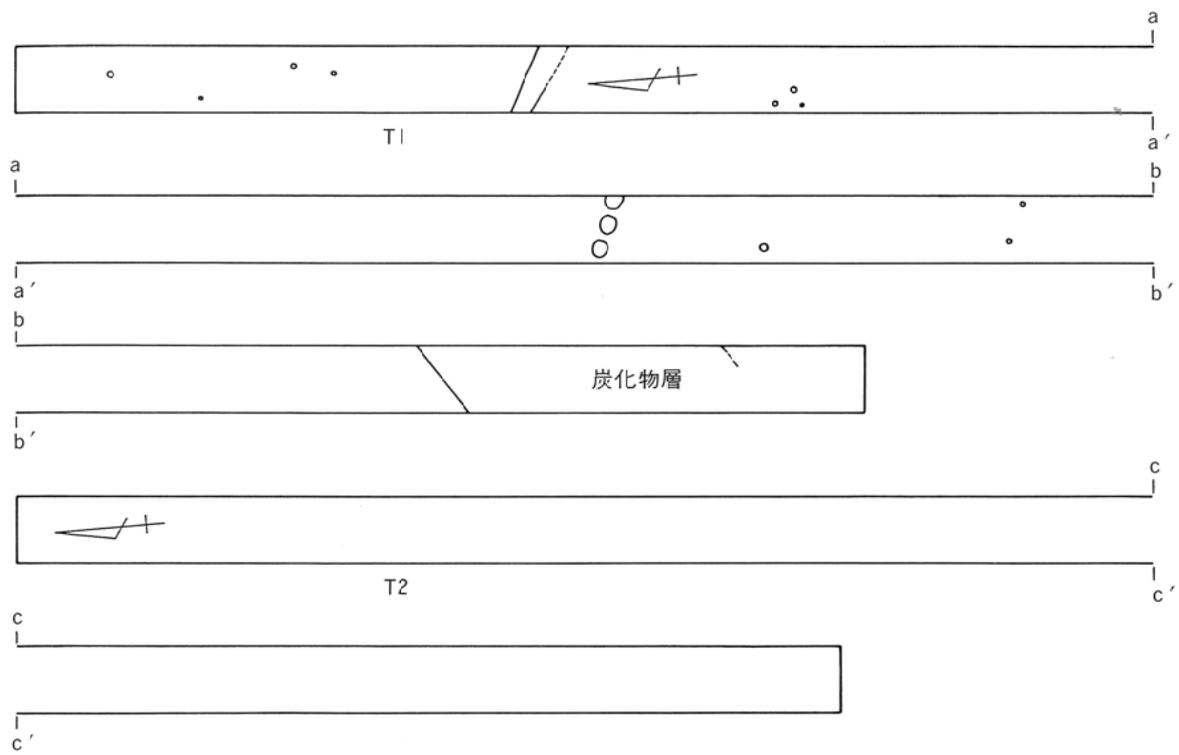
試掘状況 道路センター杭を基準にトレンチを2ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 T1南端で炭化物層が確認された。確認の深さは、46cmを測る。T2南端は、泥炭が途中みとめられ、トレンチ南端から北へ20mから土器が確認された。T1・2とも全体的に遺構・遺物が少ない。遺構確認面は、深さ33cmを測る。

試掘後、(財)山形県埋蔵文化財センターでさらに21ヶ所のトレンチを設定し、より詳細に予備調査を行った結果、T1範囲と考えられる確認状況であることに基づき南北方向の範囲を記録した。出土土器により時期は、古墳・奈良・平安時代、中世と考えられる。



第19図 板橋2遺跡概要図



第20図 板橋2遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (北から)

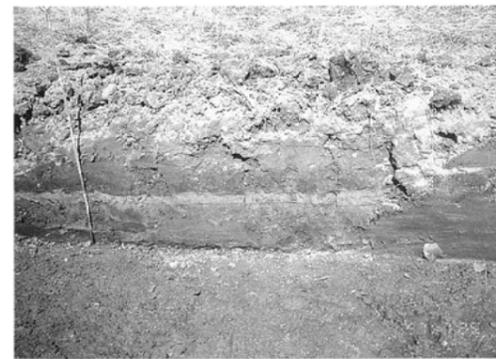


T 1 調査状況 (南から)

図版24 板橋2遺跡 (1)



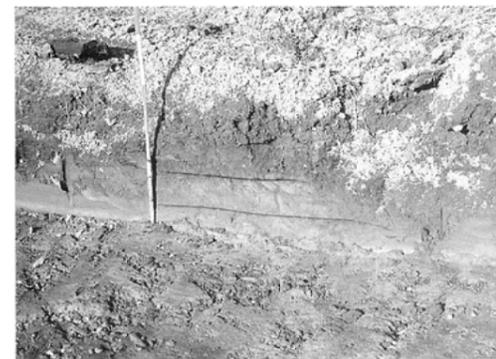
T 2 調査状況 (北から)



T 1 土層断面 (西から)



T 1 炭化物層断面



T 2 土層断面



出土遺物

図版25 板橋2遺跡 (2)

くらぞうおしきり
(13)蔵増押切遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県天童市大字蔵増字押切

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年7月30日

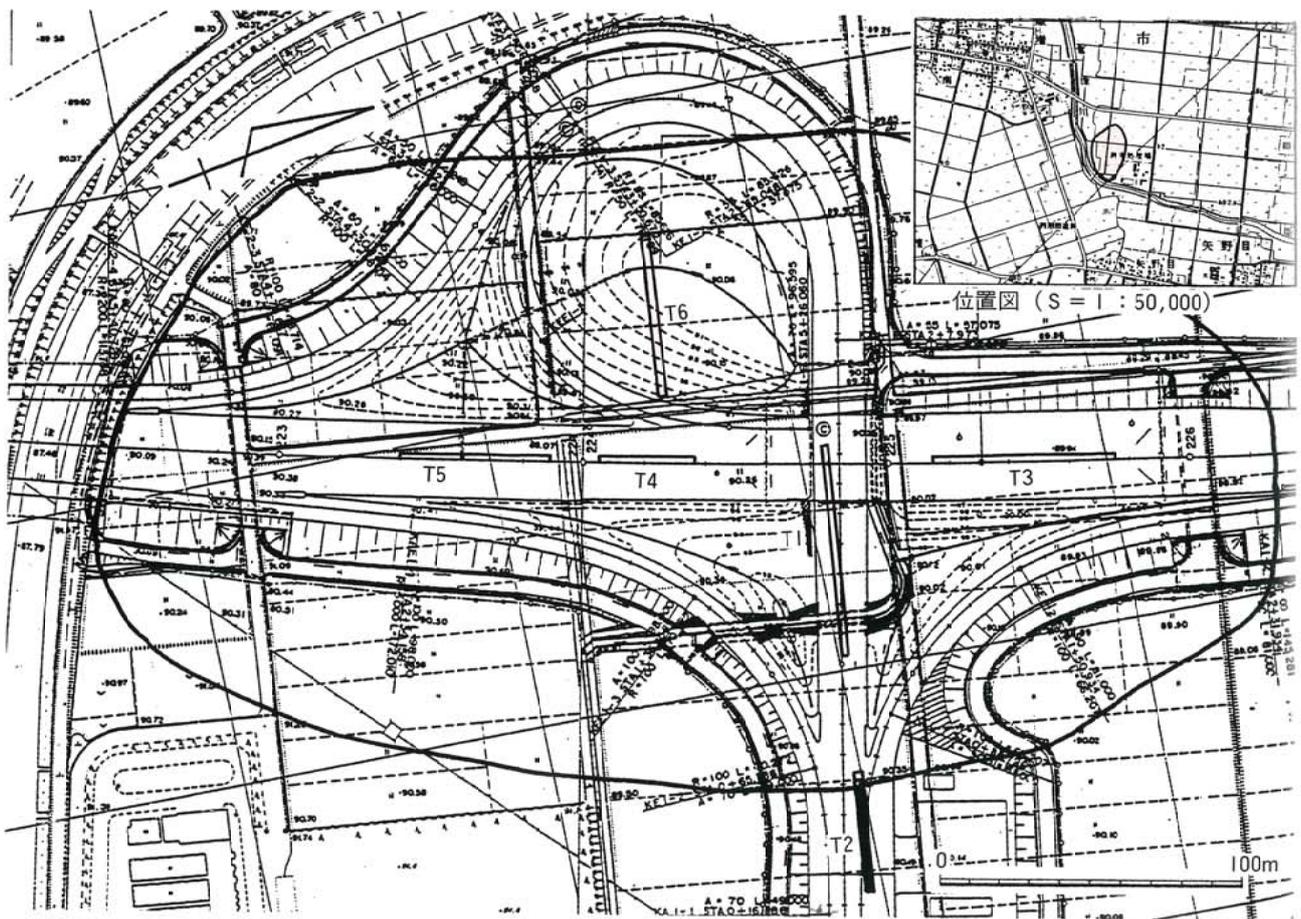
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、天童市成生地区東側の水田地帯に位置する集落跡で、倉津川右岸沿いに形成された微高地に立地する。これまでの分布調査では、遺跡可能性地として位置づけられていた区域である。この一帯は、扇状地に位置する市街地を東方に望み、沖積地が広がる。標高は90mを測る。遺跡範囲は、東西220m・南北360mが考えられる。

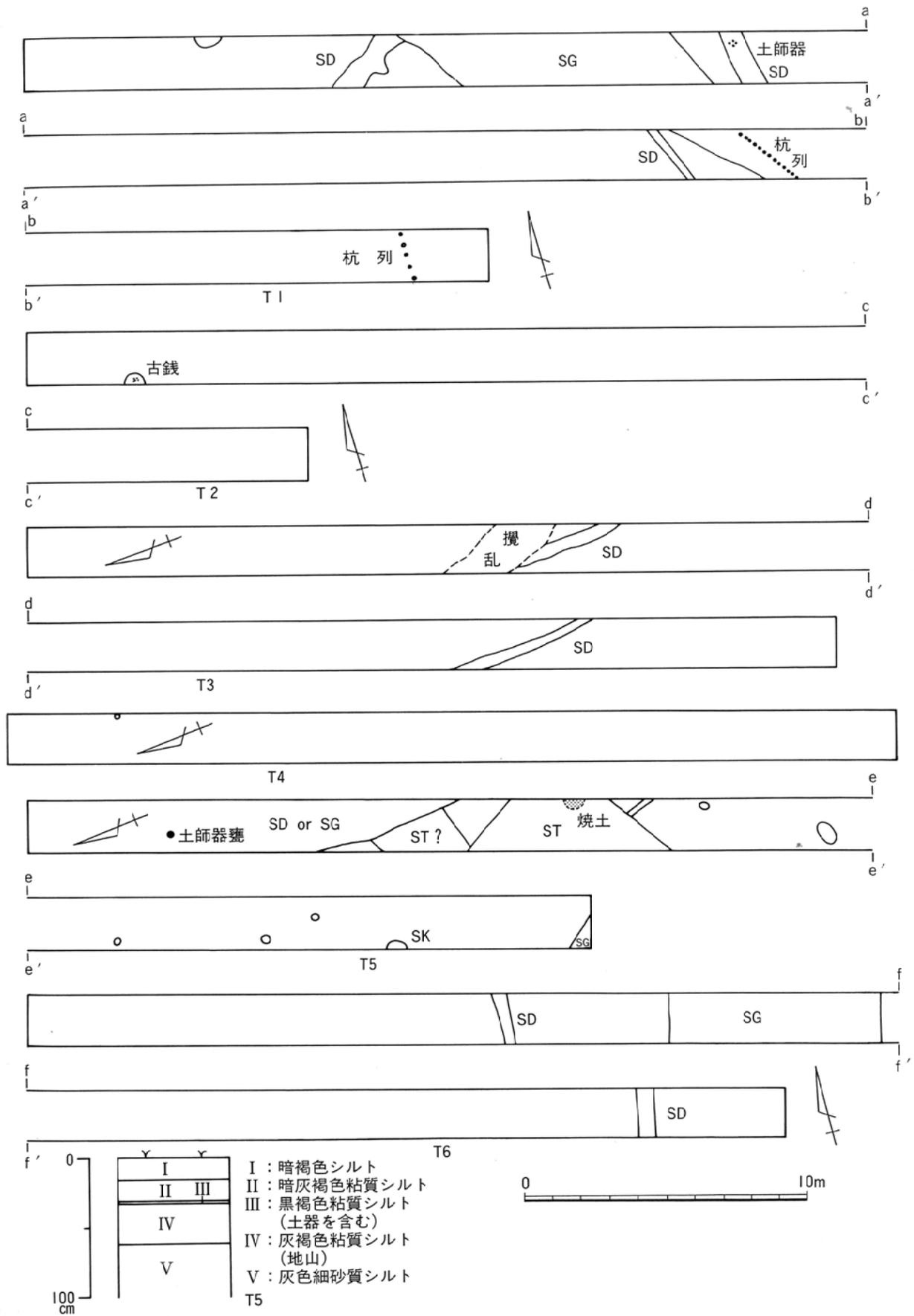
試掘状況 道路センター杭及び水田畦畔を基準にトレンチを6ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 T2東側35m以外は各トレンチで遺構・遺物が確認された。特にT5中央付近で方形状の落ち込みがみとめられ、さらに内部には焼土部分も確認され、竪穴住居跡と考えられる。他に柱穴・土壇・溝跡も検出され、集落遺構群の広がりが見られる区域である。遺構確認面の深さは、20～30cmを測る。出土遺物は、土師器・須恵器5袋、古銭(T2)が出土した。

試掘後、(財)山形県埋蔵文化財センターでさらに36ヶ所のトレンチを設定し、より詳細に予備調査を行った結果、倉津川右岸からT3北側まで広がる確認状況であることに基づき南北方向の範囲を記録した。出土土器により時期は、古墳・奈良・平安時代、中世と考えられる。



第21図 蔵増押切遺跡概要図



第22図 蔵増押切遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (北から)

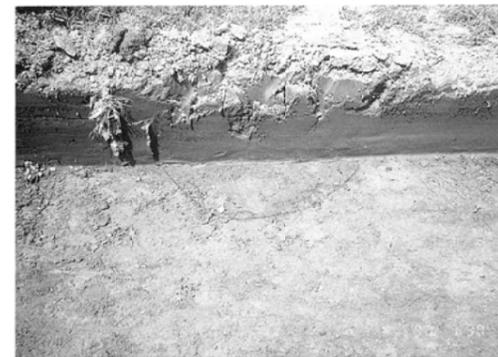


T 5 調査状況 (南から)

図版26 蔵増押切遺跡 (1)



T 5 遺構検出状況 (南から)



T 1 遺構検出状況 (南から)



T 5 土層断面 (西から)



T 5 全景 (北から)



出土遺物

図版27 蔵増押切遺跡 (2)

あべつか
(14)阿部塚遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県天童市大字高揃字阿部塚

調査員 長橋 至

調査期日 平成9年7月28日

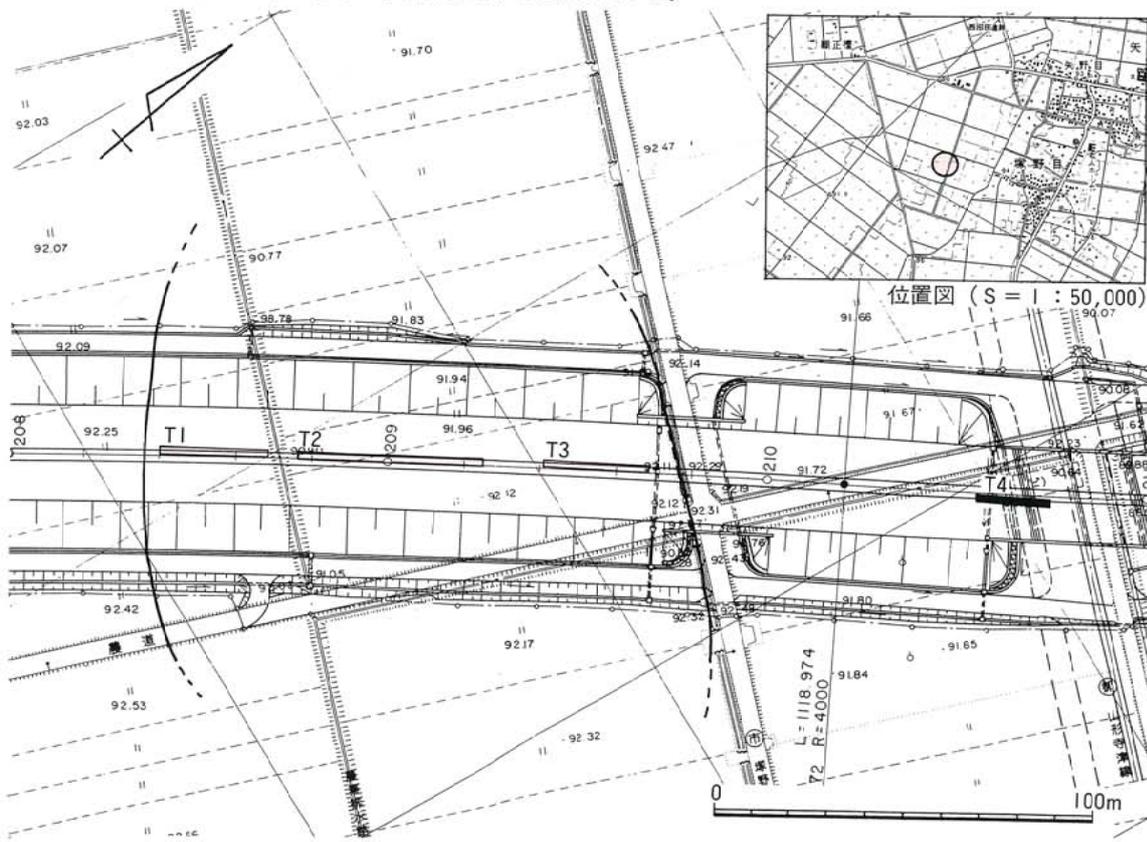
起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 立谷川扇状地の扇端部、標高92mの水田、天童市塚野目地区西方約500mの水田中に立地する。本遺跡北側約1Kmには、国指定史跡「西沼田遺跡」(古墳時代の集落跡)が存在する。

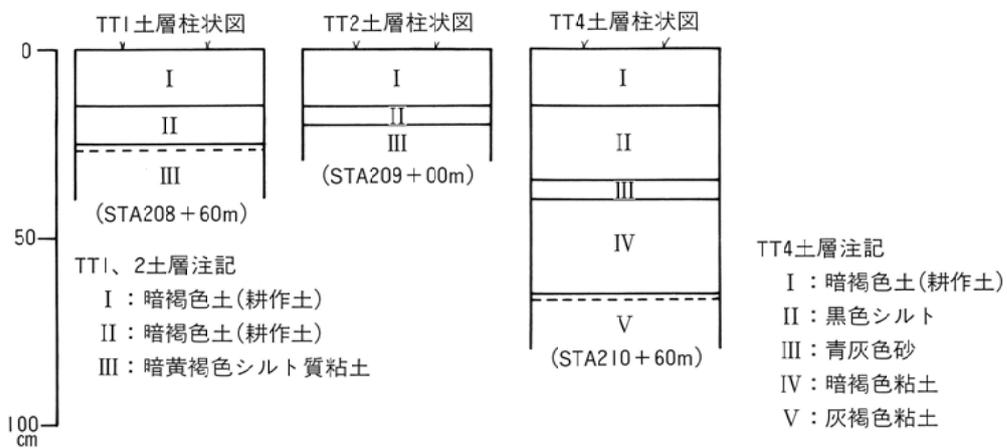
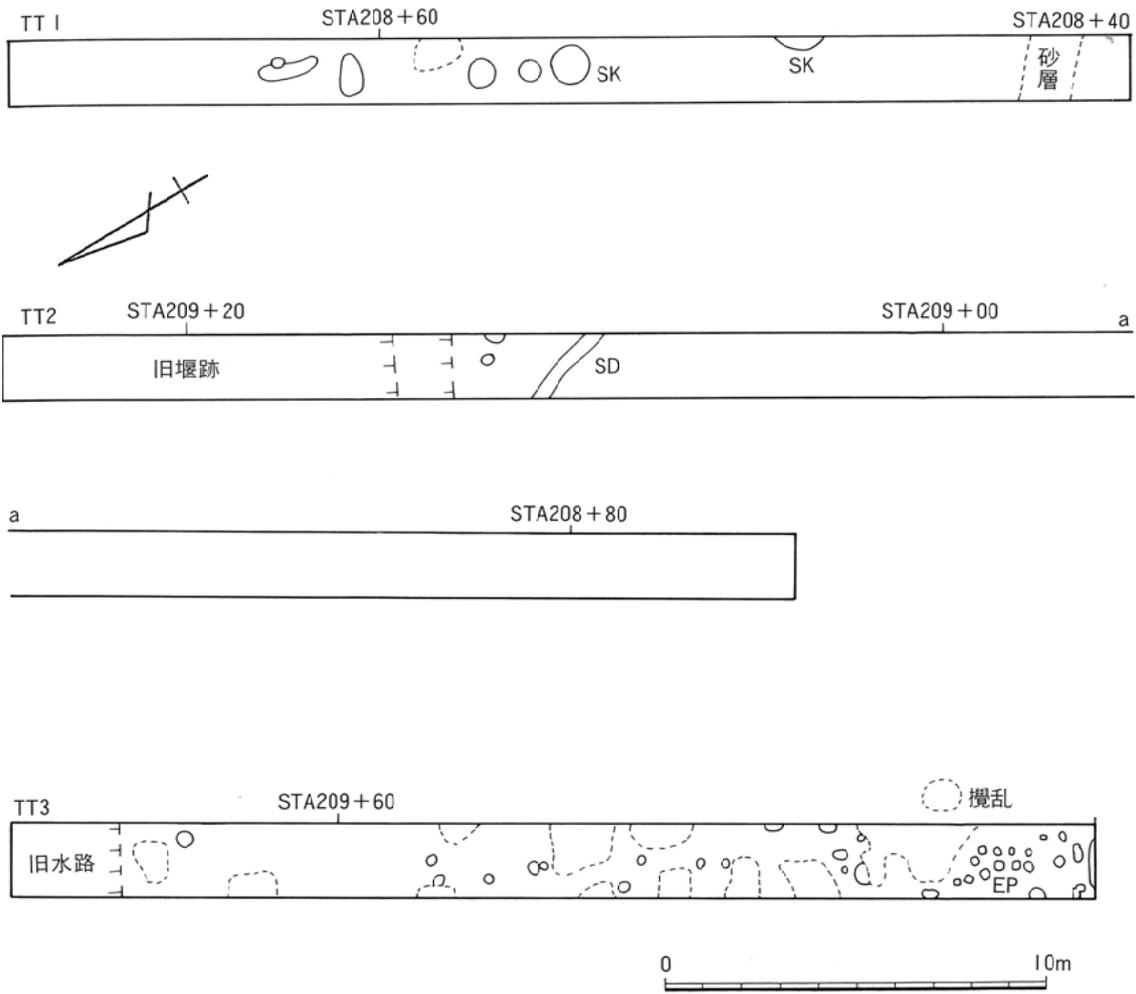
試掘状況 センター杭に合わせ、遺跡範囲と想定される区域にT1～4の4本の試掘溝を設定した。

調査結果 平安時代の遺構・遺物が確認された。T1では、試掘溝南半部で土壌1基、中央～北半部で不整形の小土塊状の土色変化が認められた。遺物は、赤焼き土器細片が0.5袋出土したにとどまる。土層の堆積状況は、表土(耕作土)直下が地山層となり、遺物包含層は存在しない。T2は、北側で時期不明の溝状遺構が1条検出された。北端部は旧堰跡とみられる落ち込みが検出された。T3では、径10cm前後の小柱穴とみられる遺構が南側で確認された。時期は不明である。この試掘溝は攪乱が著しい状況を呈していた。T3北側のT4では、遺構・遺物は未検出である。

本遺跡については、「遺跡可能性地9」としていたが、「阿部塚遺跡」として新規に登録する。遺跡の中心は、今回の事業地区外と想定される。



第23図 阿部塚遺跡概要図



第24図 阿部塚遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (北から)

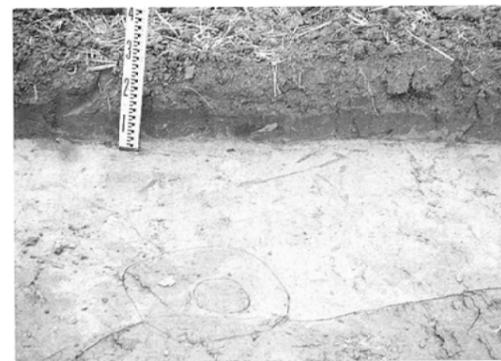


遺構検出状況 (T1、西から)

図版28 阿部塚遺跡 (1)



遺構検出状況 (T3、西から)



土層断面 (T1、南から)



遺構検出状況 (T3、北側、南から)



遺跡北側調査状況



出土遺物

図版29 阿部塚遺跡 (2)

(15) ^{なかぶくろ}中袋遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県天童市大字高掬字中袋

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成9年7月24日

起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

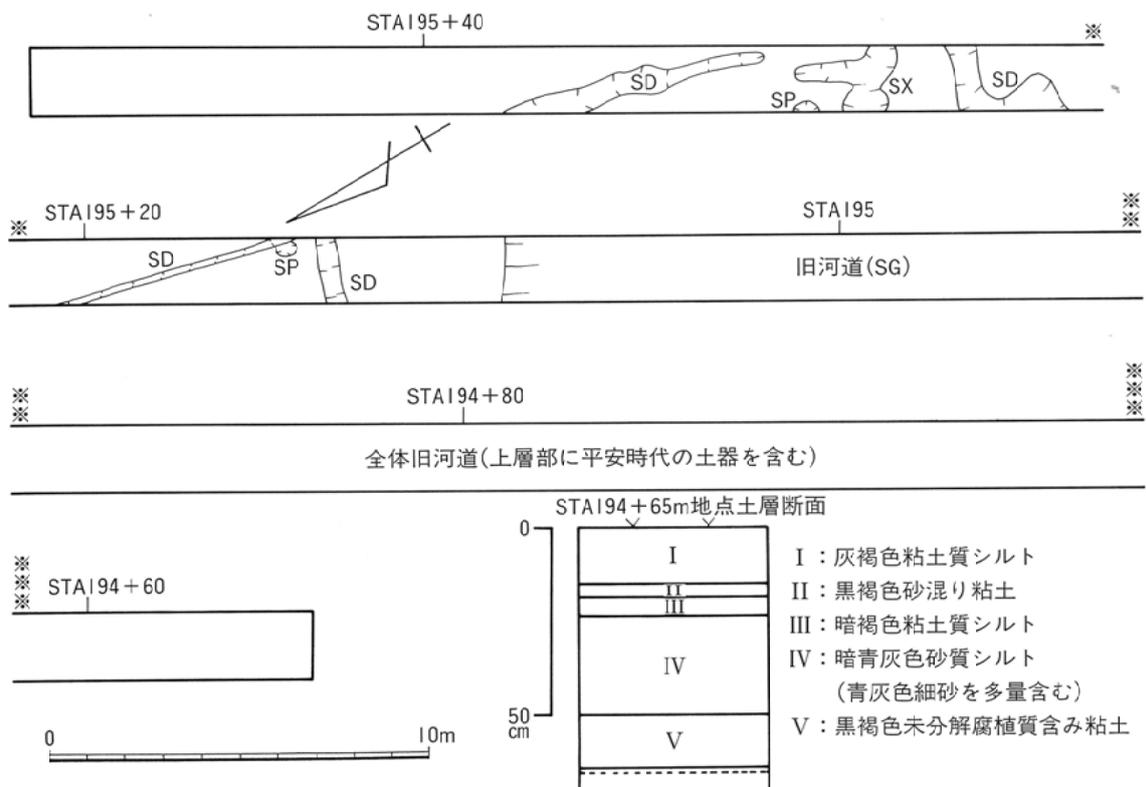
遺跡環境 高掬集落の中心部から北西方向約900mに位置し、立谷川扇状地の扇端部にあたる標高94mの平地に立地する。平成2年度の表面踏査で確認された遺跡で、地目は水田 (休耕田) と畑地である。

試掘状況 センター杭の西側にバックホーのバケット幅の試掘トレンチを設定し地山までの掘り下げを行った (T1)。トレンチの位置はS T A194+60mから195+50mまでの延長90mとなる。

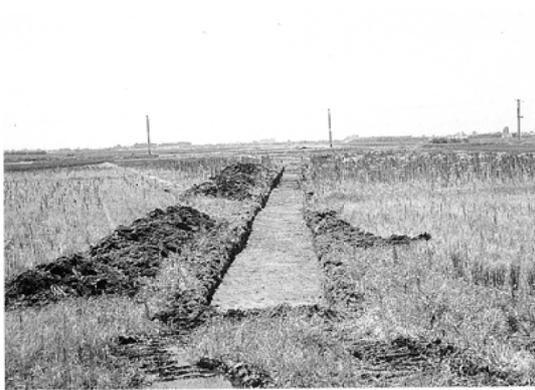
調査結果 試掘溝では平安時代の遺構と遺物が検出された。T1の南半部には旧河道が存在しこの堆積土の上半部には平安時代の土器が含まれている。また、北半部では表土である水田耕作土の直下が、褐色粘土質シルトの地山となり、この面で溝跡や落込み、柱穴が検出されたが、全体的に削平を受けている様相が窺えた。遺物は赤焼土器や須恵器の破片で整理箱に約0.3箱相当が出土した。平成9年9月の (財) 山形県埋蔵文化財センターによる予備調査から路線内で8,100㎡の記録保存のための発掘調査が必要であるとの結論が得られている。



第25図 中袋遺跡概要図



第26図 中袋遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (北から)



遺構検出状況 (北から)



遺構検出状況 (北から)



出土遺物

図版30 中袋遺跡

(16) 砂子田遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県天童市大字高掬字砂子田

調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 平成9年7月23～24日

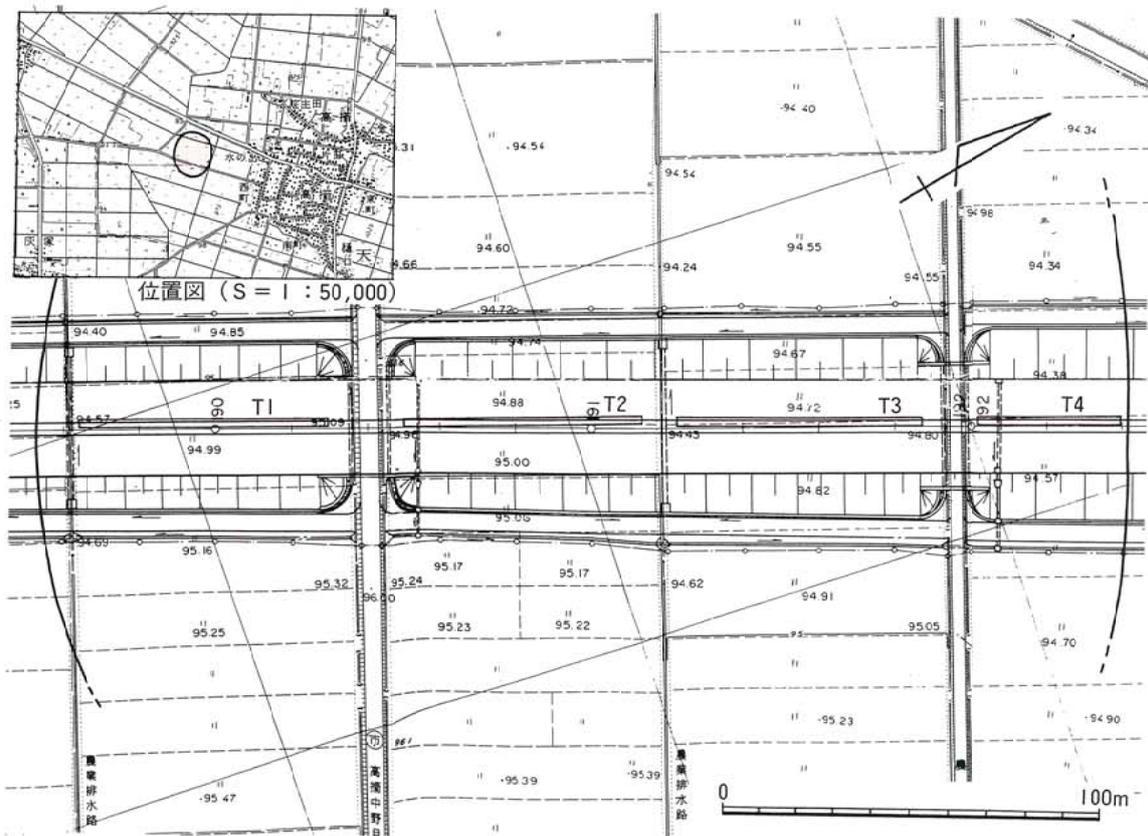
起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 立谷川扇状地の扇端部、標高95mの水田、天童市高掬地区西方約500mの水田中に立地する。

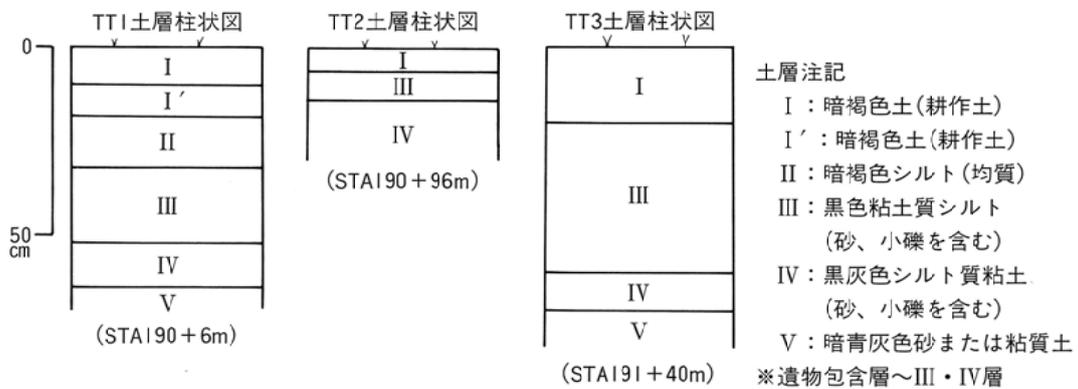
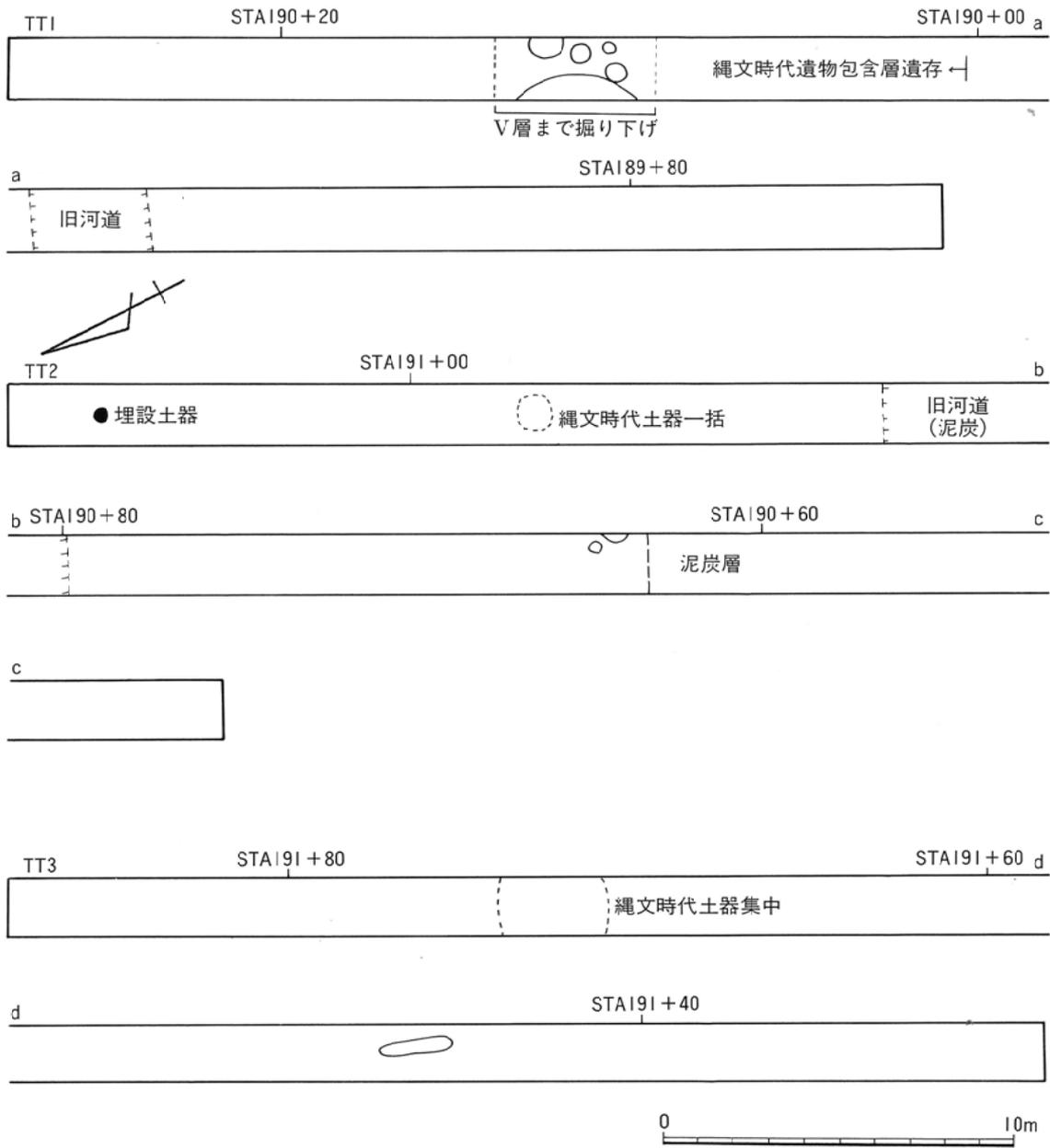
試掘状況 センター杭に合わせ、遺跡範囲と想定される区域に5本の試掘溝を設定した。

調査結果 縄文時代後期の遺構・遺物が確認された。T1では、試掘溝中央から北側で良好な遺物包含層が遺存している。S T A190+10m付近で約3mの範囲で遺構検出面まで掘り下げた結果、竪穴住居跡・土壌・柱穴等が検出された。T2は南側が泥炭層となるが、S T A190+96～191+10間では縄文時代の土器の集中出土地点と埋設土器が確認された。T3では、S T A191+60以北で良好な遺物包含層が確認された。T4でも遺物が出土している。遺物は縄文時代の石器 (石匙、磨石) のほか、全体で整理箱約1箱ほど出土した。T5では、遺物・遺構とも未検出のため、遺跡範囲はT1からT4までと想定される。

本遺跡については、「遺跡可能性地6・7」としていたが、調査結果により、「砂子田遺跡」として新規に登録する。平成9年9月に (財) 山形県埋蔵文化財センターにより予備調査が実施され、平成10年度に緊急発掘調査を行う予定となっている。



第27図 砂子田遺跡概要図



第28図 砂子田遺跡検出遺構平面・断面略図

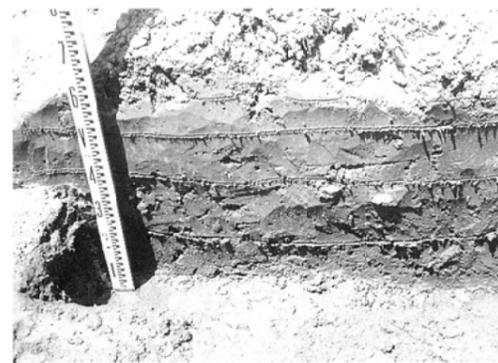


遺跡近景 (南から)



土坑、ビット検出状況 (北西から)

図版31 砂子田遺跡 (1)



土層断面 (東から)



調査状況 (南から)



縄文土器出土状況 (1) (西から)



縄文土器出土状況 (2) (西から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)

図版32 砂子田遺跡 (2)

(17) 樋渡遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県山形市大字富神台字樋渡

調査員 B調査 名和達朗

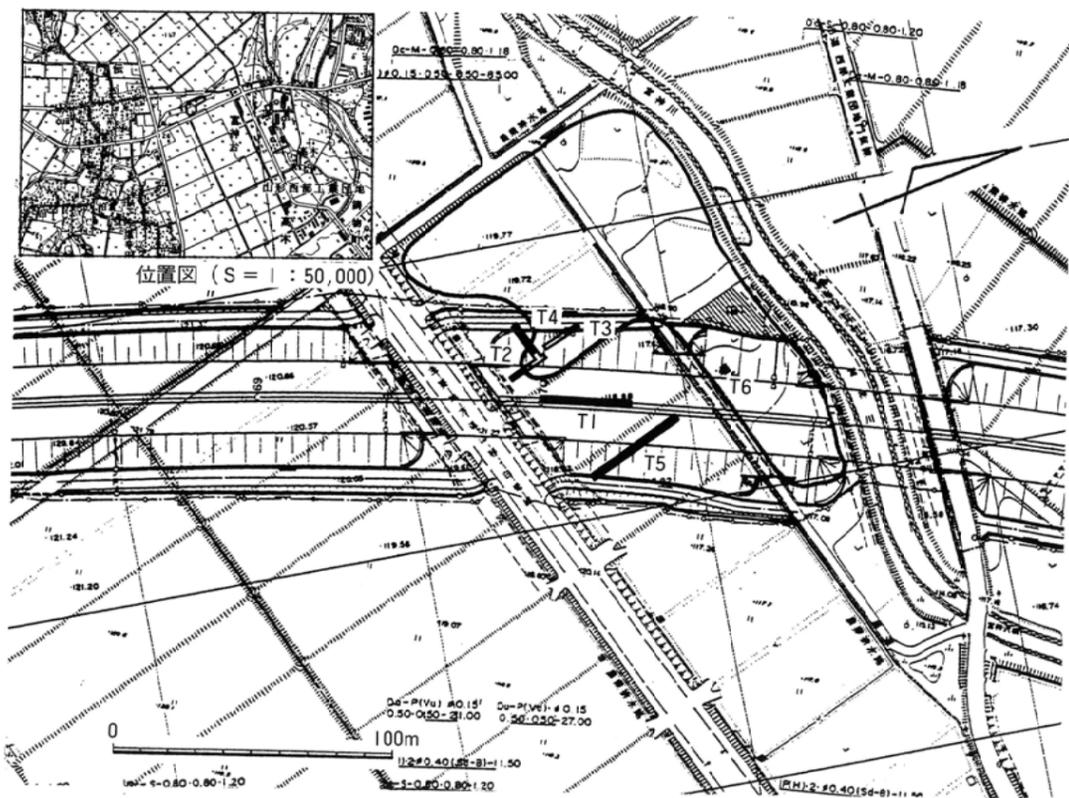
調査期日 B調査 平成9年11月12日

調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

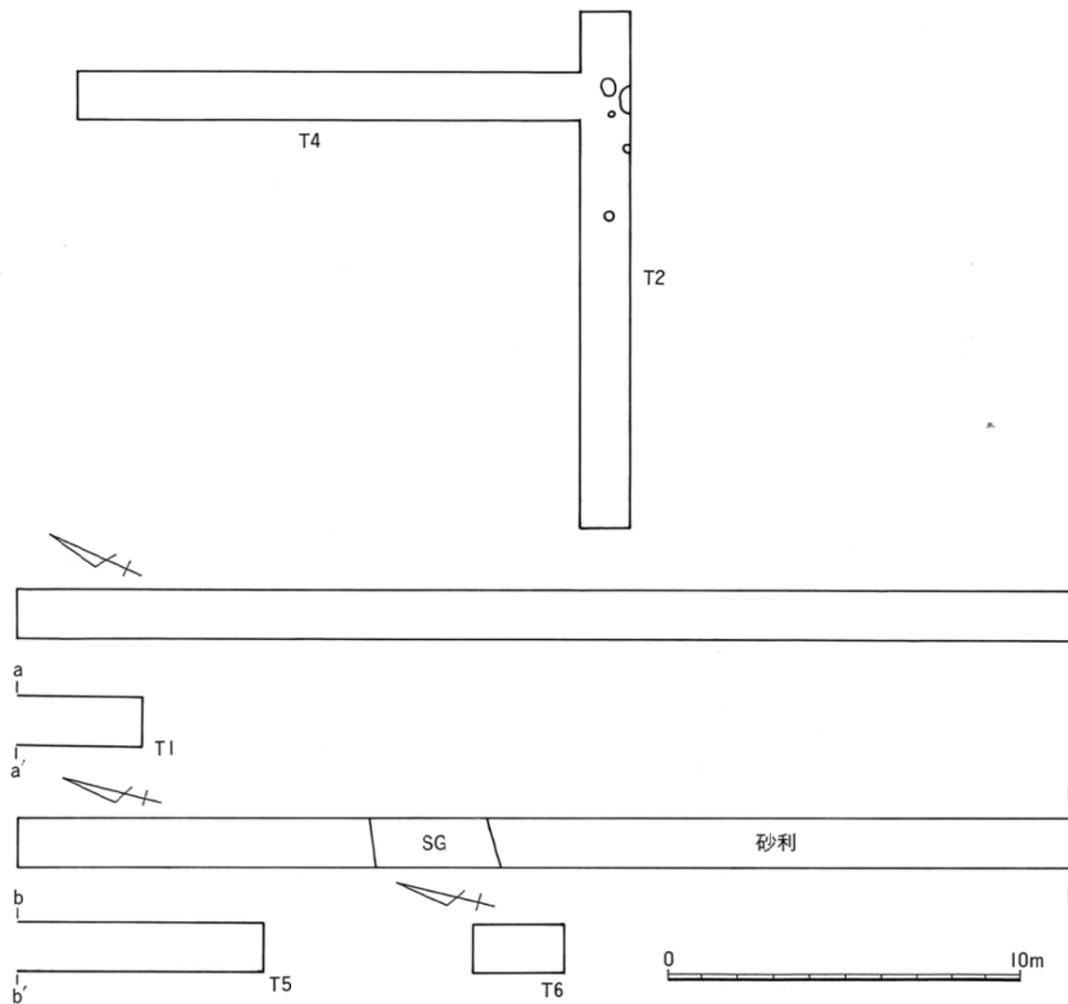
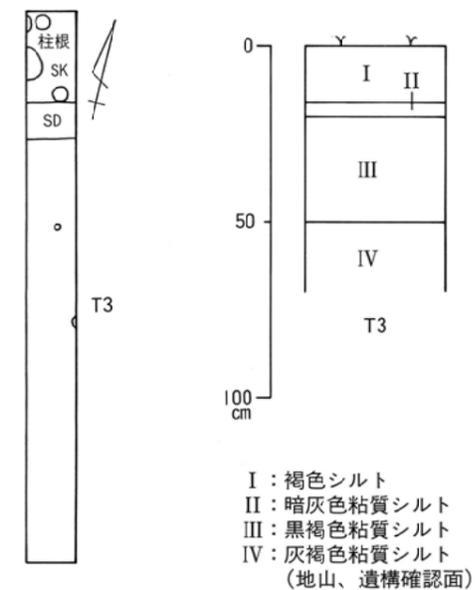
遺跡環境 遺跡は、山形市西部、門伝地区東側の水田・畑地に位置する集落跡である。遺跡北側は富神川右岸、南側は主要地方道山形白鷹線で、その間の水田段差のある地形に立地する。さらに、東方600mは須川左岸に至る。標高は119mを測る。遺跡範囲は、東西150m (推定)・南北100mが考えられる。但し、川寄りの畑地は、T6以外未調査であり範囲の中に含めて記録した。

試掘状況 道路センター杭及び水田畦畔を基準にトレンチを6ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 全体的に遺構・遺物確認は少なく、T2～4の範囲にまとまっている。遺構は、柱穴・土壇・溝跡で、T3北側では柱穴のアタリに柱根を1基検出できた。遺構確認面の深さは、34～40cmを測る。出土土器は、土師器片少量である。遺跡は、現況の水田地形から考えて切り盛り整地によりかなり削平された状況である。時期は、これまでの出土土器により縄文時代、平安時代と考えられる。



第29図 樋渡遺跡概要図



第30図 樋渡遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景 (南西から)



T 2 遺構検出状況 (北から)

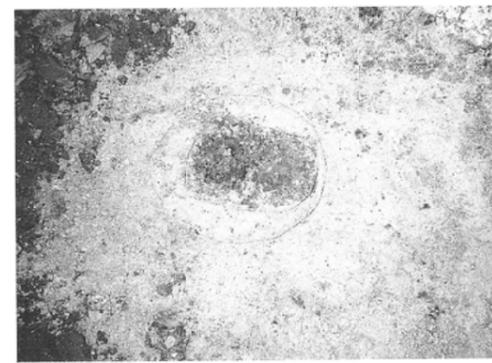
図版33 樋渡遺跡 (1)



T 3 遺構検出状況 (南から)



T 2 調査状況 (南から)



T 3 遺構検出状況 (西から)



T 3 土層断面 (西から)



出土遺物

図版34 樋渡遺跡 (2)

(18) 百目鬼遺跡 (遺跡番号113)

所在地 山形県山形市大字百目鬼

調査員 B調査 名和達朗

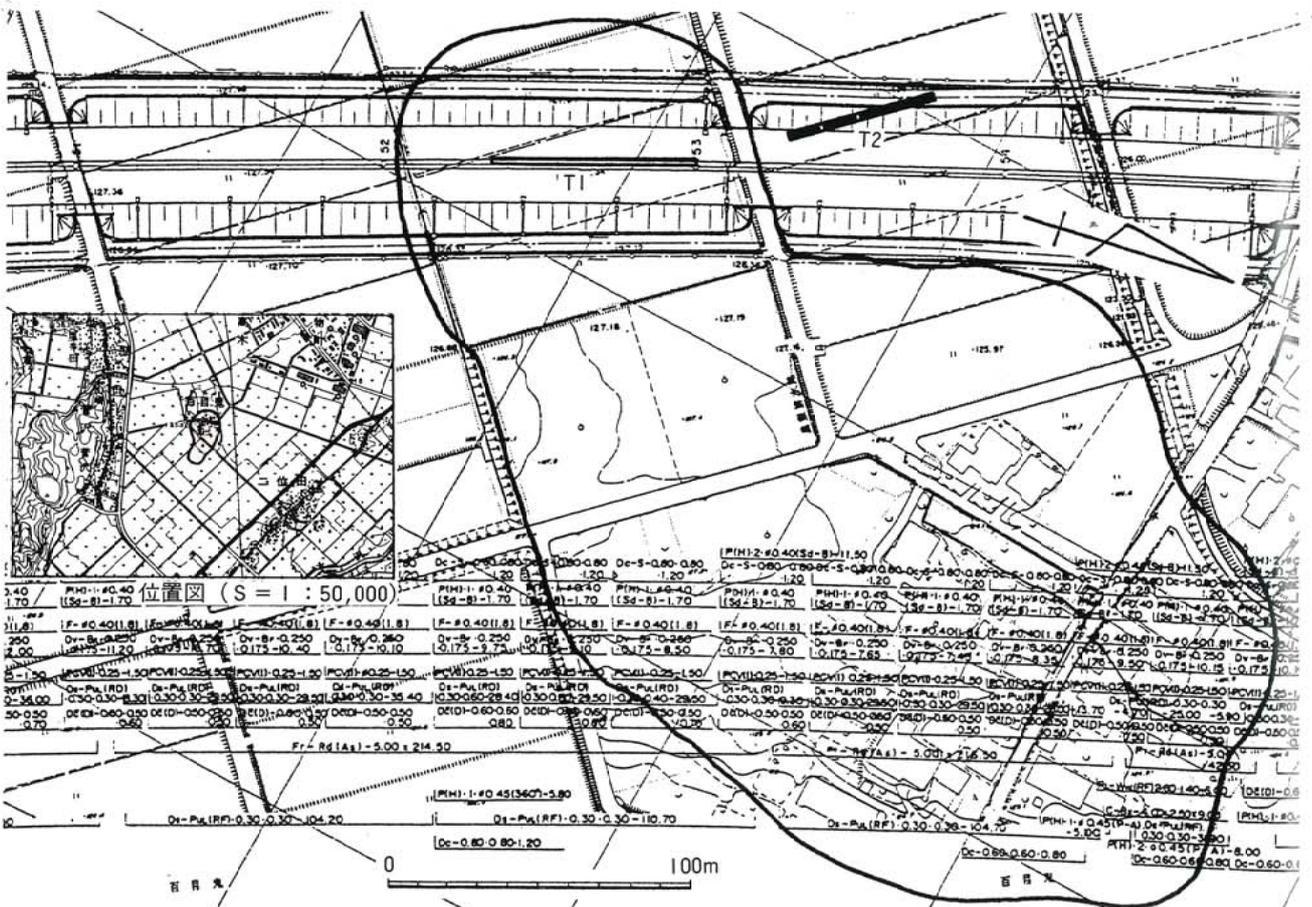
調査期日 B調査 平成9年11月28日

調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事(上山～東根間)

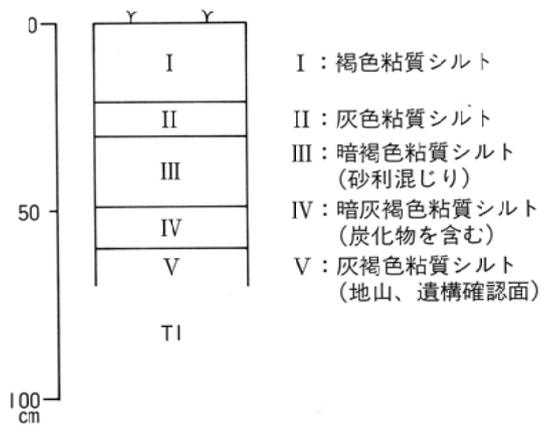
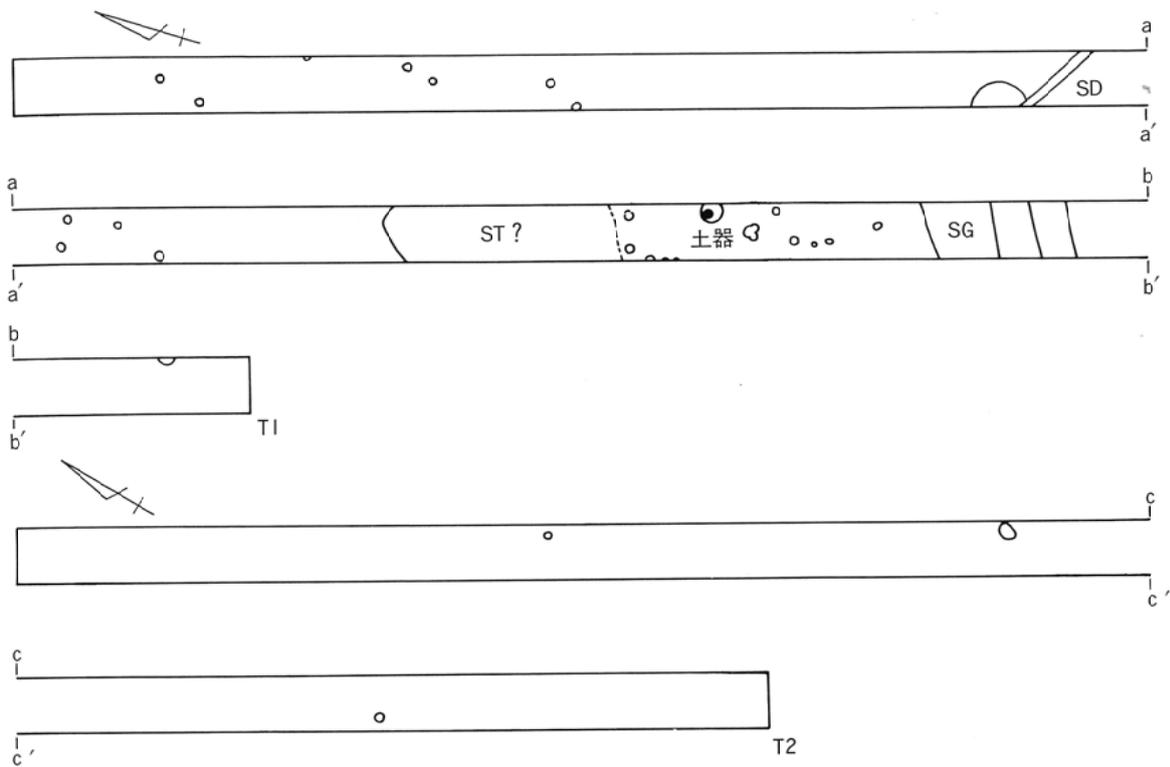
遺跡環境 遺跡は、山形市南西部、百目鬼地区南西側の水田・畑地・宅地に位置する集落跡である。遺跡西方は菅沢地区、南側は二位田地区、東側の須川左岸までは約1.5kmの距離である。この一帯は、須川左岸に広がる水田地帯で、遺跡はその中の自然堤防状の微高地に立地する。標高は127mを測る。推定遺跡範囲は、東西350m・南北200mが考えられる。

試掘状況 道路センター杭及び水田畦畔を基準にトレンチを2ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 全体的に遺構・遺物確認は少ない。T1中央南側で方形状と考えられる落ち込みが検出され竪穴住居跡と考えられる。また、柱穴・土壇も少し確認できた。遺構確認面は、深さ34～60cmを測る。T2は、砂利・砂利混じりシルト層が地山面であり、遺構はほとんどみとめられなかった。T1・2では、水田面段差約1mを測り、切り盛り整地によりかなり削平された状況が考えられる。出土土器は、土師器片少量である。時期は、出土土器により平安時代と考えられる。



第31図 百目鬼遺跡概要図



第32図 百目鬼遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡遠景（南から）



T1 遺構検出状況（南から）

図版35 百目鬼遺跡（1）



T1 遺構検出状況（南から）



T1 調査状況（北から）



T2 調査状況（南から）



T1 土層断面（西から）



出土遺物

図版36 百目鬼遺跡（2）

(19)萩原遺跡 (遺跡番号101)

所在地 山形県山形市大字長谷堂字萩原

調査員 B調査 名和達朗

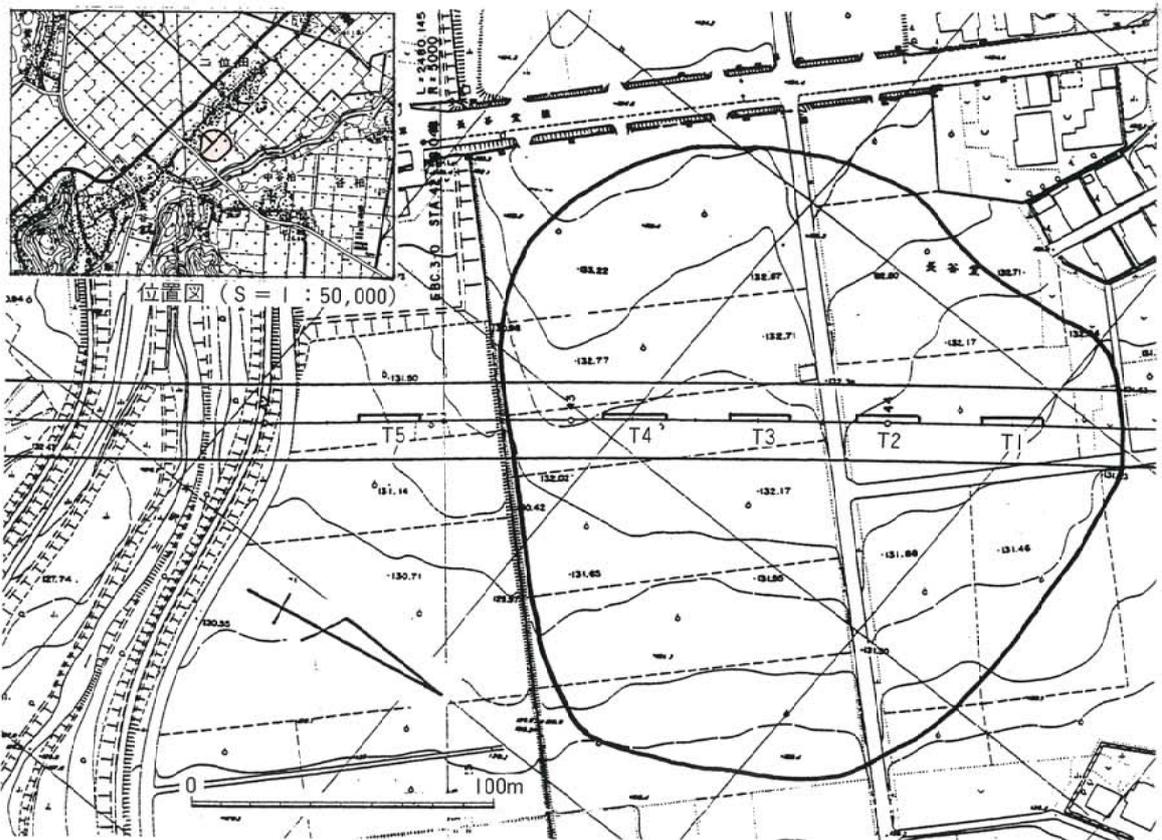
調査期日 B調査 平成9年11月27日

調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

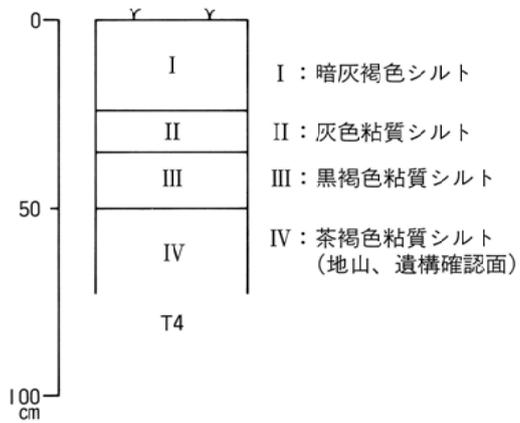
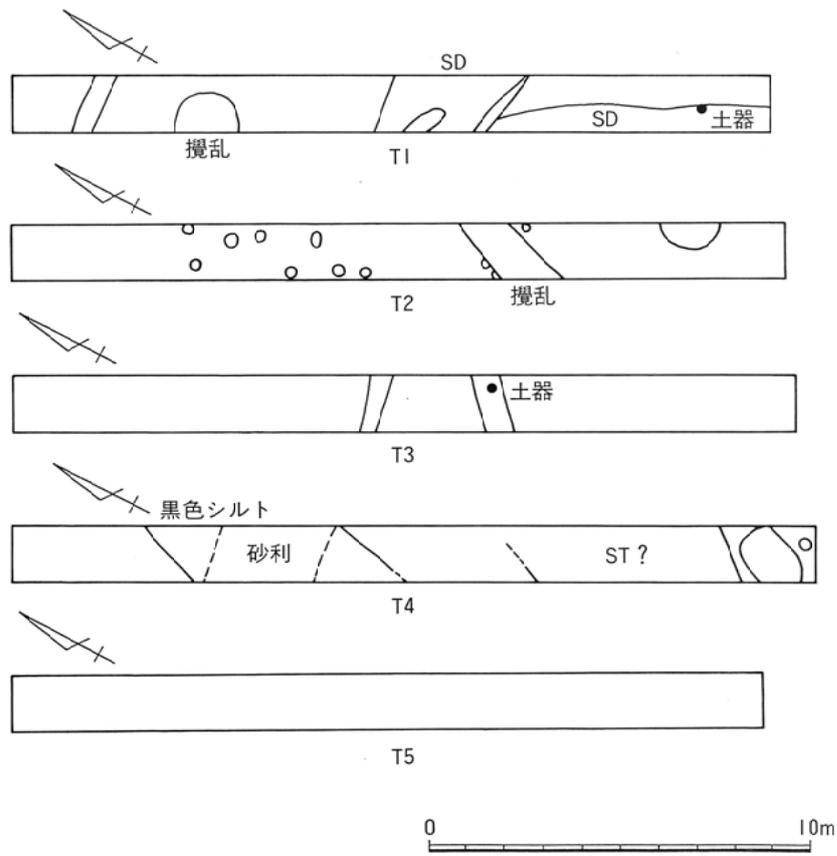
遺跡環境 遺跡は、山形市南西部、二位田地区南側の畑地 (果樹畑) に位置する集落跡である。遺跡南側は本沢川左岸沿いに広がり、その自然堤防状の微高地に立地する。標高は、132mを測る。遺跡範囲は、東西210m (推定)・南北200mが考えられる。

試掘状況 道路センター杭を基準にトレンチを5ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 遺構・遺物はT1～4で検出された。T5は、少し土器片がみつめられたのみである。T4では、斜め方向に幅約5mの黒色粘質シルトの落ち込みが検出され、推定平面形から竪穴住居跡の一部と考えられる。遺構確認面は、深さ35cmを測る。それらの状況により遺跡範囲は、T4と5の間の段差地形を考慮して、そこから北側の高まり地形を範囲として記録した。出土土器は、土師器・須恵器で比較的T4・5に多い。遺跡範囲の南側に遺構・遺物のまとまった分布域が推定される。時期は、これまでの出土土器により古墳～平安時代と考えられる。



第33図 萩原遺跡概要図



第34図 萩原遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡遠景（南西から）



T 4 調査状況（南から）



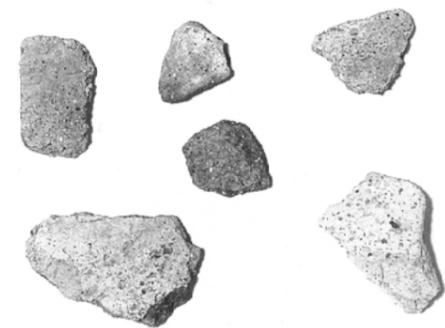
T 4 遺構検出状況（南西から）



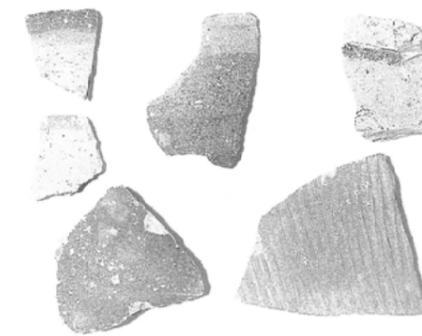
T 3 遺物出土状況（西から）



T 4 土層断面（西から）



出土遺物



出土遺物

(20) ^{やがしわ}谷柏 J 遺跡 (遺跡番号84)

所在地 山形県山形市大字谷柏

調査員 B調査 名和達朗

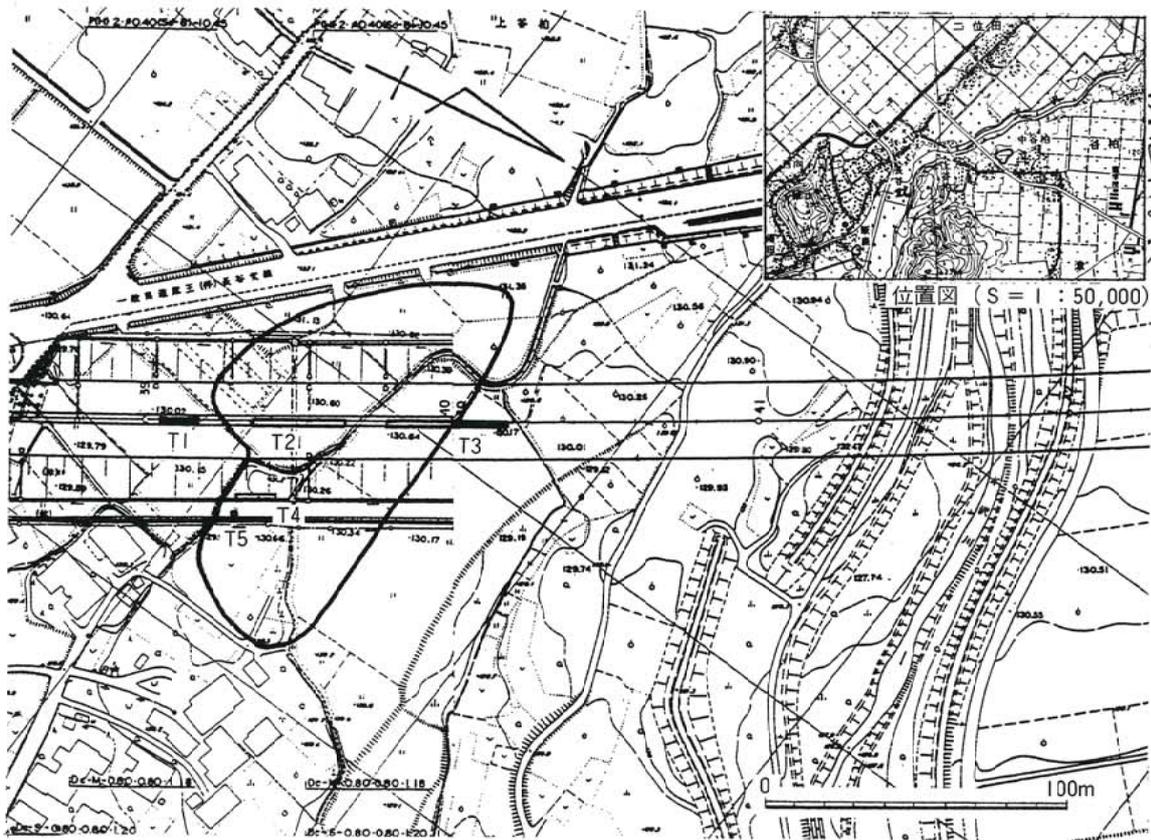
調査期日 B調査 平成9年11月26日

調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事(上山～東根間)

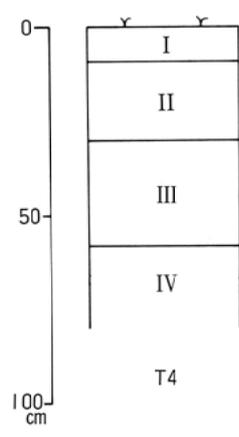
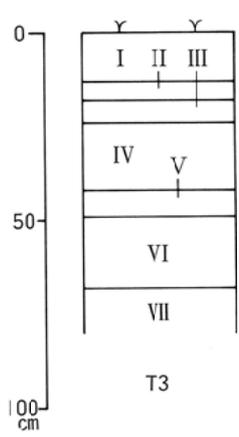
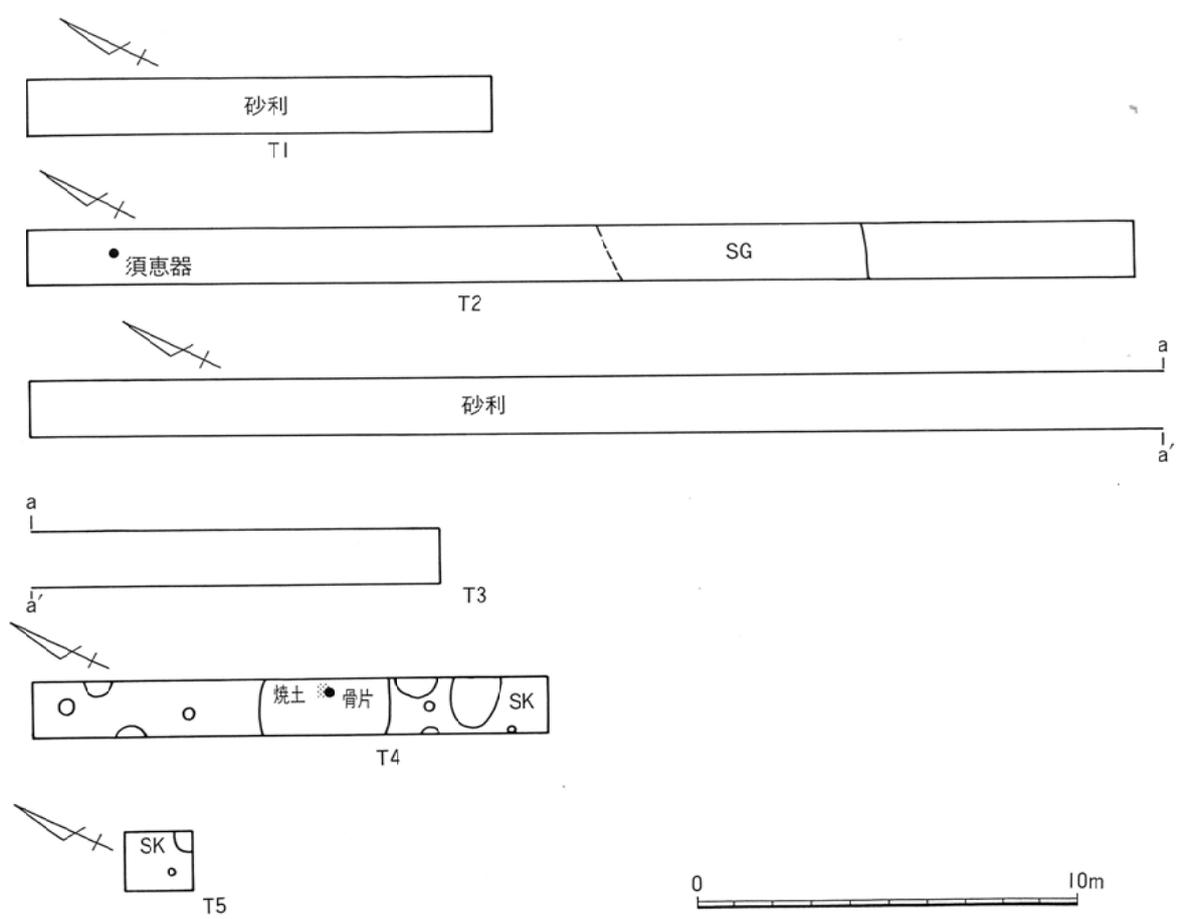
遺跡環境 遺跡は、山形市南西部、中谷柏地区北西側の水田・畑地に位置する集落跡で、本沢川右岸の自然堤防上に立地する。本沢川に架かるむつ橋から南東約200mの距離を測る。標高は、130mを測る。遺跡範囲は、東西110m(推定)・南北100mが考えられる。

試掘状況 道路センター杭を基準にトレンチを5ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 遺構は、畑地に位置するT4・5で検出された。T4では、中央部に竪穴住居跡と推定される円形状の覆土がみとめられ、焼土状の広がり骨片が検出された。また、柱穴・土壇も確認された。すぐ東脇のT5では、土壇の一部がみとめられた。遺構確認面は、深さ58cmを測る。T1は、砂利層の地山で遺構・遺物は確認できなかった。遺物は、T2・T3中央南側で土師器・須恵器出土した。但し、砂利混じり層からの出土で、小片である。遺跡の状況としては、東側畑地の区域に遺構群の広がりが考えられる。時期は、これまでの出土土器により縄文時代・平安時代と考えられる。



第35図 谷柏 J 遺跡概要図



- I : 灰褐色粘質シルト (水田耕作土)
- II : 灰褐色粘質シルト
- III : 灰色粘質シルト (砂利混じり)
- IV : 灰褐色粘質シルト (炭化物、砂利混じり)
- V : 暗灰褐色粘質シルト
- VI : 灰褐色粘質シルト (土器、炭化物を含む、礫混じり)
- VII : 灰色粘質シルト (地山、砂利を多く含む)

- I : 暗褐色シルト (畑地耕作土)
- II : 灰褐色粘質シルト
- III : 暗褐色粘質シルト
- IV : 砂利 (地山、遺構確認面)

第36図 谷柏J遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡遠景（北から）



T 2 調査状況（北から）



T 5 遺構検出状況（南西から）



T 3 調査状況（北から）



T 2 遺物出土状況（南から）



T 3 土層断面（西から）



出土遺物

(21)オサヤズ窯跡 (遺跡番号67)

所在地 山形県山形市大字松原字山ノ神、峯岸、郷ノ田

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年11月10日

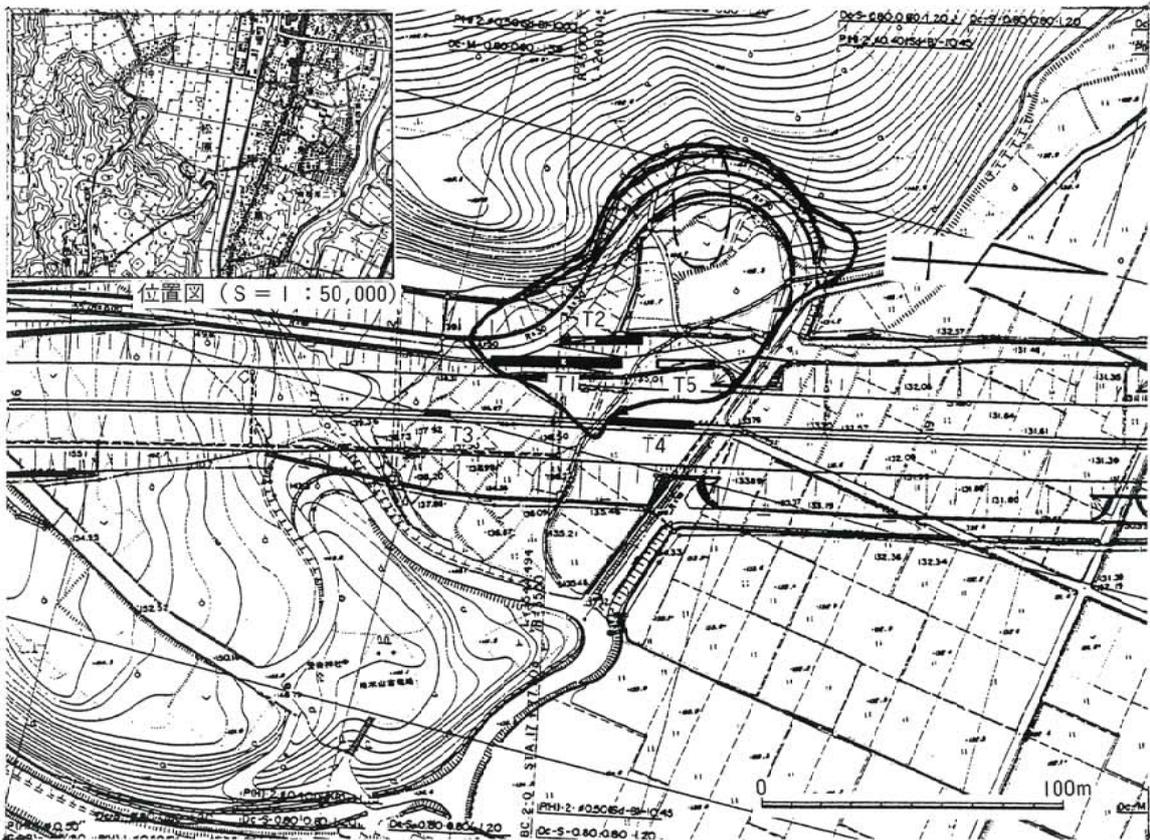
調査起因 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、山形市南部、松原地区南西方向、J R奥羽本線西側の丘陵北側斜面に立地する。蔵王駅からは、南西方向約1kmの距離を測る。平成8年度の分布調査で、以前に瓦が出土したとされる丘陵斜面から炭化物層の堆積が検出され (第37図波線部分)、聞き取りによる地点であることが確認された。地目は、山林・畑地・水田である。標高は、139mを測る。遺跡範囲は、東西90m・南北130mが考えられる。

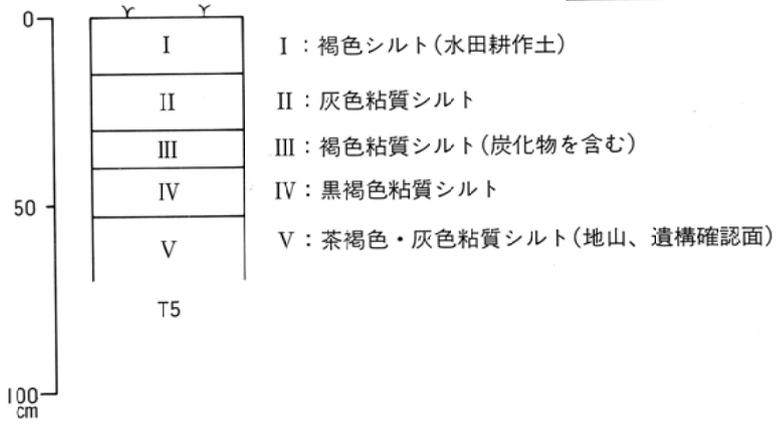
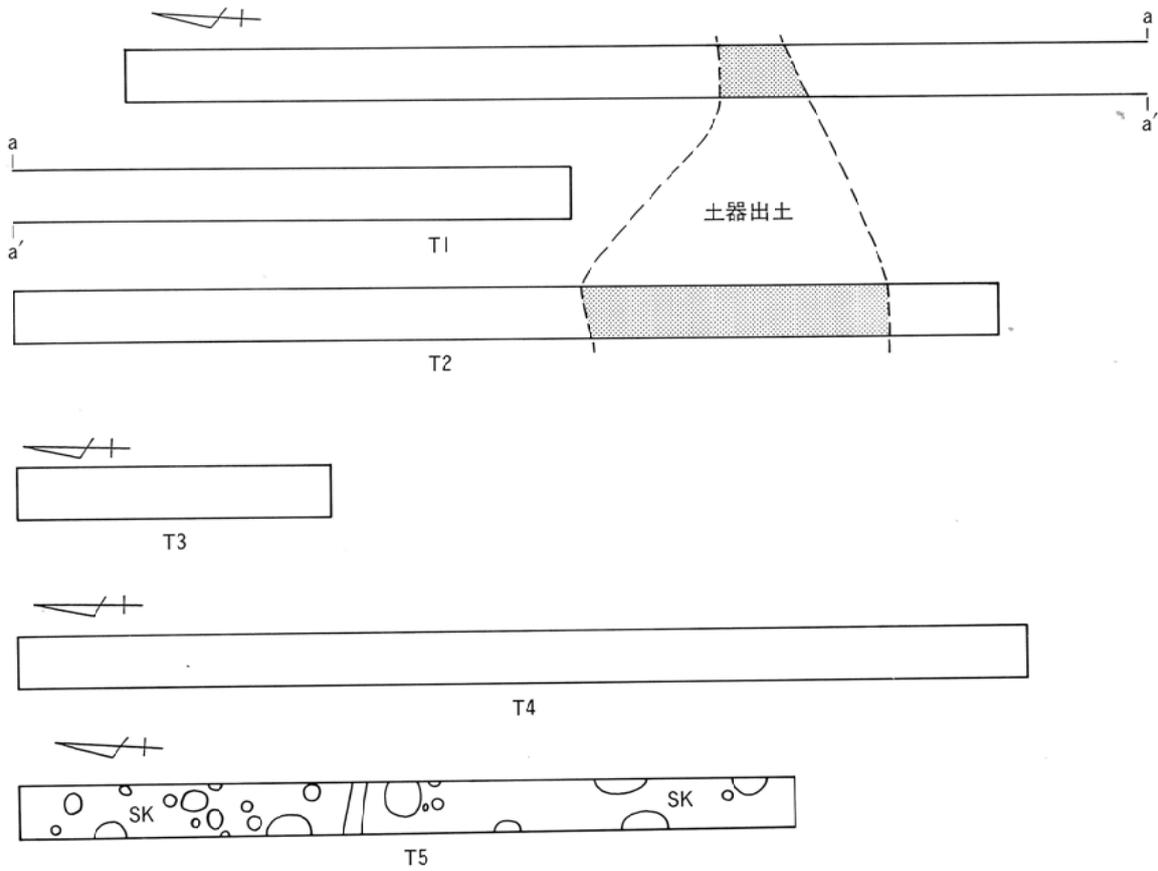
試掘状況 道路センター杭を基準にトレンチを5ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げた後、人力で面削りを行いながら遺構・遺物の分布状況を調査した。

調査結果 遺構は、水田部分のT5から土壌群・溝跡が検出された。確認面は、深さ53cmを測る。畑地部分のT1・2ではT1中央部からT2北側にかけて暗褐色・黒褐色土層がみとめられ、数点の縄文土器片が出土した。羽状縄文の特徴から縄文時代前期と考えられる。T3・4は、礫混じりシルトの地山層で、遺構・遺物は確認できなかった。

試掘調査後、(財)山形県埋蔵文化財センターでトレンチを52ヶ所設置して、より詳細に予備調査を行った結果、北側の丘陵から窯壁及び瓦が検出され窯跡の所在が確認された。遺跡の時期・種別は、出土土器により縄文時代前期の包蔵地、奈良・平安時代窯跡と考えられる。



第37図 オサヤズ窯跡概要図



第38図 オサヤズ窯跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景（南から）



調査風景（北東から）

図版41 オサヤズ窯跡（1）



T 5 遺構検出状況（南から）



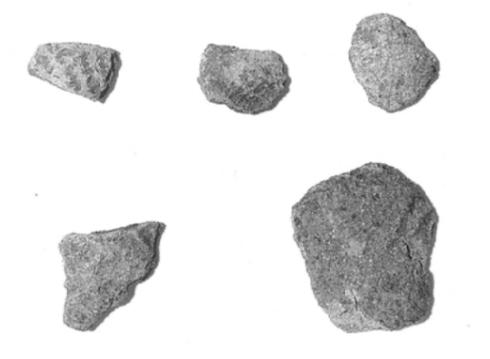
T 1 調査状況（北から）



T 2 調査状況（南から）



T 5 土層断面（西から）



出土遺物

図版42 オサヤズ窯跡（2）

(22) ^{うえの だい}上ノ代1、2遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県上市市大字川口字上ノ代

調査員 渋谷孝雄 名和達朗

調査期日 A調査 平成9年9月4日 B調査 平成9年9月16・17日

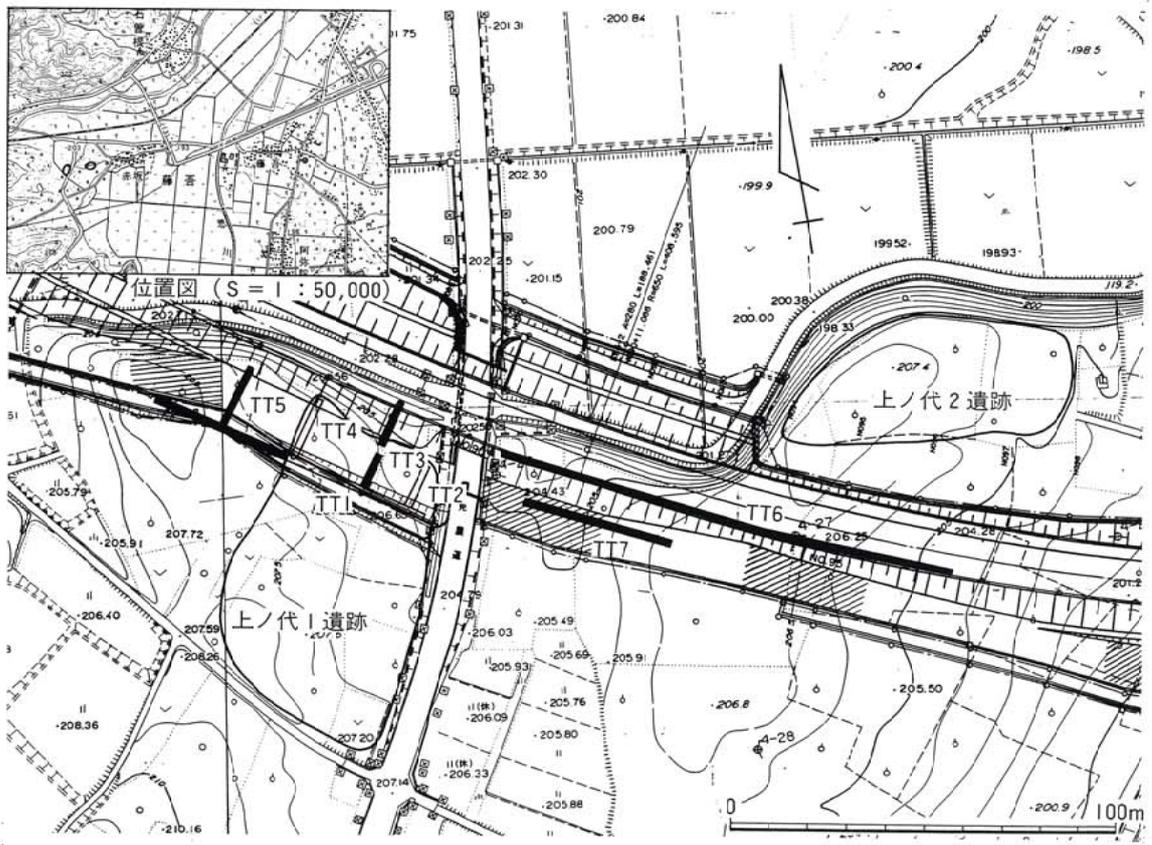
起回事業 国道13号上山バイパス建設工事

遺跡環境 JR奥羽本線上山駅の南西約3.5kmに位置し、前川の形成した河岸段丘上に立地する。標高は上ノ代1遺跡、2遺跡とも207m前後を測る。地目は畑地、果樹園となっており、9月4日の表面踏査で縄文時代の石器が採取された。事業が平成10年度から着工される予定となっていたため、急遽試掘調査を実施することとなったものである。

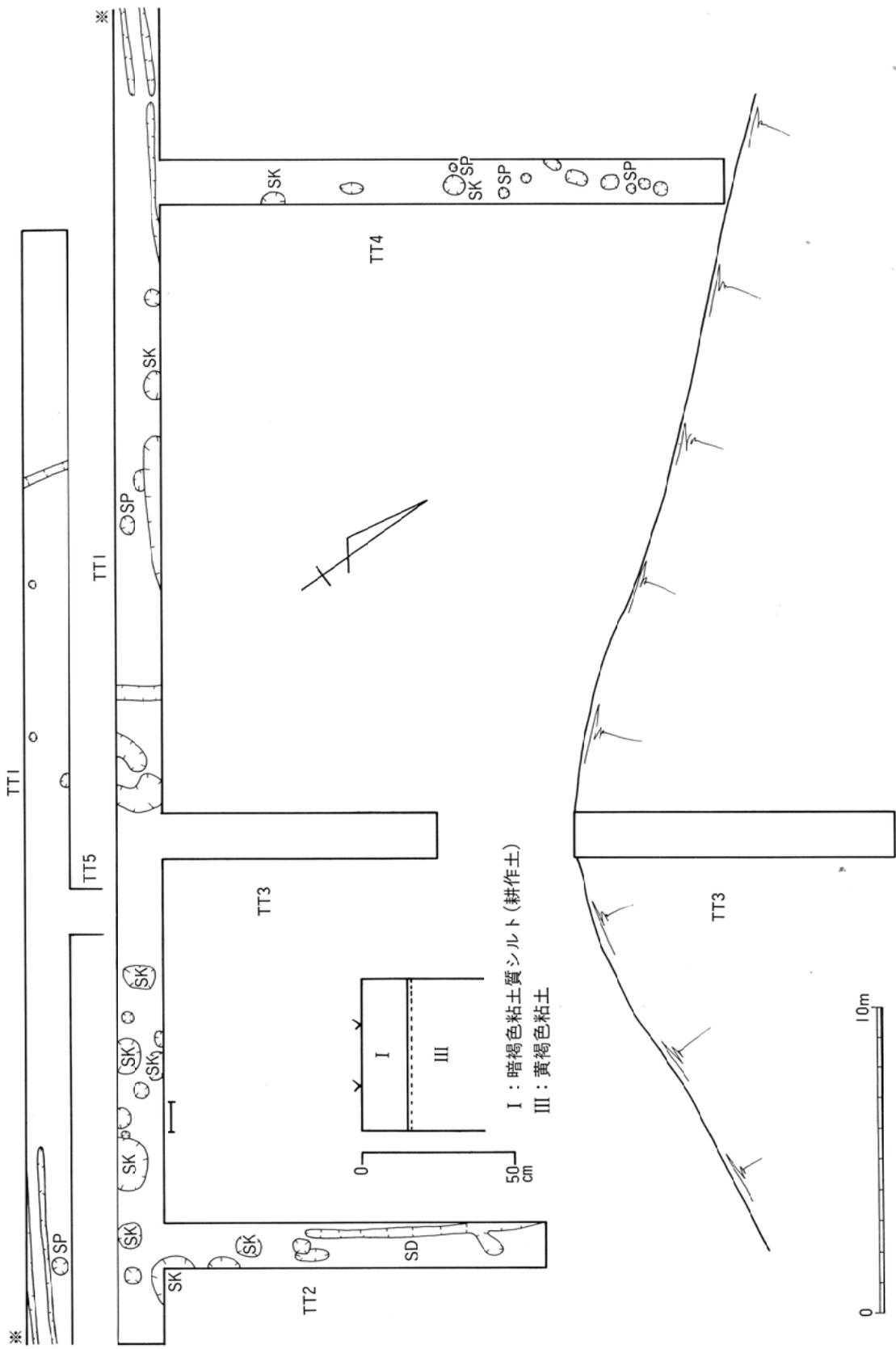
試掘状況 表面踏査の段階では農面農道を挟む両側で遺物が採取されたことから上ノ代遺跡として、路線内に7本のトレンチを設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 路線内では農面農道の西側の一部で土坑などの遺構が確認されただけで、東側からは遺構、遺物とも発見されなかった。また、調査の結果から旧地形を復元すると、東と西の間に沢が存在することも確認されたため、2遺跡に分けることが妥当と判断された。上ノ代1遺跡では10基余りの土坑と柱穴が検出されたが、遺物は土器の細片が1点と削器1点、剥片数点に留まった。路線内の面積は800㎡である。

上ノ代2遺跡は石鏃、石匙、剥片等が採集されたが、路線内の試掘調査では遺構、遺物とも未検出で結果的に路線内には入らないとの結論に至った。



第39図 上ノ代1・2遺跡概要図



第40図 上ノ代I遺跡検出遺構平面・断面略図



上ノ代1・2遺跡遠景（北西から）



上ノ代1遺跡TT1全景（西から）



上ノ代1遺跡TT1東半部遺構検出状況（西から）



上ノ代1遺跡TT1遺構検出状況（東から）



上ノ代1遺跡TT2遺構検出状況（南から）

図版43 上ノ代1・2遺跡（1）



上ノ代1遺跡TT3南部全景（南から）



上ノ代1遺跡TT4遺構検出状況（南から）



上ノ代1遺跡TT5全景（南から）



TT6西半部全景（東から）



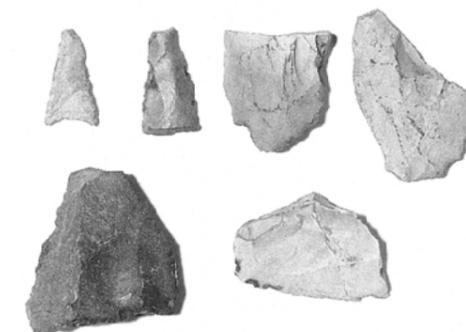
TT6東半部全景（西から）



TT7全景（東から）



上ノ代1遺跡出土遺物



上ノ代2遺跡採集遺物

図版44 上ノ代1・2遺跡（2）

(23) ^{なかやまじょう}中山城跡、^{まえもり}前森、^{うえのやまたて}上ノ山橋跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県上山市大字天守山、上郭、新町他

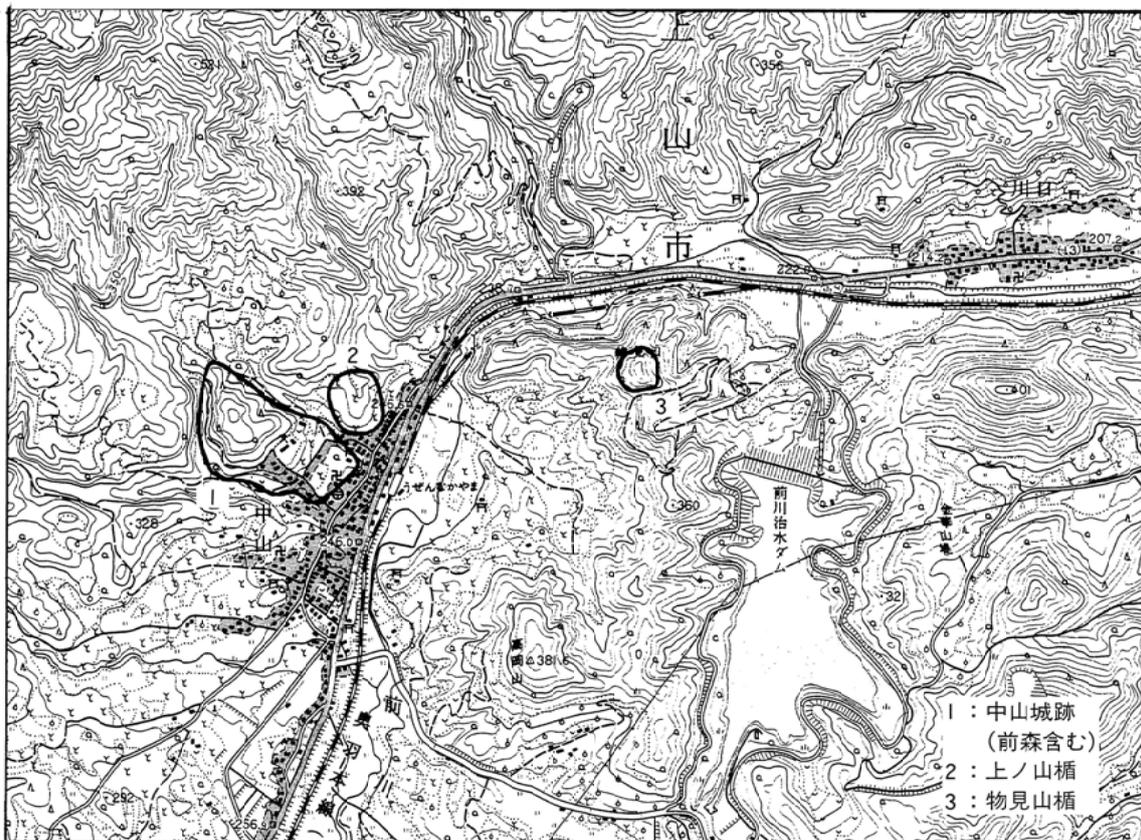
調査員 渋谷孝雄 荒木公一

調査期日 A調査 平成9年9月4、10日 B調査 平成9年12月15～18日

起回事業 国道13号上山南バイパス建設工事

遺跡環境 中山地区は現在上山市となっているが、昭和32年までは東置賜郡に属しており、中近世を通じて置賜の北端にある要衝の地であり、中山城は境目の城として置賜勢力にとって重要なものであった。中山城跡はJR奥羽本線中山駅の北西約600mに位置し、西と北を深い谷に囲まれた独立丘陵の山頂部に本曲輪をもつ山城である。前森は中山駅の西200mにあり、中山城の南の独立丘陵に築かれた山城、上ノ山橋(2)は前森の谷を挟んで北の丘陵突端に所在する。また、中山城の本曲輪から東北東に1.3kmの山頂部には村山盆地南端の出口を見張る物見山橋(3)が築かれている。

遺跡の概要 中山城跡は標高343.9mの天守山の山頂に本曲輪をもち、北西から東方と南方に入り込んだ深い谷によって、周囲から隔絶された独立丘陵に築かれており、本曲輪の南東に二の曲輪、その北東部に三の曲輪を配した連郭式の山城である。本曲輪には石垣を持つ天守台が設けられている。中山城跡の東側の標高285.4mの独立丘陵は前森と呼ばれており、東西30m、南北60mの頂部平場を取り囲むように帯曲輪が配されている。上ノ山橋は片倉山の山麓が南に突き出た半島状の丘陵に階段状帯曲輪を配している。



第41図 中山城跡と周辺の城館跡位置図

18日

賜郡に属してお
として置賜勢力
mに位置し、西
森は中山駅の西
の谷を挟んで北
には村山盆地南

から東方と南方
り、本曲輪の南
輪には石垣を持
森と呼ばれてお
る。上ノ山楯は



第42図 中山城跡、前森、上ノ山楯跡縄張図・トレンチ位置図

試掘状況 今回の試掘調査は中山城跡と前森の間の狹窄部に国道13号線のバイパスが計画されたため、予定路線内の遺構・遺物の分布状況を把握して事業との調整資料を得るために実施した。

この狹窄部は家中と呼ばれ、中世から近世初頭に機能していた中山城が廃され、上杉藩の御役屋がおかれた以降、北辺の防御にあたった武家屋敷があった地区であるが、バイパス計画路線内に中世や近世初頭に遡る遺構や遺物が存在するのかが一つの焦点となるものと考えられた。試掘調査は地権者の大石 了氏の御協力を得て、手掘りによるトレンチ方式とし、幅1.5～2m、長さ3～10mのTT1～TT7を設定して遺構確認面までの掘り下げを行った。なお、調査対象地区は中央部に南北の道路があって全体的に東西に2分され、家中の各屋敷毎に整地を受けた区画となっており、その後の整地も行われている。**調査結果** 南北道路の東側の北端の区画に設置した南北トレンチのTT1では南北の溝跡1条とピット1基が検出された。遺構確認面までの深さは南部で54cm、北部で30cmである。遺物は近代の磁器片が数点出土した。

南北道路の西側に設置した東西トレンチのTT2では礎石の一部とみられる礫と中央部で不整形な落込みが検出された。深さ40cmで遺構確認面となる。近世後半、近代の染め付け磁器が出土している。

予定路線外に設置したTT3は地山面が南東側に傾斜している。おそらく、近世の所産とみられる礎石建物の据え方が4基検出された。据え方から片口の石鉢が出土した。

TT4では遺構が検出されなかったが、近、現代の陶器と磁器が出土した。

TT5は2×8mの南北トレンチで中央部で偏平な角礫が検出され、土坑や不整形な落込みが多数検出された。焼土や土間の三和土とみられる硬い面が北部に存在することから家屋の跡と考えられる。近世の陶器、磁器と近代の磁器が出土した。

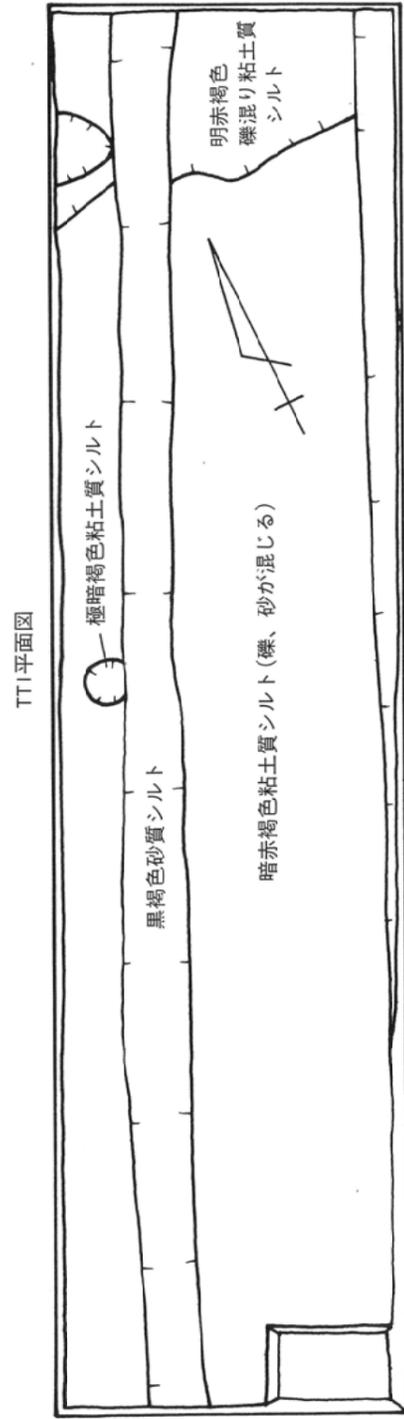
TT6は家中の南部に設定した東西トレンチで東側には盛土の整地層が分布する。落込みやピットが検出されたが遺物は出土していない。

TT7は南北道路の東側に設置した南北トレンチで、このトレンチだけは3枚の整地層の存在が認められた。ただし、遺構の存在が認められたのは第3整地層を除去した現地表下75cmの地山面だけで第2、第3整地層上面では遺構の存在が確認できなかった。地山面では角礫が検出され、ピットや落込みの一部、土坑も検出されたが、この層位でも近世後半の染め付けの磁器が出土しており、遺構群の時期は中世までは遡らないものと判断される。

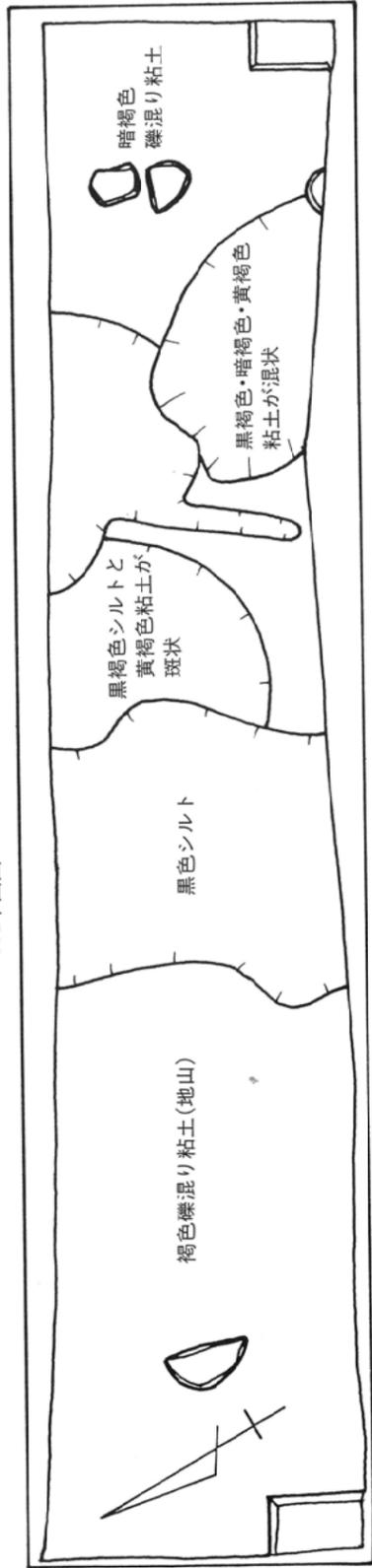
今回の試掘調査ではバイパスの計画路線外となるTT3の石鉢が中世に遡る可能性を持つものの、路線内に設置した各トレンチでは主として近世後半以降の遺物しか出土しなかった。検出された遺構も確実に中世から近世初頭まで遡ると断定できるものはなく、中山城が機能していた時期の遺構や遺物は検出されなかったといえることができる。

したがって、中世から近世初頭の中山城に伴う遺構は計画路線となる家中地内には残っていないものと考えられる。

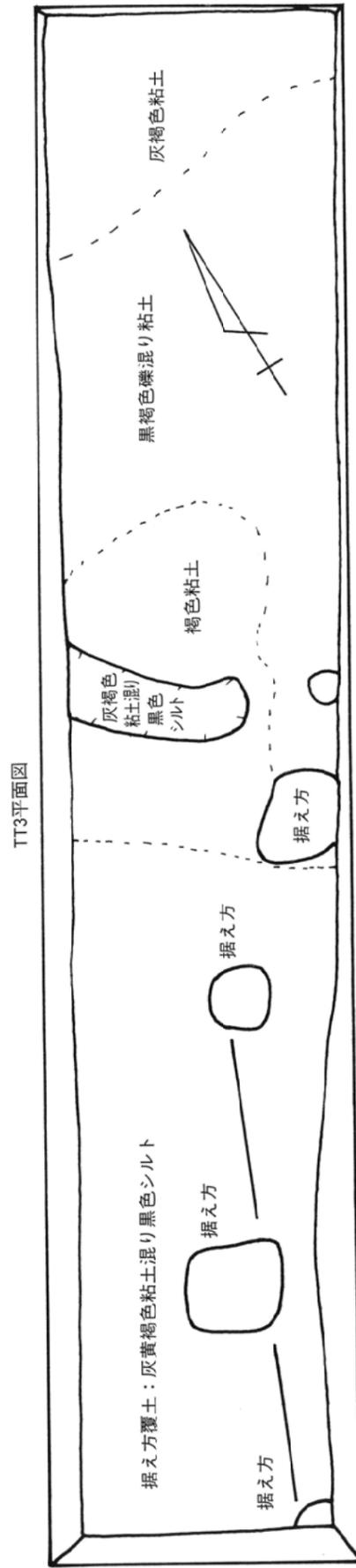
第43図 中山城跡試掘溝平面図(1)



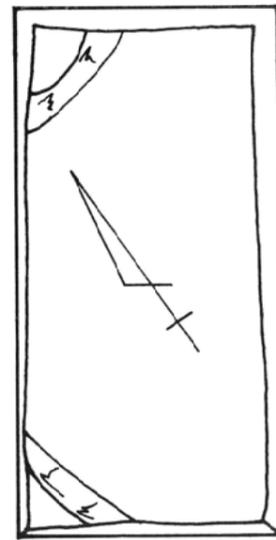
TT2平面図



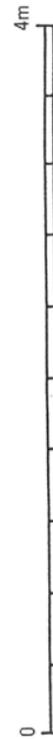
第44図 中山城跡試掘溝平面図(2)

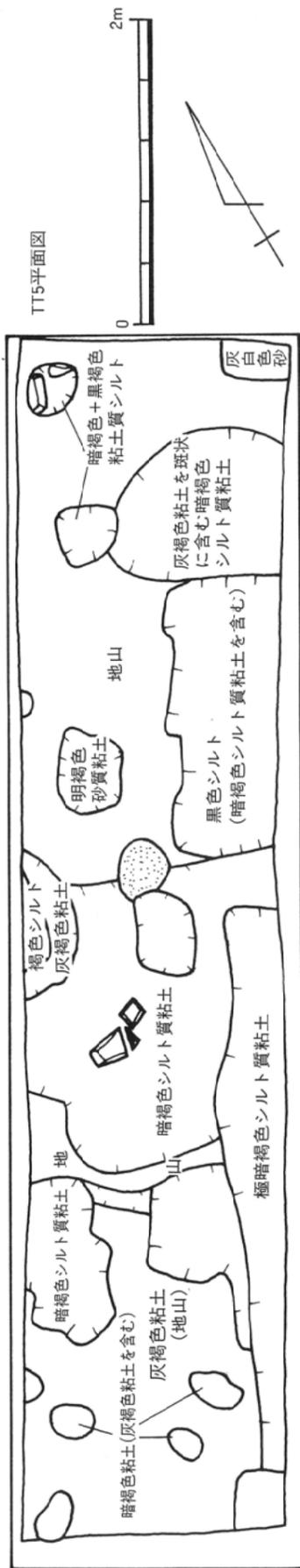


TT7北壁土層柱状図

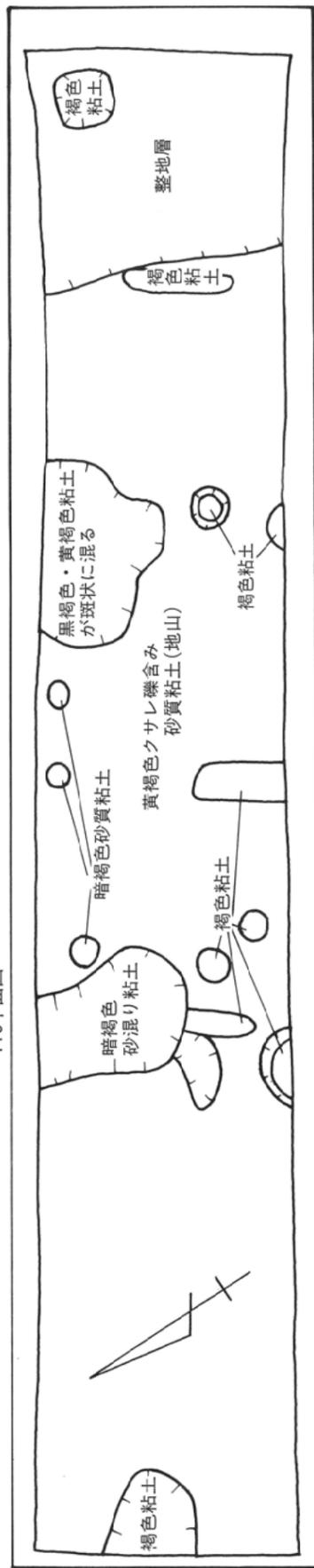


- I : 暗褐色粘土質シルト(表土)
- II : 暗褐色粘土質シルト+明褐色礫混りシルト(第1整地)
- III : 暗褐色シルト質粘土(炭化物を多量含む)
- IV : 黄褐色粘土(第2整地)
- V : 暗褐色シルト質粘土
- VI : 灰白色粘土+黄褐色粘土(第3整地)
- VII : 極暗褐色粗砂(地山)

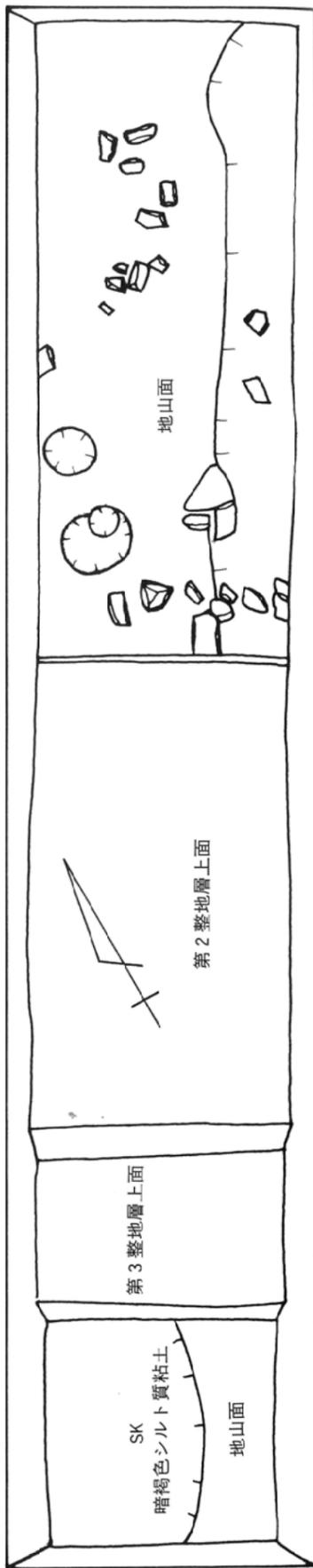




TT5平面図



TT6平面図



TT7平面図

第45図 中山城跡試掘溝平面図(3)



中山城跡遠景(南東から)



中山城跡本曲輪天守台石垣(西から)



中山城跡本曲輪西辺土塁(北から)



中山城跡二ノ曲輪(北から)



中山城跡三ノ曲輪(西から)

図版45 中山城跡他(1)



前森近景 (南西から)



前森南西部曲輪群 (西から)



前森北西部曲輪群 (西から)



前森頂部 (北から)



前森東部曲輪群 (東から)

図版46 中山城跡他 (2)



上ノ山楯跡近景 (南西から)



上ノ山楯跡西斜面曲輪群 (北西から)



上ノ山楯跡南斜面曲輪群 (南東から)



上ノ山楯跡南東斜面曲輪群 (南東から)



上ノ山楯跡東斜面曲輪群 (北東から)

図版47 中山城跡他 (3)



中山城跡家中屋敷近景（北から）



中山城跡家中屋敷南部近景（東から）



中山城跡家中屋敷中央南近景（東から）



中山城跡家中屋敷中央北近景（東から）



中山城跡家中屋敷北部近景（北西から）

図版48 中山城跡他（4）



中山城跡T T 1 遺構検出状況（南から）



T T 2 遺構検出状況（西から）



T T 2 礎石検出状況（南から）



T T 2 落込み検出状況（西から）



T T 3 調査状況（北西から）



T T 3 石鉢出土状況（南東から）



T T 3 全景（北西から）



T T 3 遺構検出状況（西から）

図版49 中山城跡他（5）



TT 4 全景 (南から)



TT 5 遺構検出状況 (北から)



TT 5 遺構検出状況 (南から)



TT 5 南部遺構検出状況 (東から)



TT 5 中央部遺構検出状況 (東から)



TT 6 遺構検出状況 (西から)



TT 6 土坑・柱穴等検出状況 (南東から)



TT 6 東端整地層検出状況 (南から)

図版50 中山城跡他 (6)



TT 7 全景 (南から)



TT 7 北壁土層断面 (南から)



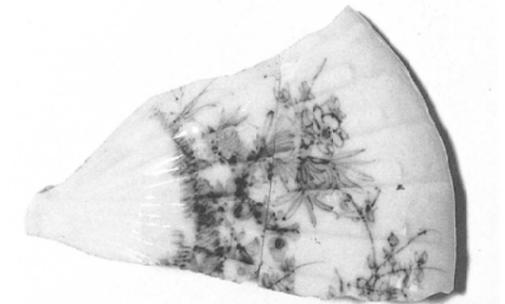
TT 7 北半部遺構検出状況 (南から)



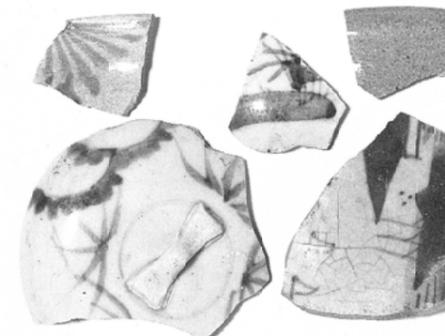
出土遺物 (1)



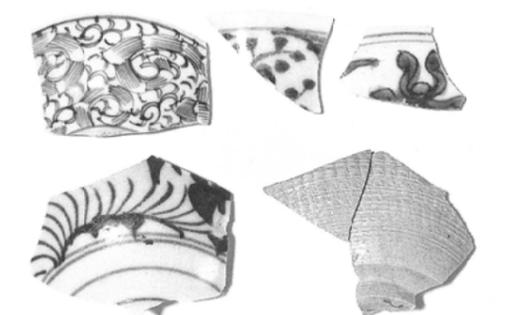
出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)



出土遺物 (5)

図版51 中山城跡他 (7)

(24) 飛泉寺跡遺跡 (昭和55年小国町史跡指定)

所在地 山形県西置賜郡小国町大字市野々

調査員 長橋 至

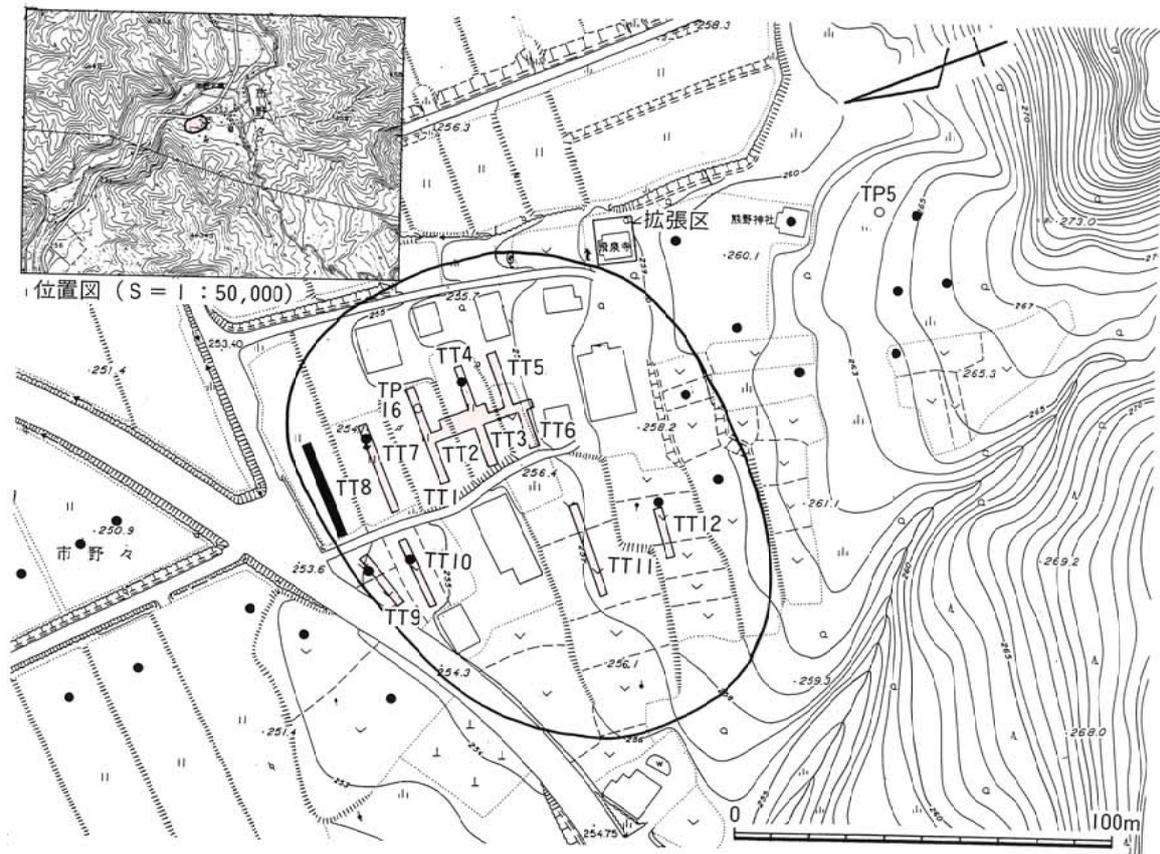
調査期日 平成9年5月12～14日 11月11～12日

起因事業 横川ダム建設事業

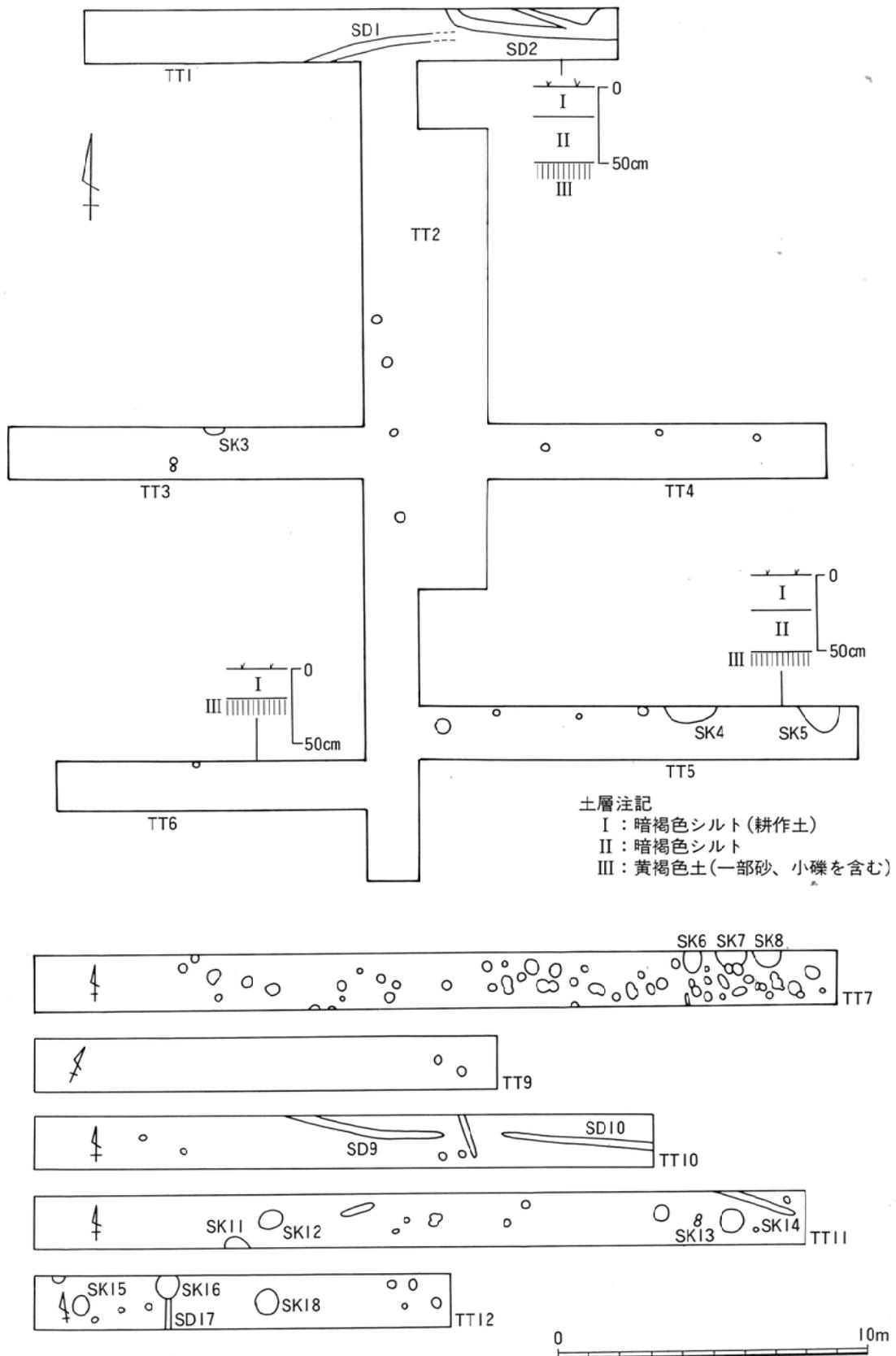
遺跡環境 遺跡は市野々地区内の山麓と横川の間、河岸段丘上の緩傾斜地に立地する。本遺跡北側約500mには平成9年度に(財)山形県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた縄文時代の集落跡の市野々向原遺跡・野向遺跡が所在している。本遺跡については、平成8年度に小国町指定史跡「飛泉寺跡」がダム水没区域に入るため、現地調査(表面踏査・一部試掘調査)を実施している。同時に実施した飛泉寺跡周辺の試掘調査により時期不明の遺構が検出されたため、追加調査を今年度実施した。

試掘状況 飛泉寺跡とされる寺院跡10×11mの拡張区と寺院跡北西部緩斜面一帯約100m四方の範囲について幅1.7m、長さ14～30mのトレンチを合計で12本設定した。

調査結果 飛泉寺跡とされる拡張区では、遺構は検出されなかった。近代の所産とみられる石組みが検出されたにとどまる。寺院北側のTT1～TT6では溝状遺構・柱穴、TT3～6では土壌と柱穴が検出された。TT7では径20～30cm程の柱穴が数多く検出された。TT10では溝跡と柱穴、TT11・12では土壌・柱穴・溝跡等が検出された。これら遺構の時期は不明である。遺跡範囲は東西140m・南北110mと推定される。



第46図 飛泉寺跡遺跡概要図



第47図 飛泉寺跡遺跡検出遺構平面図



遺跡近景（西から）



T T 7 遺構検出状況（西から）

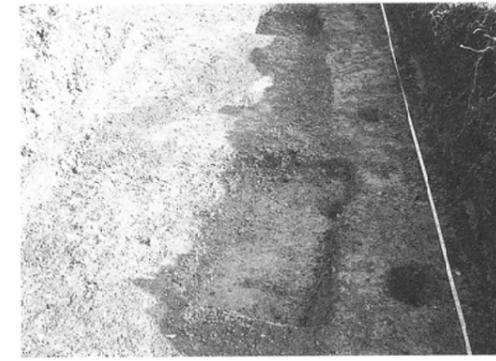
図版52 飛泉寺跡遺跡（1）



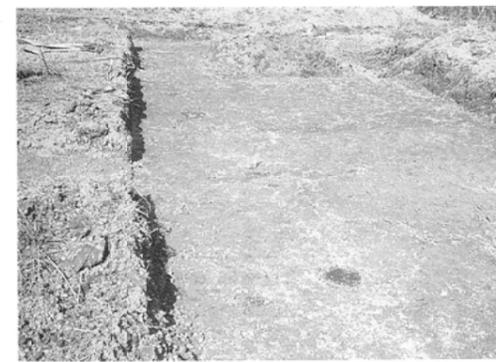
T T 12 遺構検出状況（西から）



T T 1 東側遺構検出状況（西から）



T T 1 東側遺構半裁状況（西から）



T T 2 拡張区遺構検出状況（北から）



飛泉寺跡拡張区（西から）

図版53 飛泉寺跡遺跡（2）

こかのみす
(25)小葉水遺跡 (遺跡番号1,427)

所在地 山形県西置賜郡小国町大字叶水字小葉水

調査員 長橋 至

調査期日 平成9年11月10日

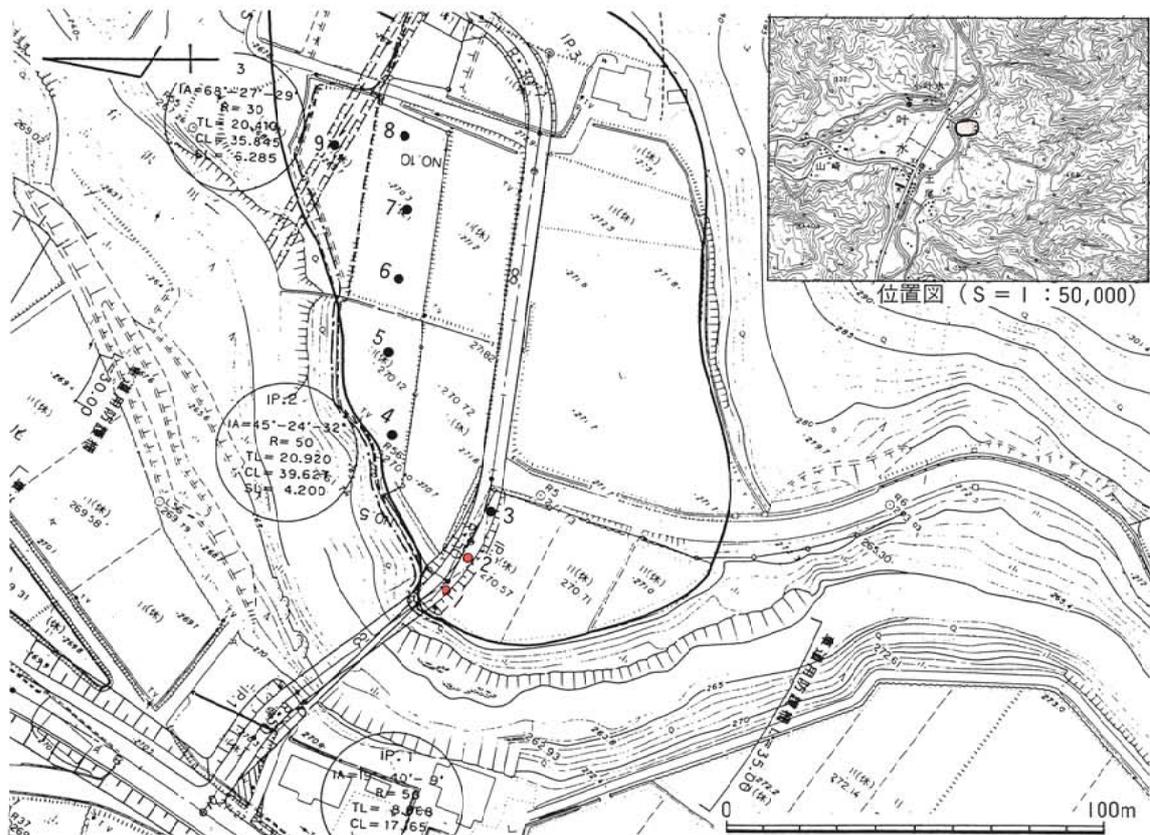
起因事業 横川ダム建設事業

遺跡環境 遺跡は横川右岸の河岸段丘上、東側は山麓、西側は横川に画される平坦部に立地する。地目は畑地・水田・一部宅地と道路となっている。

試掘状況 今回の調査は、横川に架かる橋梁（現つり橋）に接続する道路拡幅予定部分（TP1～3）と危険水域となる区域（TP4～9）について9カ所の試掘坑を設定し、人力で掘り下げ遺構遺物の分布状況を確認した。

調査結果 TP1で石器（打製石斧）が1点出土した。遺物包含層は未検出である。打製石斧は地山直上から出土した。長さ14.5cm・基部幅2.5cm・刃部5.5cmのバチ形の形状をしている。遺物はこの1点の出土である。TP2では土壌1基が検出された。TP3では遺構遺物は未検出であった。危険水域の試掘坑では遺構遺物は未検出である。水田部分については、過去の基盤整備により大半が破壊されたものと推測される。

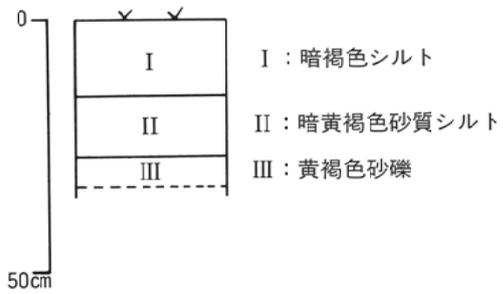
今回は、事業区域により試掘坑が限定されたため、遺跡の範囲については現状のままとする。なお、道路拡幅予定部分については、工法や事業実施地区の状況に応じ、適切な保存措置を講ずる必要がある。



第48図 小葉水遺跡概要図



遺跡近景（南から）



T P I 土層柱状図



T P I 土層断面（東から）



T P 2 検出遺構（西から）



出土遺物

(26) ^{いちのつぼ}一ノ坪遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県山形市大字漆山字一ノ坪

調査員 渋谷孝雄 名和達朗

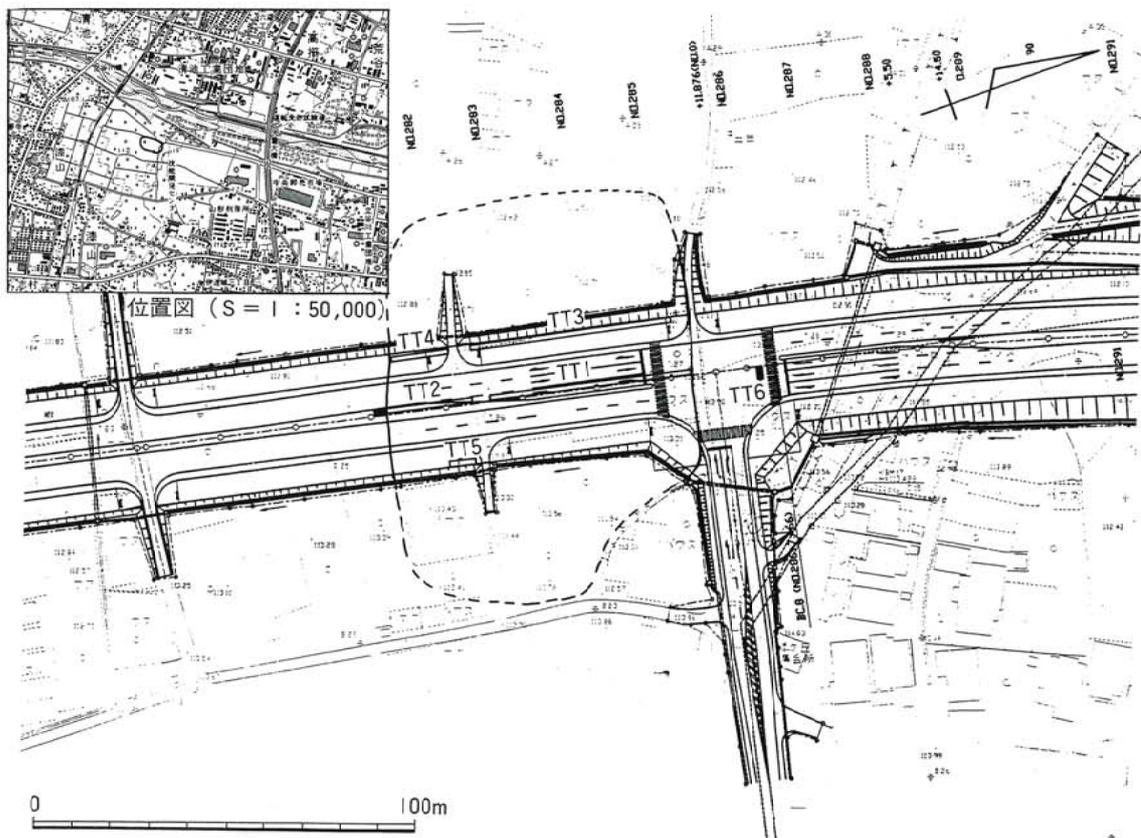
調査期日 A調査 平成9年11月7日 B調査 平成9年12月26日

起回事業 主要地方道山形天童線漆山工区

遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線漆山駅の北東700mに位置し、立谷川右岸の自然堤防上に立地する。標高は113m前後を測り、地目は果樹園となっている。11月の表面踏査で遺物の散布が確認され、12月に事業との調整のための試掘調査を行った。

試掘状況 試掘調査はバックホーを使用した。センターに沿ってTT1、2の2本のトレンチ、西側の用地幅杭の内側にTT3、4の2本のトレンチ、それに東側の内側にTT5、TT1から27mの位置にTT6を設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 TT1の北部で土坑や溝跡が検出され、南部で柱穴と不整形な落込みが検出された。TT2では溝跡1条と柱穴1基が、TT3では北部で溝跡、南部で柱穴群が検出された。TT4では竪穴住居跡と見られる土色変化とピット群が、また、TT5では土坑が2基検出された。TT6では遺構、遺物とも検出されなかった。遺構検出面はTT1、3ではIV層、そして、TT2、4、5ではV層となる褐色砂質シルト上面である。遺跡の範囲は路線内で南北80mに及ぶが東西の範囲は明確にできない。遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕、赤焼土器の坏等が出土しており、平安時代の9世紀代の所産と考えられる。



第49図 一ノ坪遺跡概要図



遺跡近景 (北東から)



遺跡近景 (南から)



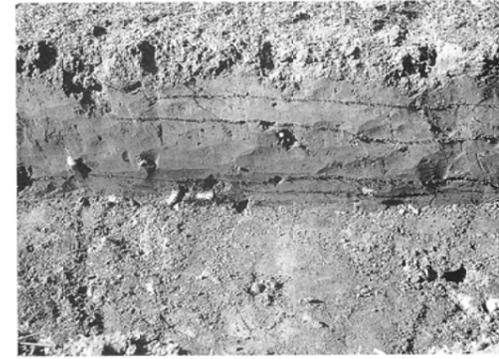
T T 1 全景 (南から)



T T 1 土坑検出状況 (南西から)



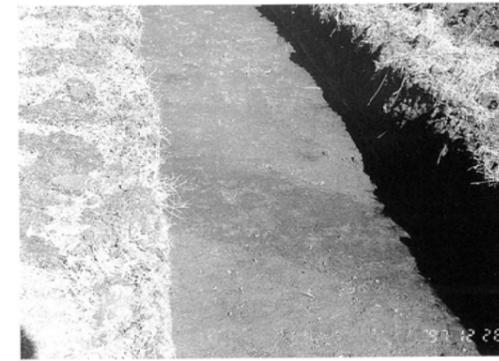
T T 1 柱穴検出状況 (南から)



T T 1 土層断面 (西から)



T T 2 全景 (南から)



T T 2 溝跡検出状況 (西から)

図版55 一ノ坪遺跡 (1)



T T 3 全景 (南から)



T T 3 ピット検出状況 (南東から)



T T 4 遺構検出状況 (南から)



T T 4 竪穴住居跡検出状況 (南から)



T T 4 土層断面 (西から)



T T 5 土層断面 (南から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

図版56 一ノ坪遺跡 (2)

(27)梅ノ木遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県山形市大字漆山字梅ノ木

調査員 渋谷孝雄 名和達朗

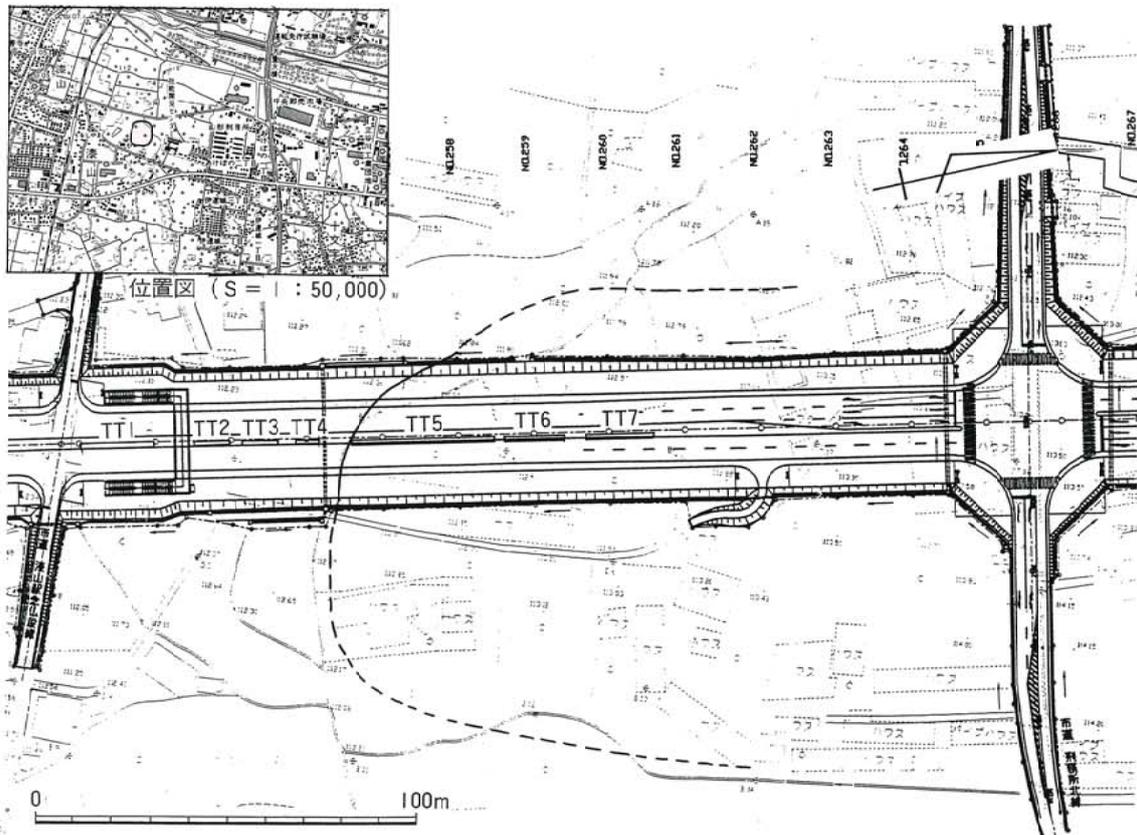
調査期日 A調査 平成9年11月7日 B調査 平成9年12月25日

起因事業 主要地方道山形天童線漆山工区

遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線漆山駅の東方500mに位置し、南面する緩やかな斜面に立地する。地目は果樹園となっている。標高は113m前後を測る。11月の表面踏査で遺物の散布が確認され、12月に事業との調整のための試掘調査を行った。

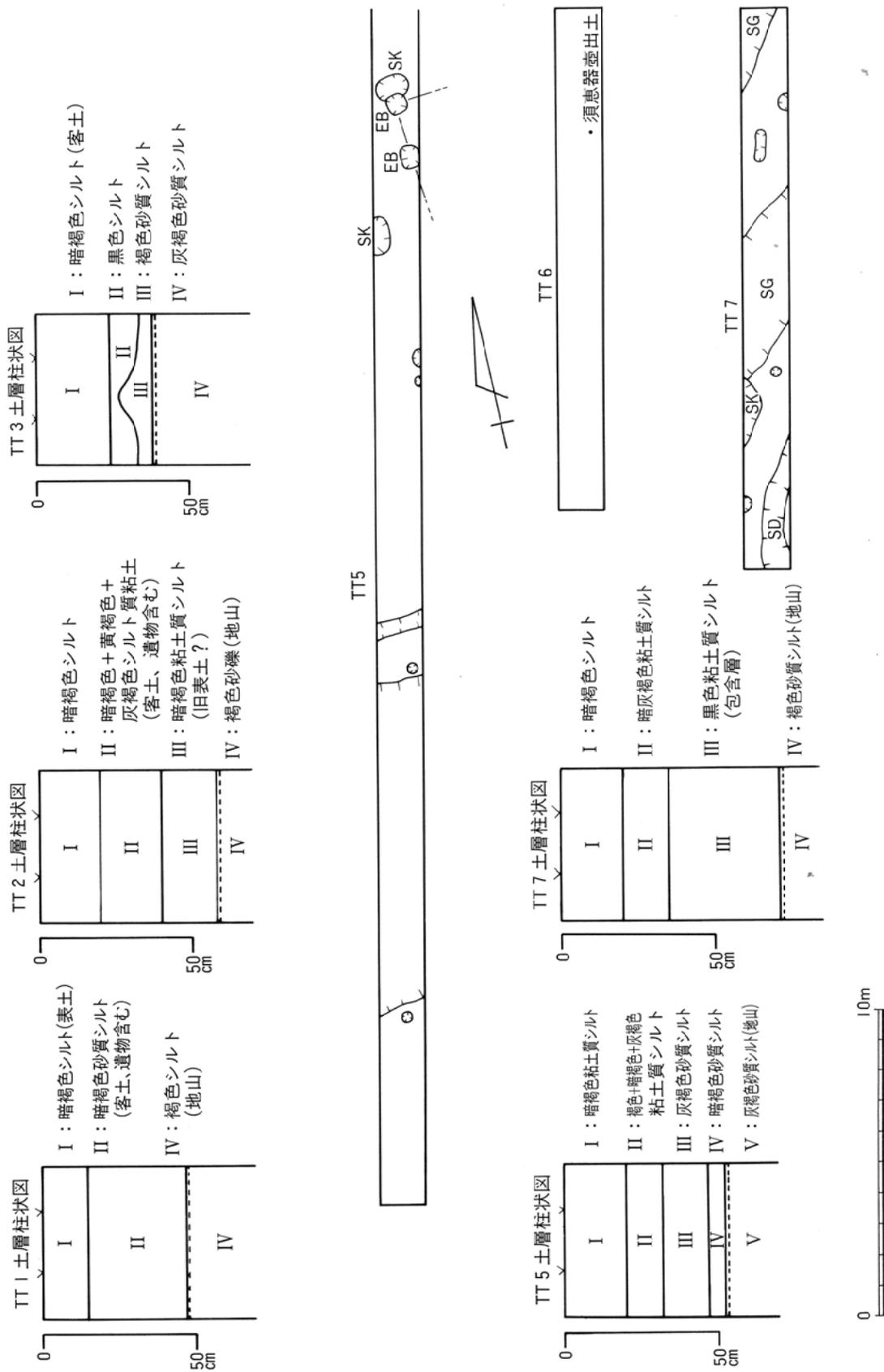
試掘状況 試掘調査はバックホーを使用した。11月の調査で遺物が採集された南部から北に向かってセンターに沿ったTT1から7の7本のトレンチを設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 TT1から4の各トレンチでは赤焼土器、須恵器の小破片がII層を中心とする上部から出土したが地山面では遺構が検出されなかった。地元の聞き込みによって当該地域は客土で畑地化をはかったもので、以前は水田だったということが明らかとなり、平安時代の遺物は客土と共に搬入されたものと考えて矛盾はない。やや高くなるTT5以北では土坑や溝跡、掘り方等の遺構が検出された。遺跡の範囲はさらに北側に延びているものと考えられるが用地が未買収であったため、この地域については次年度以降に再調査が必要となる。遺物は奈良～平安時代の須恵器、土師器、赤焼土器が出土している。



第51図 梅ノ木遺跡概要図

第52図 梅ノ木遺跡検出遺構平面図・断面図





遺跡近景 (南から)



T T 1 全景 (南から)



T T 2 全景 (南から)



T T 3 全景 (南から)



T T 4 土層断面 (南東から)

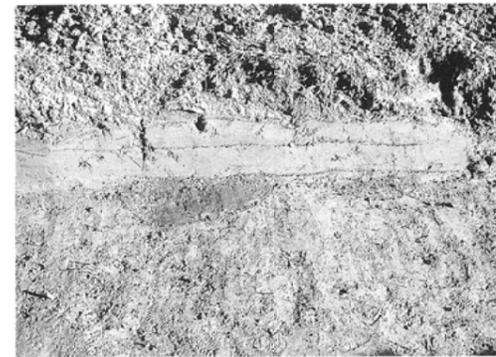
図版57 梅ノ木遺跡 (1)



T T 5 全景 (南から)



T T 5 北半部遺構検出状況 (南から)



T T 5 土層断面 (西から)



T T 5 掘り方検出状況 (北西から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)

図版58 梅ノ木遺跡 (2)